
誰にでも書ける小論文の指導

江端義夫編

広島大学教育学部国語文化教育学研究室

誰にでも書ける小論文の指導

The teaching methods on the papers
which everyone can write

江端義夫編

editor: Ebata Yoshio

平成 16 年 2 月

February 29, 2004

広島大学教育学部国語文化教育学研究室

Hiroshima University, Faculty of Education, Japanese-Culture Course

はじめに

親しい友達との「おしゃべり」では、時間を忘れて語り合うのに、大勢の人々の集まった場所で、まとまった話をするという場面になると途端に、恥じらいためらって口をつぐんでしまう。こういう人が少なくない。子供達の普段の様子を見てみると、冗談を言って人を飲ばせる人が好まれ、真面目な人が敬遠されている。例えばテレビの人気タレントでも、冗談を飛ばして人を笑いに誘う人が好まれ、誠実な役柄の人が話題に上らない。言い換えれば、冷静かつ理知的で理詰めの事態に対して高い価値を置く考えが無いことを意味していると言ってよいだろう。また、知的社会の未成熟さを示して余りがあるとでも言えようか。このように感性を気儘なままに放置して、理性を軽んじる現状を、憂えている。これでは、キレる若者が増える現状から脱出できないのではなかろうか。理性的な人間を増やし、理路整然と物事を処理していく子供を増やしたいと思う。

理性的にもの言うことが大事にされる国語教室が全国各地で普通に行われるようになれば、キレる子供が自然に少なくなっていくのではなかろうか。ものごとの論理的な叙述に価値があるという姿勢を初等教育段階から教えて行かなくてはならないだろう。理知的なものに、高く評価を置く風潮を日頃から育成していく努力が要るであろう。理性的なものの言い方を大事にする実践を心がけていくようにしたいものである。地道な繰り返しにより、価値観の転換を導いて行かなくてはならないと思われる。とかく、日本的風土とか言って、情緒好みを日本人気質にまとめあげてきた悪弊がある。従来日本人論のマヤカシに甘んじていては、進歩は無い。知的な反省と理性重視によって、情念に偏りすぎる国語科の授業を見直すべき時期が来たのである。

もう一つ、具体例を挙げよう。「口答え」という語がある。返答という意義なのだが、教育現場では、先生の教えに背いたり、反抗したり、「揚げ足をとったりする」ことを意味している。つまり、コミュニケーション作用の一部であるところの「口答え」が、「反抗の弁」というマイナスの意味に使われているのである。日本における教室が、先生の言葉を一方的に生徒に伝える機構でしかない経緯を物語っている。対等な応答とか、相互の会話という次元で捉えられてはいないのである。一段高い位置から先生が、教材についての解釈を一段低い位置の生徒に向かって、伝達していく機構としてしか、位置づけられていない暗喩が見える。従って、日本の教室では、ディスカッションが成立しにくいのである。「口答え」という語句を無くしていく努力、つまり、先生も生徒も一緒になって、自由な国語教室を創造していく努力を粘り強く、行っていかなくてはならないのである。

幸いなことに、実社会からの要求で、「手紙の書ける子を育ててほしい」とか「報告書や企画書の書ける子を育ててほしい」とかの要求が、出てきた。役に立つ国語力

を高校現場にも求める風潮が見え始めた。いわば、実用日本語への期待である。社会一般から遠い教育現場でも、やっと、実用日本語への理解が芽をだしてきた。まだまだ、センター入試は、名文の解釈と鑑賞に留まっているけれども、早晚、時代の空気を感ぜざるを得ないであろうと思われる。

今後の国語科の中心課題は、何か。それは、「小論文を書く国語授業」が中心に置かれるであろうという予測である。または、「説得文を書く国語授業が中心になるであろう」と思う。今までのように、名文や詩歌を味わうだけの似非文芸家の真似をやらせてきた国語教室ではダメである。「一億総詩人」の養成を暗に目標にしてきた従来の国語教室の誤謬を人々が感じ取るようになったのである。

美辞麗句を並べたエッセイ文よりも、簡潔で科学的な生活文が書ける方が、成績の良い子であるという評価が定着しなくてはならない。理知的で筋道の通った文が書ければ、ノーベル賞に値する科学的な小論文が書けることを知らせなくてはならない。技巧的な文や巧みな比喩に塗り固められた文が書けるのが、国語科の仕事だとは考えない方がよい。下手な文章でも、簡潔に中身がしっかり押さえてある用意周到な文章が良いのだ、と教えていくことの方が大切である。

本冊では、「小論文教室」と「記録文・企画文教室」との二つの演習を学生たちと一緒に研究し、指導案まで、書かせた。試行錯誤の指導案ばかりではある。まだまだ、未熟な指導案に違いない。それでも、新鮮な意欲が感じられ、ほほ笑ましくなることは確かである。是非、諸賢にご一読いただき、今後、論文指導や記録文指導がどんどん盛んになる上での参考にしていただきたいと切に希望している。

理知的な国語教室の発展のため、理性的な国語授業の建設のために、ご尽力をお願いいたします。

(江端)

平成16年2月19日

目次

はじめに

第1章 誰にでも書ける小論文

- 第1節 「文学的文章指導」から「鑑賞文指導」へ、そして「説明的文章指導」から「説得文指導」へ -----江端義夫(1)
- 第2節 小論文即説得文指導の実践 -----江端義夫(9)

第2章 自分の意見や自分の主張を大切にしたい小論文が書けるようになる

- 第1節 四段論法を三段論法に替えれば、こんなに筋道が通るようになる
-----三島 淳(19)
- 第2節 図解を用いたり数式に代えたり抽象化を用いて理解の仕方を幾重にも組み替えることによって説得力を強化する書き方ができる
-----春名聡子(41)
- 第3節 ディベートをしないでディベートを想定した説得文が書けるようになる
-----津田佳奈子(61)
- 第4節 キザな哲学的用語で武装した哲学的な文章による小論文と平易で稚拙な文章による小論文との比較訓練により誰にでも小論文が気楽に書けるようになる
-----村上 暁彦(77)

第3章 記録文や報告文を書く生活を毎日の生活の中に活かす

- 第1節 「記録魔」と言われる人間の育成へ---大村はま・柳田国男・藤原与一・野地潤家先生は優れた記録魔だった
-----村上暁彦(95)
- 第2節 記録文「アカテガニの大打進」に学び、周辺の観察を通して記録文を書く
-----津田佳奈子(111)
- 第3節 「聞き書きを書く」のは記録文と物語文との総合行為だ---「看護婦、それはやりがいのある仕事」に学んで
-----春名聡子(123)
- 第4節 報告文(レポート)・企画文を積極的に学校現場に導入する試み---社会ではこれらの文種を書く機会や場面が頻繁にあるのに学校現場では極めて少ないのは、おかしい。
-----三島 淳(137)

おわりに

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

第一章 誰にでも書ける小論文

第一節 「文学的文章指導」から「鑑賞文指導」へ、そして「説明的文章指導」から「説得文指導」へ

江端義夫

1. 「鑑賞文」の指導及び「説得文」の指導を推進しよう。そして、「文学的文章」の指導、「説明的文章」の指導という語句を廃止しよう

例えば、教科書に載っている教材を大きく二つに分類して、一つを「文学的文章」とし、他方を「説明的文章」とに分ける。変だなど思いながら、この分け方に従ってきたのが大方の例ではなかろうか。少し考えてみると、「的」の文字で繋いで、熟語を作った「文学的文章」とは何だろうか、と問われると、返答に困ってしまう。「文学」そのものならば、「的」の文字は要らない。そこで、国語教室では、文学の手ほどきをするのが目的ではないので、「的」の文字を入れて、「文学的文章」にするのだ、と納得することになる。しかし、「的」を使って、芸術性を重視していることを排除してはいないと弁明したことになっている。誤魔化した言い方なのである。

他方の「説明的文章」はどうであろうか。例えば企画の説明書や器機を使用する手順が書かれたマニュアルならば、完全に「説明文」と言って良いであろう。例えばデジカメの使用の仕方が説明された文章に従って操作すれば、写真が撮影できたとする。その文章は、正に説明文であり、ガイディング・センテンスである。「的」の文字は要らない。

ただし、「説明的文章」と日本で言い習わしている場合には、例えば毎日刊行される新聞の文章をも含まれている。しかし、新聞の文章は必ずしも「説明」を旨とした文章だけとは限らない。むしろ、新聞の文章は「記録文」であり、事実の記録が目的である。解釈を取ってする必要がある場合には、立場の違う Aさんと Bさんとの意見を併記することで形式を整える。だから、新聞の文章を「説明的文章」の中に含める現在の国語教育界の非常識は、早速、改めていかななくてはならない。その他にも、意見文や評論文をも「説明的文章」の中に含ませているのも問題である。現状は、極めて便宜的な分類になっている。子供達が実際の文章に触れた時には、相当の違和感を抱くのではないかと心配している。

その原因は、国語教育界にあるのではない。戦後の国語学が国語教育と袂を分かち、学問のための学問へと突き進んだことに最大の原因がある。他方、国語教育界も独自の国語教育実践ばかりに研究の進路を向けた。両者は、互いに喧嘩腰になり、互いの

架け橋を作ろうとはしてこなかった。現在も国語教育界では、学問としての独自の世界、領域、体系を求める努力に懸命なのである。それは、自分のお城を作らなくてはならなかった経緯から理解できる。しかし、犠牲になったのは、子供達なのである。

子供たちの為に国語教育用語の真剣な定義をするという動きは管見によるかぎり、見られない。かつての西尾実氏、時枝誠記氏、藤原与一先生、遠藤嘉基氏らによる国語教育界への卓見は、昭和 40 年代を境にして消えてしまった。観念論だけが残り、理と情の国語教育とか、文章の研究とかで啓蒙的な発言はあったが、実質は何も無かった。国語学が科学に向かい、チョムスキー旋風が吹き、比較言語学の隆盛の波にもまれたために、人間本位で曖昧な国語教育は、場違いなものと思われざることもなかった。昭和 40 年代で国語教育は科学的な歩みを停止した、と筆者などは受けとめている。その代わりに、国語教育界では、心理主義が取り入れられた。認知とか代表的な実践者の称揚とかで、行為者の賞賛に力を入れた。国語そのものを厳しく見つめるのではなく、教育活動や運動を讃えることで、一つの世界を築く努力をしてきた。これもあって良いことだとは思ふ。記述主義と言うこともできるだろうか。資料を繋ぎあわせて書き付ければ、書き手の解釈が出て、歴史考察になりうるからである。歴史研究の型、実践記述の一応の型というものを眺めてきたのであった。

しかし、先に指摘したように、昭和 40 年代で、本物の国語教育は停止した、と筆者は感じている。国語を見極める進歩が停止した「国語教育用語の研究」は、その後も、全くそのままなのである。筆者の不勉強によるのかと思われるけれども、市川孝氏や永野賢氏のような架け橋の仕事をする研究者が、殆ど輩出していないのである。国語学と国語教育との間の溝があまりにも大きく隔たり過ぎてしまった。例えば、国語学の若い研究者は、国語教育に全く関心を寄せない。逆にまた、国語教育の若い研究者も、どんどん先鋭化していくアメリカ的な国語学について行けない。モダリティーとかアスペクトとかの文法用語が訳語なしで飛び交う。横文字を嫌う世界では、尚更に忌避してしまう。挙げ句の果てに、国語学が消え、日本語学に吸収されることになってしまったのである。国語教育がすすむべき学問的な会がついに、消えてしまった。不幸なことである。いま、言葉の教育としての国語教育と呼ばれてきたのに、「国語」のことで、国語の具体を親しく問い合わせる国語学会が無くなってしまった。

さて、国語科学と子供研究と実践法の統合が緊要なのである。子供達を主体に置いて、文章を書かせる段になったときには、用語の検討から始まって、国語教育での蓄積にも目配りし子供の発達にも気配りしつつ本当の国語教育が求められているのである。それに気づいて欲しいと真剣に考えて訴えたいのである。

しかし、誰も忙しい。研究者は、論文作りや成果主義に追われて、余裕が無い。実践者は、毎日の多忙な実践と報告書作りに追われて理想を追う余裕が無い。いろいろな事情があって、現在がある。そういうものだ。

戦後及び昭和40年代以降に、国語教育黄金時代があった。国語教育学を目指して、懸命な努力が見られた。しかし、本当に必要な国語力とは何か、という根本的な命題を考えないで来たしわ寄せが見られる。最近、そのことに、気づくようになった。確かに、国語教育学者が育ち、個体史、実践史、指導論も優れたものが多数、刊行されている。いわゆる業績が出ている。ただ、本当に子供達の国語の力は、伸びたのであろうか。

たとえば、一つの教材について解釈と鑑賞をすれば、それで十分に時間はかかる。国語の力を子供達につけてやったことにはなる。それ以上に何を詮索するのか、と言うことであろうか。大事なことが欠けていないだろうか。それは、その教材を使って、子供達に何を教えたいのかという目的観の問題である。言い換えれば、教材を読みとって鑑賞し感動する心を育成したいのか、それとも人間模様の理解を通して常識を教えたいのかということである。又は、文芸文の書き手を育てたいと密かに考えているのかも知れない。そうではなくて、たいていは、ただ漠然と、甘い雰囲気や巧みな日本語の物語に陶酔する欲びに満足しているに過ぎない場合が少なくないのではなかろうか。

文章の全てが、何らかの書く目的を持って書かれている存在である。その目的を客観的に捉えていけば、従来のように「文学的文章」と「説明的文章」という二つの用語で分割することが不合理だということに当然、気づかされることであろう。

言語そのものの厳密な凝視がなくてはならないのではなかろうか。それが、言語の教育としての国語教育であろうと、筆者などは考えている。国語力を認知やメタ解説や言説に持っていかないで、字義のままに形式としての言語を直視する力をこそ、大事に教育しなくてはならない。そんなことを言えば、叱られるかも知れない。

しかし、言語習得期の幼い子供は、言語の形式に敏感に反応することによって、論理とイメージを形成していったのである。戦後、誰もが、「形式的だ」と言えば批判の言辭になったけれども、「形式的」という語句を真実に、しかも本気で考えようとしない限り、国語教育の再生は無いと私などは密かに思っている。

文章を読んで、直ぐに中身を考え、作者の生き方や本文の主題を質問したりするような、一般的で平凡な実践が、普通になってしまったし、こうした実践に疑いを抱く者もない。一字一句の使い方に作者の特異さを発見して一喜一憂する子供心は、どの先生によっても誉められないし、大事な国語力への視点にもなっていない。空しいばかりである。みな、精神主義、観念主義、国語無視主義に陥ってしまっている。国語の無い国語授業が、全国で行われている。授業がやりやすいからである。また、国語学者が教育から身を引いたからでもある。書かれた国語を一字一字、全部について辞書を引かせて、訓釈するほどの言葉主義は、もう、戻って来ないのであろうか。

国語そのものをしっかりと見つめる国語教育に立てば、「文学的文章」とか「説明

的文章」とかと曖昧な言い方で済ますことが、いかに子供を騙すことになるか、理解できるはずである。全ての文章は、目的が明晰である。誰かを説得するために書かれた文章ならば、「説得文」と言うべきだし、小説教材などは、解釈して鑑賞するのだから「鑑賞文」と一括する方が納得させ易い。その教材が文学としての出来具合が良いとか良くないとかの詮議に及ばないのだから、わざわざ「文学的文章」などと言わない方が良いでしょう。

人が物を言い、文章に表そうとする時、何らかの目的を秘めて行うものである。文芸的な目的のものは、「鑑賞文」と見なして、教室での読解に繋がれば良い。それ意外の数多くの文章については、説明的文章としないで、「説得文」とすれば、すっきりと誰にも容易に受け入れられるのではなからうか。

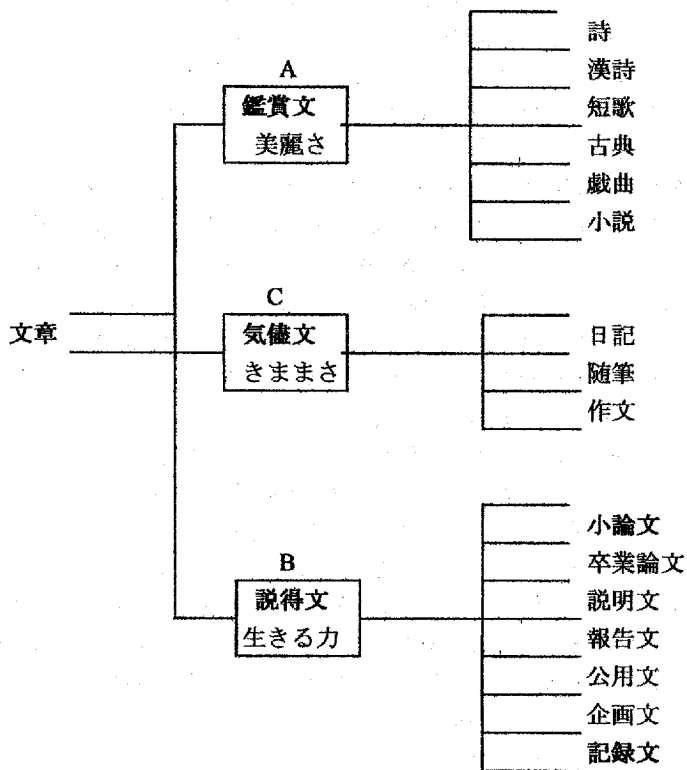
三十年間くらい、大学での「国語表現研究」授業に携わっていて、このごろ、黙っているのは責任が果たせないと思うようになり、少しずつ、求められれば、口を開き始めた。上の二分類も長年、考え続けてきた点の一つに過ぎない。以下に、二分法とは言いつつも、二点半分類(または、三分類)になるということ述べることにする。

2. 文章は、「鑑賞文」・「説得文」・「気儘文」の三分類で指導しよう

国語教育の現場では、長い間、文章を二つに分け、「文学的文章」と「説明的文章」と言ってきた。この分類に疑問を挟んだ人の論考を見聞きしたことが無い。筆者は、可笑しいなあ、という感じを抱いてきた。が、誰にもそのことを話す機会が無かった。

国語の教科書に載っている教材が、「文学」と「説明文」とに二分されるというのは、奇妙だ。わざわざ、教科書に載った作品を地ならしして、文学であろうと非文学であろうとを問わず、水平化することによって、「教材」と言うことにしたのであった。それでありながら、なおかつ、「文学的文章」と言うのは、文学への拘りでしかない。偏屈なコンプレックスを露呈した言い方になっている。では、国語の教材で「文学とは何か」ということを問うことがあるだろうか。無いはずである。だから「文学的文章」と言うことは弊害こそあれ、恩恵を受けることは無い。せつかく「教材」という言い方を獲得したのだから、「的」を使うことによって、得体の知れない「文学論議」に義理立てする必要はないのではなからうか。他方の「説明的文章」という言い方も文学と説明との語句が対比しない点で、納得の行かないものである。

筆者は、「文学的文章」と言わないで「鑑賞文」と言うべきだと考えている。そして、「説明的文章」の代わりに「説得文」と言うべきだということを述べ、なおかつ、日記などの気儘な文章を別に取り立てて、「気儘文」として位置づければ、分類体系が鮮明になると心得ている。それらの体系図を示せば、以下のとおりである。Aが鑑賞文、Bが説得文、Cが気儘文である。



上の図で見られるように、A は、従来の言い方では、「文学的文章」である。文学を特定の型にあてはめて、これは文学ですよ、と枠にはめているのが異常なのである。それよりも、これらの教材を解釈したり作者の研究をしたりして、文芸の芸術性を味わうのだから、一口に芸術文の鑑賞を目的にしていると見なしてよい。そこで、目的が究極的に鑑賞をすることにあるとして、これらを鑑賞文とするのである。子供達がそれらの文章に手を加えて書き直したりすることが許されないのであるから、ただ単に鑑賞するしかない。報告文や作文との違いは大きい。絵画を鑑賞する際に、手で触ったり写真に撮ったりすることが出来ないのと同じで、読み味わうだけしか許されない。だとすれば、鑑賞文と言っておいた方が良いであろう。飾り物としての文章なのだから、プロの作家が書いたものだよ、ということが分かれば良い。それらを「わざわざ、「文学的文章」と言うのが却って、可笑しい。文学を、企画文や報告文や小論文などの文章よりも優れたものだという錯覚を植え付けてはいないであろうか。その

間違いに国語教師は気づいていない。仕事文と言われている実用の文章には、実用の文章なりの長所がある。その点への配慮が国語教師に必ずしも無かったと思われる。文学青年のままで、歳を経た国語教師が、文学のみを尊重して、実用の文章を軽蔑する姿をしばしば見るにつけ、子供達へのバランスの取れた国語指導が期待できない現状に慨嘆したことがある。国語指導を地歴公民の先生に託した方が良いのではないかと真剣に考えざるをえないのである。

特に、Bの説得文となれば、大学でのレポートをはじめとして、学術文をも含めて一般社会での実用文の殆ど全てが含まれる。これらの文章についての指導が、国語教師によっては教えられていないという事実をしっかりと認識しなくてはならない。学校教育の場では、生きた機会が無いのは止むを得ないが、だからと言って、子供達を保護観察下においたままで良いかどうかという問題とは別である。生きる力は、正に、作家の真似をさせて、作家を育成することではない。むしろ、作家の文章を教育現場で重視しすぎたと言える。感情のままに行動するならず者の生き方を、道徳教育の代わりに学んだのである。言い過ぎかも知れないけれども、国語科教材と言え、直ぐに小説教材のフィクションを思い出すような連想が出来てしまっている。ワンパターンの国語科イメージの固定化である。恐ろしいことである。手紙一本書けない青年が大人の仲間入りをするなどという国語力の低下現象がある。それでいて、エゴの固まりのままで、身勝手な振る舞いをしてその非人間性に気づかないのである。教師も見つめ振りをしている。価値観を教えない十人十色だと言うだけで、自分の意見は言わないで済みます。先生も悪者になりたくないとして、責任のある立場に立たない。生きているのか死んでしまったのか、自己の意見を表明する国語教室の場は無い。先生も意見を言わない。子供の背後にいる父兄の顔が恐ろしい。意見文指導は仮にもするが、教師自身の意見は言わないで済みます。いろいろの意見が出て良かったね、と言って纏めるのである。子供と先生との間に信頼関係が無い。叱っても愛情の表明だと分かれば、子供は、先生に抱きついてくる。しかし、教師も子供と距離を置く。すると子供も敏感にそれを察知する。

大正期には、綴り方教育が盛んに行われて、生活の苦しさを励まし合うのに、助けとなった。しかし、国語教師が恵まれない子供に生活の苦しさを作文に書かせて、「頑張れよ」と励ますような場面などあるだろうか。そんな美談に巡り会いたいと、どの教師も思っていないか。しかし、金八先生はいつもあり得る。心がけ次第で、都会であろうと田舎であろうと、金八先生になれる。そのように振る舞うことによって、「生きる力」を育てる説得文指導の場を作っていくようにしたいものである。

最後に、Cの気儘文がある。これは、日記・随筆・作文などの文章を一括した言い方である。これは、定型を教えると途端に面白くなくなる。気儘に、だらだらと書くから面白いのであり、数奇な運命だから、下手な文章でも面白いということがある。

発想の面白さがものを言う。だから、これらを従来に分け方のように「文学的文章」と言っていたのでは、本当の良さに気づかないまで、大人になってしまう。国語の教師は何を教えたのか、と疑わざるを得なくなるのである。奇抜さや教奇さ、体験の卓越さなどに目を見張らせる。そのように、文章の有様そのものに注目して教えなくてはならない。それらの文章が何のために存在意義を持つかということに着眼してほしい。その文章を書きたかった人の願いが分かるはずである。

一つは、鑑賞してほしいという願いの籠もった文章である。もう一つは、伝達したい内容があってそれを訴え説得して、吾が思いに引き込みたいという文章である。これを説得文と言う。最後の文章は、気儘文と言う。徒然なるままに、一人語りをする文章である。このように三つに文章を分ければ、国語教室での教材指導は、明晰に子供を導いていける。

3. 生きる力の育成へ

従来取り上げられてきた多くの教科書教材は、いわゆる「文学的文章」であった。ここで言うところの「鑑賞文」である。読解を中心にした読みの教材である。これらは、どうしても読み味わうことが求められるために、積極的になれ、と言われても限界がある。例えば、既に過去の人になっている作者に向かって、手紙を出しましょうという授業を行う企画があったとしても、作為的で何かしら、嘘っぽさが見えて、真剣に取り組めなくなる。

それに対して、説得文は違う。正に生きる力を付けるのが目的である。社会で有効な国語力である。当たり前すぎて、どのように教えたらいいか、戸惑ってしまうというような国語力のことである。ただし、その当たり前であるが故に、どのようにその力を系統的に教えるべきかという点で、国語教師に知識の蓄えが無い。無限とも考えられるし、無秩序とも言える実用国語のノウハウを、如何に秩序づけて教材化していくかという困難な課題がある。

今までの国語教師は、与えられた教材についてカリキュラムに基づいて教えていけば良かったので、安心してレールに乗っていった。しかし、当たり前の国語力をどのように自覚的に捉えて、どのように発達段階に応じた教材に仕分けていくかという難題には、多忙な教師には不向きな作業である。カリキュラムについて考える抽象作業よりは、具体的な教材についての解釈作業に得手があるのであろう。誰もがどのような国語教室でも子供達に対して、教えられるように細かな指導案の見本を作って示してあげなくてはならない。そういう例をいくつも用意して、誰にでもできますよ、と安心してもらう手だてが要るように思われる。そのような工夫をすることにしたいと思われる。

先の図で掲載したように、「生きる力」の直接的な発揮は、正に「説得文」の形を取っている。会社に入れば、常に「報告文」を書かなくてはならない。公務員になれば、互いに「公用文」を書くのが仕事になる。大学生とか研究者にでもなれば、「学術文」や「卒業論文」を書くであろう。新聞社に入れば、新聞記事という「記録文」を書く。或いは「評論文」という「社説」を書くことになるかも知れない。ともかくも、社会に出れば、これらの文章を書かざるを得ないのである。それが「生きる」ということの人間的な意味なのである。生きる力を付けるとは、こういう「説得文」が書けるようになる、ということの意味している。かかる仕事文を重視しないで、専ら文学的文章に逃げていたのは、怠慢と誇られても仕方のない話である。国語教師が社会から切り離されていたのである。社会に背を向けてきたのもである。現実離れのフィクションに遊んで、それをこそ、国語の特質とさえ、思いこんできたのであった。

言い換えれば、下俗な社会の下俗な文章など取り上げられるか、と一喝したい感情をお持ちかも知れない。そんな高踏な意識さえ推察されうる。文学がそんなに高尚なものかどうか、問いたいところであるが、一般社会から遠いところに国語教材が位置づけられていたことは確かである。従って、国語教師は、意識するとしなないと関わらず、社会から逸脱して生きることが当然の在り方に慣らされてきたようである。何かズレている。教員の中には敬語を使って手紙を書くことを嫌ったりする人がいる。手紙の作法やしきたりを嫌って、わざと自由に書かせることを粹と見なしたりしている人がいる。伝統的な型のあるものごとに対して抵抗を示される。個人的な抵抗姿勢を子供達にも強要なさるのである。そして、自由に書け、型を破れと言いつつ、型さえも教えないで自由に書けと言われる。結果として、「教育」が消える。子供達は、文字は知っていても文化を教えられないので、それらの文化を超えていく力も発揮できない。教育現場に見られる「自由」への憧れと抵抗意識には、行き過ぎがありはしないだろうか。恋いや浪漫だけを良しとしていては、生きる力が付けられない。社会が求めているのは、今までの国語教師の考えていた国語力ではなく、当たり前の交渉力、英語でメールを直ぐに打てる言語力、十年計画のプロジェクトが直ぐに書ける文書力、初対面の人と適切な敬語を使用して会話出来るコミュニケーション力、などである。そして、当然、日本文化の根底に存在する源氏物語や平家物語への深い造詣は言葉の端々に出てくるようでありたい。そんな人間を育てることが求められる。

このように述べてくると、社会に開かれた国語力を付けるためには、是非とも「説得文」の指導が中心にならざるを得ないということになるはずである。今後は、説得文教育に軸足を移して国語授業に臨むべきであろう。

以上、昭和 40 年代以降の国語教育界を鳥瞰して、その根源的な課題を取り上げ、改善の方向を記して、今後の努力に期待した。大方のご理解を得たいと思う。

第二節 小論文即説得文指導の実践

江端義夫

1. 指導以前の小論文——自己PR文を書かせたら????

小論文の指導をする際に、大学二年生の前期課程の段階でどんな表現力を持っているかを確認してみることにした。

まず、課題として、四年時の七月ごろに各県の教員採用試験を受けることになるので、各自が希望する県教育委員会に提出する志願票に書く「自己PR文」を練習してもらうことにした。この時期に自分を見つめ直し反省する機会があるのは、大事なことである。早めに、人生の目的意識を確立させることも大切である。この課題は、正に一石二鳥だと考えられた。ただし、課題を出す前には、説得文の技術などについて何も指導をしなかった。書いた後、隣の席の学生が添削した。互いに交換し合って、内容を客観的に見直させた。従って、次の写真には、二種類の文字が見られるはずである。氏名については、プライバシーを保護するために、省略して、名前の最初の漢字の一文字だけを掲げ、後は消した。添削者の名前についても同様とした。

掲げた例の全体を眺めると、次の点に気づかされる。①まずは、素直な心のよく表現された文章ばかりだということである。次に、②こんなに心の優しい学生らが高校国語の教師になってくれたら、きっと日本は良くなるだろうな、と思われたことである。しかし、③書く際には、もっと、読み手の側に身を置いて、効果的な文章にしようという配慮が必要だと思われた。これが欠点である。やはり、文章を書くのであれば、採点をする人にどのように訴えられるか、という観点で、文章の練り直しが要るのであろう。

専攻：国語文化系 氏名：小

私は常にできる限り前向きに考えるようにしています。悩んで深く考えることもありますが、前向きにものごとをとらえて考えるようにしています。
また、私は一つの考えに縛られることなく、自分の考えが本当に筋が通ったものであるのかよく考えて、人の意見や考えにも耳を傾けるようにしています。そのことにより、一つのものごとに対して、多角的なとらえ方ができるようになっていると思います。
このように、私はいつでも柔軟な考え方を心がけています。
考え方については、 ^{理論的根拠} 真実が主なので、説得力に欠けました。(本通)
自分のこれからの経路もまだ決まらず、もっと説得力が増すのがいいのではないか。(添削者)

平成 3.10.21

専攻: 国語文化系 氏名: 古

私は大学時代に知識が何もないからという理由でライティングをして
 いました。イギリスには中学生 から社会人の方まで幅広い世代に出逢って
 頂くので、音楽に関する話だけでなく、学校生活のことや職場のことなど様々な
 話を聞くことができ、いい人生経験になっていると同時に私の見方、考え方は
 確実に広がっていった。また、そういう色々な年齢・職業の人たちと会話をし
 いく中で、以前に比べてコミュニケーションをとる力が上がっていると感
 じた。また、大学の所属コースが主催する 課題研究の研究会と呼ばれる研究会が現職
 の先生方にお話を伺う会などにも積極的に参加し、国語教諭としての
 エキルアップにも架めてきました。

具体的に書いた方がいいかと思いつく

経路 → 偉力 という流れはいいと思いつく 清 (添削者)

それをどうにかしたかを書いたりしてもいいんじゃないか

専攻: 国語文化 氏名: 古

小さい頃からずっと、本を読むのも作文を書くのも好きでした。誰もが知っている日本語を、自分なりに練って組み合わせて自分の心の内を出せるだけそのまま他人に伝えられること、そして他人の心の内を共有することが出来るということ。こういう言葉・文章の持ち方に惹きつけられているのだと思います。そして、高校で古典を学ぶ中で、言葉を駆使して気持ちを相手に伝えようとするのは、今も昔も変わらないことなのだと思いつき、とても興味を引かれました。その感動と面白さを、感受性の強い高校生たちに知らせたい、と強く思うようになり、高校の国語教師を志望しました。大抵は「気まぐれなところもある私ですが、自分が選んだこと、興味を持ったことなら最後までやり抜きます。国語というものなら、私は一生自分自身も学び続けられると思いつく。

~~~~~の部分か、伝えようとしている内容は分かるのだが、分かりにくい。

「こういう」という指示語があるから、もっと分かりやすい方がいいと思いつく。

古  
(添削者)



## 2.三段論法で小論文を書くことを教える

a.小論文は説得文でなくてはならないことを教える。説得文は三段形式が相応しいことも教える。具体的に、四段形式の漢詩を例に引き、起承転結の典型的な美文調になっているものは、快調さはあるけれども、納得させられる感じではないことを理解させる。

b.日本語は、四拍子の文化であり、そのリズムを成り立たせているのが、日本語の拍節リズムだということを自覚させる。その自覚を促すために、次のような対比を示して、理解を容易にさせる。

四拍子文化=====日本語の拍節リズムに合致する

○歌謡曲、フォークソング、民謡、行進曲、ソナタ、交響曲、カラオケ文化

○単純反復を好み、変化を嫌う。等時等拍性とも言われる。

三拍子文化=====西欧言語の拍節リズムに合致する

○ゲルマン語、ラテン語のリズム、円舞曲、舞踏曲

○自由と変化と飛躍がある。弁証法の原理、西欧の三段論法

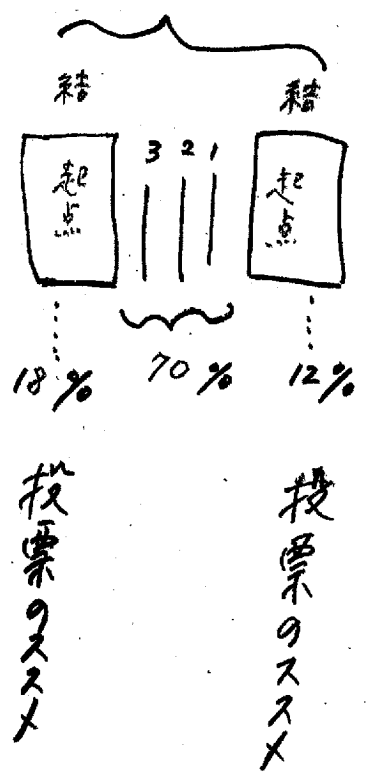
上の対比図式では、日本語が仮名文字により、四拍子のリズムを形成すること、しかも俳句や短歌などの短詩系文学で幼いころから四拍子文化に親しみ過ぎていて、欧米の三拍子文化に馴染めない生活感覚が出来てしまっていることを説明してみる。その上で、論理的な説得のためには、三拍子文化で行かなくてはならないことを伝える。

c.三拍子文化は三段跳びのリズム、弾んだ円舞曲のリズムであることを教える。

小論文を書くときには、四拍子文化では駄目であり、リズム感覚を三拍子文化に合わせるべきことを承知させなくてはならない。三拍子の文化に慣れさせるためにどうしたら良いか。いろいろの工夫があるであろう。音楽を聞かせるのも、一つの工夫である。ヨハンシュトラウスの「春の祭典」などを聞かせて、弾んだ三拍子の心地良さに触れさせる。その心地良さを表現の形式に表す努力へと移し替えていく。あるいは、また、論理学での三段論法の例を示して、関わり合いの示し方を学ぶのも良い。或いは、谷川俊太郎の詩で「ことばあそび」の一節を引いて、「引き音」「促音」「撥音」などが入った詩には、本来の日本語らしさは無いけれども、それらが入ることによって、弾んだ感じ、踊りだしたくなる感じ、子供心を捉えた感じがよく出てくることを教える。これらの特殊音によって、本来の日本語になかった三拍子文化が育ってきていることを知るためにも、この試みは良いかもしれない。

d.三拍子のクドさを表すのに、新聞の文章例を持つてくるのが一工夫である。新聞には、三拍子の文章が少なくない。論理を明快にしたければ、新聞にその材料を求めると良い。次に掲げる例は、はじめと終わりに同じ内容がしつこく繰り返される。こんな油ぎった文体は日本人に好まれない。しかし、これが三拍子の文章である。

明快に  
訴えたい  
ときには、  
三段叙法  
がふさわしい。



あとで振りかえってみて、あれが時代の変わり目だったというときが必ずあるものだ。保守合同につながった一九五五年の総選挙にしても、連立時代の幕開けとなった九三年の総選挙にしても、そうだ。こんどの選挙は、どんな結果になっても、日本の政治で、次への転機となる可能性をひめて

有権者に選択を迫った。もっと大事なものは政権マニフェストという言葉。公約という道具によって、高まった。消費税のあり方を含め、年金問題が最も根っこには、戦後政治をかけたのは民主党で、不きることだ。公約発表十分な点は数多くあるに、政策実施実績評価の流せよ、自民党をはじめ各

# 時代の変わり目の選択

政治部長  
芹川洋一

この国の将来への関心が、この国の不信の疑念は、国家への不信感につながっている。高まった。消費税のあり方を含め、年金問題が最も根っこには、戦後政治をかけたのは民主党で、不きることだ。公約発表十分な点は数多くあるに、政策実施実績評価の流せよ、自民党をはじめ各

この国の将来への関心が、この国の不信の疑念は、国家への不信感につながっている。高まった。消費税のあり方を含め、年金問題が最も根っこには、戦後政治をかけたのは民主党で、不きることだ。公約発表十分な点は数多くあるに、政策実施実績評価の流せよ、自民党をはじめ各

第三は、政治体制そのものだ。九三年の細川連立政権からちょうど十年、小選挙区制で三回目、与党・野党を含め、二大

第三は、政治体制そのものだ。九三年の細川連立政権からちょうど十年、小選挙区制で三回目、与党・野党を含め、二大

第一は、政治の進め方である。しばしばいわれるように、政党が首相候補と政権公約をかかげ、

第一は、政治の進め方である。しばしばいわれるように、政党が首相候補と政権公約をかかげ、

第一は、政治の進め方である。しばしばいわれるように、政党が首相候補と政権公約をかかげ、

第一は、政治の進め方である。しばしばいわれるように、政党が首相候補と政権公約をかかげ、

第一は、政治の進め方である。しばしばいわれるように、政党が首相候補と政権公約をかかげ、

第一は、政治の進め方である。しばしばいわれるように、政党が首相候補と政権公約をかかげ、

第一は、政治の進め方である。しばしばいわれるように、政党が首相候補と政権公約をかかげ、

### 3.意見文・説得文・小論文は型を遵守して書けば、上手に書ける

このことは、非常に大切である。戦後の学校教育では、自由に書けと言い過ぎて、型を嫌いすぎた。先生方も型をとりわけお嫌いになる。しかし、伝統芸能は型があってこそ成り立っているし、短詩系文芸だって、韻律の型を取り払ってしまえば、もはや戯れ詞でしかなくなる。例えば、子供達の最も嫌いな作業が作文だとされている。実は、子供達は、先生に言いたいこと、訴えたいこと、聞いて欲しいこと、高く評価されたいことなどが沢山ある。しかし、子供達は「ああ、作文か!!!」「文芸的にフィクションを使って、作家まがいに書かなくてはならないのか、億劫だ」「誤字なし、脱字なし、起承転結、気取り・・・」などと嫌なことばかりが思い出される。作文は嫌だ、と思う。足かせ、手かせばかりの作文教育に誰もが嫌な思い出を抱いてきた。本当に優れた文章を書くことの出来る子供ほど、嫌悪感は強いものがあつた。作文教育をつまらなくしてきた最大の原因は、目的観の無い自由作文のススメであつた。あてもなく、自由に書かされるほど、つまらないものは無い。「自由」と放任とは異なる。何も教えないことに「自由」というレッテルを貼って、正当化してきたに過ぎない。大正時代には「自由選題」とかの論争もあつた。社会に様々な規制と制約があり、自由が制限されていた時代には、「自由に」が大きな意味を持っていた。しかし、「何への自由なのか」が示されないままで、子供達に「何でも好きなことを好きなように書きなさい」と指導しても、却って思想教育に利用されないかと心配したり、生活指導に用いられないかと危惧したりすることになる。賢い子供ほど、書きたくなくなるであろう。

書いた文章が何かの役に立つということを教えなくては、書く気がしないのでは無からうか。書く限りは、書いた文章の内容に基づいて、お金が貰えたり、その内容によって、新しい製品が生産されたり、その文章によって世の中が改善されたりするような力になることを知らせるべきである。その文章がこんなに経済効果があるのか、と子供達でさえ、驚くという事実を示すと良い。社会は、作文で大きく動かされる。ペンの力は、戦争をも止めさせられる。だから、作文教育は大切なのだ、と教える。

その際に、人の心に訴えて、人の思想を変革させるするには、それなりの用意周到なシカケが要る。そのシカケをいろいろと工夫する必要がある。そのためには、日本人に伝統的な「あはれ」と悲しみを慨嘆して訴えることよりも、理路整然と根拠を示しつつ、三拍子の文化で訴える冷静な形式を学ばせた方が良い。こうして、感情に訴える日本式でなく、理性に訴える欧米式の作文法、つまり、小論文指導の必要性が説かれることになる。かくして、小論文を書く練習の必要性が、誰の心にも理解されることになるのである。

### 4.小論文の型

説得文を指導するためには、三段形式の論法又は様式があることを生徒に教えなく

てはならない。先生には、一仕事がある。例えば、次の三つが基本である。

○双括型——これは、習得し易い。分かり易い。

「結論」→「論証」→「まとめ」

○頭括型

「結論」→「論証」

○尾括型

「提示」→「論証」→「結論」

これらの三つの中で、最も一般的なのが双括型である。双括型には、いろいろの技術が考えられる。それらの中で、二つを挙げてみる。例えば、その一つは、次のような書き方である。

「自分の意見を書く」

「論拠を書く

第一に云々・・・

第二に云々・・・

第三に云々・・・」

「まとめ」

上のような形式で書かれた論文や一般的な説得文には、必ずしも必要十分な根拠が示されていないような場合でも、是認してしまい易いところがある。述べられた意見についての理由が箇条書きされていると、それ以外に目が行き届かなくなってしまうので、納得されやすいのである。後から聞き直したり読み直したりしてみると、別の見方もあり得たことに気づいたりする。しかし、後の祭りである。一応、納得させられてしまったのであるから。

もう一つの方法は、論証の中で、ディベートを構成してみるのである。例えば、次のように、文章を構成してみると面白い。

「結論-----自分の意見を書く」 二割

「論証を書く 六割

肯定の立場で意見を書く

否定の立場で意見を書く」

「まとめ(肯定か否定かの意見に立つ。結論を再補強する。)」二割

このように手の込んだ細工をして、構造の明確な文章を作れば、反論への反論をも想定しての文章になるので、「うーん」と納得せざるを得なくなる。読ませる文章、

説得の文章というものの面白さを知ると楽しくなる。

5.誰も今まで教えてくれなかった説得文の要素に、次の二点がある。その一は、「説得文は発見文でなくてはならない」こと、その二は「説得文は美文でなくても良い。下手な文章で良い」ことである。これらの二点は、是非とも教えたいところである。

国語の作文ともなると、美しい文章とか、作家の真似をして、美辞麗句を飾り立て、婉曲に言い、接続詞を省略して達意の文章を狙い、主語を省いて、行間に含みを持たせようと作為を凝らさないだろうか。そんな文芸気質の文章を国語科の作文指導では良しとして来た悪弊がある。こういう誤った国語指導を根本から改革しなくてはならない。だから、本物の小論文指導は、むしろ、国語の先生よりも、科学領域の先生か社会科の先生が担当すべきであろうと考える。

誰も今まで、下手な文章でも結構、とは言われなかったであろう。しかし、下手な文章で、結構なのだ。形容詞がふんだんに出てくる文章よりも、論理が明快で、根拠がしっかりしていて、結論まで、まっすぐに貫かれていれば、その方が良い。

例えば、ノーベル賞級の小論文などになると、全く新しい発見の提示でなくてはならないから、独創的な点が強調してあることが大切になる。そのような発見などは、高校生の小論文には無いよ、と軽く言い放つのは良くない。大学入試の小論文でも、高校国語表現授業での小論文でも、訓練のレベルだし、練習だから、それほど真面目にならなくても良いよ、と言われるだろうか。いや、そんな不真面目な態度では困る。若い人は、とんでもない優れたことを、やって見せるものだ。だから、練習のつもりでも、本番のつもりでいなくてはならない。桁はずれの発見を軽やかに見せたりすることがあるので、先生は気が抜けないはずである。そんな眼を持っていれば、子供達の小論文指導に、新しい個性を発見する楽しさがある。

これらは、「態度論」である。技術ばかりでなく、精神的な態度も大きく作用するものである。気概と言うか、気品と言うか、小論文にかける勢いのような緊張感が、行間から滲み出て来る。読み手に殺気を迫るというのも、中身の質の高さを、ちらつかせていて、何とも言えない心地良さである。簡潔そのもので、しかも潤いがある、というような文章に出会いたいものである。

もう一度、繰り返そう。小論文では、下手な文章で良いのだ。その代わりに発見のある文章が良い文章なのである。自分の独自の発見があれば、美辞麗句など要らない。形容語など削りに削り、骨と皮ばかりでも、筋が通っていて、明快で、しかも今までの誰とも違う新しさが出ていれば、それは満点なのである。「新しさ」、これが必要な条件になることを、意外にも人々は指摘しないている。その視点は、確かに、国語教室では、どのように教えたら良いのか、困惑する要素ではある。だが、そんな資質みたいなものを小論文では、探し出すことさえ出来る恐ろしいものなのである。

6.小論文指導をした後での、小論文の用例

以上のことを教えた後に、広島大学教育学部国語文化教育コースと教育学科の二年生は、次のような小論文を書いた。テーマは、次の四つの中から一つを選んで600字以内で書けと言う指定である。

- 地域と協力する学級作り/ ○私の考える理想の国語教室/ ○学校は変わるか/ ○学校を誰が支えるか

以下に、若干のものを選んで掲載する。優れた小論文が沢山見られた。全部を載せられないのが、残念である。

(2)

意見 (小論文)

| 日 | 月 | 年 | 氏名 | 学級 | 内容                                                                                                                             |
|---|---|---|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   |   |    |    | <p>この国語教室は、先生一人一人の個性が光っている。先生は、生徒にやさしく接し、生徒の個性を引き出すことに努めている。先生は、生徒の個性を引き出すために、様々な工夫を凝らしている。先生は、生徒の個性を引き出すために、様々な工夫を凝らしている。</p> |
|   |   |   |    |    | <p>この国語教室は、先生一人一人の個性が光っている。先生は、生徒にやさしく接し、生徒の個性を引き出すことに努めている。先生は、生徒の個性を引き出すために、様々な工夫を凝らしている。先生は、生徒の個性を引き出すために、様々な工夫を凝らしている。</p> |

これは、アノノで、自分で考えた所がよい。

(3)

結び

| 日 | 月 | 年 | 氏名 | 学級 | 内容                                                                    |
|---|---|---|----|----|-----------------------------------------------------------------------|
|   |   |   |    |    | <p>先生は、生徒の個性を引き出すために、様々な工夫を凝らしている。先生は、生徒の個性を引き出すために、様々な工夫を凝らしている。</p> |

論証

結論

|    |    |    |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |
|----|----|----|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|
| 姓名 | が、 | 日本 | た | た | 二つ | 語 | 驚 | 昔 | 国 | 学 | 分 | 類 |
| 年齢 | 子  | の  | 伝 | 歴 | の  | の | か | の | 語 | を | 日 | 目 |
| 性別 | 供  | 文  | 統 | 史 | 関  | の | の | 人 | 文 | 通 | 年 | 月 |
| 学年 | た  | 化  | の | を | 心  | 考 | さ | の | 化 | し | 日 | 日 |
| 科目 | ち  | を  | 重 | 知 | に  | え | れ | の | の | て | 年 | 月 |
|    | に  | 大  | み | っ | こ  | 方 | こ | 考 | 考 | 教 | 月 | 日 |
|    | 生  | 切  | を | て | に  | が | と | 方 | 考 | え | 日 | 日 |
|    | ま  | に  | 知 | 古 | が  | が | が | も | 考 | ら | 日 | 日 |
|    | れ  | し  | ら | 典 | 多  | 多 | の | の | 考 | し | 日 | 日 |
|    | ば  | て  | も | を | い  | い | の | 見 | 考 | こ | 日 | 日 |
|    | 主  | い  | ら | 通 | と  | と | 方 | 方 | 考 | と | 日 | 日 |
|    | に  | こ  | う | し | 考  | 考 | に | に | 考 | 日 | 日 | 日 |
|    | 一  | と  | こ | て | え  | え | 子 | 子 | 考 | の | 日 | 日 |
|    | 層  | あ  | あ | あ | る  | る | 供 | 供 | 考 | の | 日 | 日 |
|    | 国  | る  | る | る | る  | る | た | た | 考 | の | 日 | 日 |
|    | 語  | 持  | 持 | 持 | 持  | 持 | ち | ち | 考 | の | 日 | 日 |
|    | へ  | ち  | ち | ち | ち  | ち | も | も | 考 | の | 日 | 日 |

|    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 姓名 | か | し | ま | ず | 一 | つ | 目 | は | 日 | 本 | 独 | 特 | の | 子 | 供 | た | ち | に | 古 | 典 | 文 | 分 | 類 |
| 年齢 | し | ま | ず | 一 | つ | 目 | は | 日 | 本 | 独 | 特 | の | 子 | 供 | た | ち | に | 古 | 典 | 文 | 日 | 目 | 日 |
| 性別 | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
| 学年 | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
| 科目 | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |
|    | な | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | ど | 日 | 月 | 日 |

私の考える理想の国語教室 東

論証

結論

|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   |   |
|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|---|
| 姓名 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 分 | 類 |
| 年齢 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 目 |
| 性別 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 年 | 月 |
| 学年 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
| 科目 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |
|    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 日 | 日 |

独自性がある。古文復興運動という  
新語をつくりおきなうべき。

( 論 証 )

| 学 名   | 論 証 (2) |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 期 日 |
|-------|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
|       | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ |     |
| 氏 名   | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の   |
| 年 月 日 |         |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |
| 項 目   | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の   |
| 説 明   | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の   |

( 論 証 )

| 学 名   | 論 証 (1) |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   | 期 日 |
|-------|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|
|       | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ |     |
| 氏 名   | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の   |
| 年 月 日 |         |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |     |
| 項 目   | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の   |
| 説 明   | こ       | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の | こ | の   |

( 結 論 )

| 学 名   | 結 論 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 期 日 |
|-------|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|
| 氏 名   |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |
| 年 月 日 |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |
| 項 目   |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |
| 説 明   |     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |     |

両日頭は、「私は変わると考える。」  
 ありきによこ、「起しかん」提示しに変わった。

以上で、「小論文即説得文指導の実践」についての解説を終える。  
 (なお、本稿は、平成 15 年 12 月 10 日に、広島県立尾道北高等学校で行った模擬授業の内容を大幅に手直しして、ここに掲載したものである。)



## 第2章 自分の意見や自分の主張を大切にしたい小論文が書けるようになる

### 第1節 四段論法を三段論法に替えれば、こんなに筋道が通るようになる

三島 淳

この節では、第一学習社『高等学校 国語表現 I』pp.90～pp.93「意見文の書き方」および pp.94～pp.95「環境に優しい良い品を選ぼう」を利用した授業を構想していく。

#### 1. 指導の目標

従来行われてきた四段論法による作文法ではなく、三段論法による作文法を身につけることで、より筋道が通った、明晰で説得力のある意見文が書けるようになることを最大の目標とする。

そこにいたるための小さな目標を次に4点掲げる。

- ① 意見文を書くことの意義を理解させる。
- ② 意見文の書き方を理解させ、身につけさせる。
- ③ 三段論法による作文法を理解させ、身につけさせる。
- ④ 三段論法の思考の枠組みを身につけさせる。

#### 2. 指導の要点

本教材では、意見文について幅広く一般的に述べられている。そのため、意見文がどのようなもので、どのように書けばよいのかという知識・理論を教えることは容易である。しかし、それだけでは自分自身で意見文を書けるようにはならない。それは、野球のバッティングにおいて、打撃の理論に習熟していることと、実際に打てるということが別問題であるのと似ている。知っているにこしたことはないが、それだけで実践が可能なのわけではない。いかにして知識・理論を本物の技術として身につけさせるかが重要になる。

そこで、本教材を扱うにあたっては、「意見文を実際に書く状況」を具体的にイメージさせる。そして、分かりやすい文章を書くにはどのような工夫をすればよいかなどを机上の理論としてではなく、自分の中から生まれる工夫として身につけさせる。こうすることで、理論を理論としてではなく、自分なりの工夫として扱えるようにする。

3. 学習指導の展開例（4時限）

| 次 | 時 | 指導目標                                                                                                                                                    |    | 学習活動                                                                                                                                                                                    | 指導上の留意点                                              |
|---|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1 | 1 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意見文を書くことの意義を理解させる。</li> <li>2. 意見文に必要な要素は何かを考えさせる。</li> <li>3. 意見文の書き方を理解させる。</li> </ol>                      | 導入 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークシートにしたがって、意見文について整理する。</li> <li>2. 教科書を読み、意見文について確認するとともに、意見文の書き方を学ぶ。</li> <li>3. 文章の構成の仕方を3つ（頭括型、双括型、尾括型）を押さえる。</li> </ol>                | <p>○ 生徒にしっかりイメージさせ、考えさせる。</p> <p>○ 三段論法について説明する。</p> |
| 2 | 2 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「環境に優しい良い品を選ぼう」という具体例を見せながら、実際の意見文の書き方について理解させる。</li> <li>2. 自分の意見を、「テーマ」「論証」「主題」の3つの観点から箇条書きにさせる。</li> </ol> | 展開 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークシートにしたがって、「環境に優しい良い品を選ぼう」を分析する。</li> <li>2. どうすれば「環境に優しい品を選ぼう」がより明確でわかりやすくなるのかを考える。</li> <li>3. 学習□「気をつけたい背中のリュック」を、少し形式を変えて行う。</li> </ol> | <p>○ ワークシートに添って。</p>                                 |

| 次 | 時 | 指導目標                     | 学習活動 | 指導上の留意点                                               |                           |
|---|---|--------------------------|------|-------------------------------------------------------|---------------------------|
| 3 | 3 | 1. 三段論法によって意見文を書けるようになる。 | 実践1  | 1. 「高校生が髪を染めることについて」というテーマで意見文を書かせる。分量は600～800字で書かせる。 | ○ ワークシートに添って準備をさせてから書かせる。 |
|   | 4 | 1. いろいろな考え方があることを知る。     | 実践2  | 1. 前時に書いた意見文をランダムに配る。配られた意見文に対して、コメントを書く。             | ○ 論証と主題をはっきりとさせて書かせる。     |

## 第1次第1時指導案

### 【本時の目標】

- ・ 意見文を書くことの意義を理解させる。
- ・ 意見文に必要な要素は何かを考えさせる。
- ・ 意見文の書き方を理解させる。

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を知る。</li> <li>○ 意見文を書く目的（意見文を書く時に意図される効果）を考え、ワークシートに記入する。</li> <li>○ 自分が考える、意見文を書く目的を発表する。</li> <li>○ 意見文を書く目的をワークシート①にまとめる。</li> <li>○ 「意見文を書く目的」達成のために意見文に必要な「要素」をワークシート①に列挙させる。</li> <li>○ 自分が考える、意見文に必要な要素を発表する。</li> <li>○ ワークシート①の必要な要素の欄に、「主題」「論証」「テーマ」と書き込ませる。</li> <li>○ 主題・論証・テーマをどのように組み合わせるとわかりやすい文章になるか</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシート①を配布する。</li> <li>○ 意見文とは何かを説明する。</li> <li>○ 意見文にはどのようなものがあるかを説明し、イメージを湧かせる。</li> <li>○ 意見文を書く目的（意見文を書く時に意図される効果）を考えさせ、ワークシートに記入させる。考える際の手立てとして、「自→他」「自→自」「他→自」の3項目を挙げているが、特にこれにこだわって考える必要はない。</li> <li>○ 自分が考える、意見文を書く目的を発表させる。</li> <li>○ 意見文を書く目的を「自→他」「自→自」「他→自」の3項目の下に分類し、まとめる。</li> <li>○ 先ほど挙げた「意見文を書く目的」を達成するためには、わかりやすい文章でなければならない。そのために必要となる要素を考えさせ、ワークシート①に記入させる。</li> <li>○ 自分が考える、意見文に必要な要素を発表させる。</li> <li>○ わかりやすい意見文を書くための要素として、主題・論証・テーマが必要なことに気づかせまとめる。</li> <li>○ 主題・論証・テーマをどのように組み合わせるとわかりやすい文章になるか考えさせる。</li> </ul> |

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                    | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書を開き、今まで考えてきたことを、教科書を読みながら再確認する。</li> <li>○ 文章の書き方の①～④を、テーマ・論証・主題の3つの観点で押さえる。</li> <li>○ 文章の書き方の⑤「構成を考える」にある意見文の構成の3つの型を押さえる。また、頭括型は双括型の変形であることを理解するとともに、3つともが三段論法であることも理解する。</li> <li>○ 次時の学習内容を知る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書を開き、今まで考えてきたことを、教科書を読みながら再確認させる。</li> <li>○ 文章の書き方の①～④を、テーマ・論証・主題の3つの観点で押さえさせる。</li> <li>○ 文章の書き方の⑤「構成を考える」にある意見文の構成の3つの型を押さえさせる。このうち頭括型は双括型の主題の再提示が省略された型であることに気づかせ、頭括型は双括型の変形であることを理解させる。これによって、3つともが三段論法であることを示す。</li> <li>○ 次時の学習内容を告げる。</li> </ul> |

第2次第2時授業案

【本時の目標】

- ・ 「環境に優しい良い品を選ぼう」という具体例を見せながら、実際の意見文の書き方について理解させる。
- ・ 自分の意見を、「テーマ」「論証」「主題」の3つの観点から簡条書きにさせる。

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を知る。</li> <li>○ 「環境に優しい良い品を選ぼう」を音読する。</li> <li>○ ワークシート②の『テーマは何か』『どのような論証がなされているか』『主題は何か』の欄を埋める。</li> <li>○ 「環境に優しい良い品を選ぼう」が何型の構成をとっているかを考え、発表させる。</li> <li>○ 「環境に優しい良い品を選ぼう」は、どうすればもっとよくなるか（よりわかりやすく、説得力あるものになるか）を考える。</li> <li>○ どうすればよりよくなるかを発表させる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシート②を配布する。</li> <li>○ 「テーマ」「論証」「主題」に注意しながら読ませる。</li> <li>○ ワークシート②の『テーマは何か』『どのような論証がなされているか』『主題は何か』の欄を埋めさせる。</li> <li>○ 前時に挙げた3つの型のどれにあてはまるのかを考えさせる。</li> <li>○ 「環境に優しい良い品を選ぼう」が尾括型の構成をとっていることを押さえさせる。</li> <li>○ 4人組みを作って話し合わせる。改善のポイントは構成と論証部であることに気づかせる。より新しく一般的な例を挙げたほうが、説得力が高いことに気づかせる。少し難しいようなら、机間指導をしながら適宜アドバイスする。</li> <li>○ どうすればよりよくなるのかをまとめる。その際、改善のポイントは構成と論証部であること、より現在に近く一般的な例を挙げたほうが、説得力が高いことなどを教える。</li> <li>○ ワークシート③を配布する。次に「気をつけたい背中のリュック」を読ん</li> </ul> |

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習□「気をつけたい背中のリュック」を音読する。</li> <li>○ 「気をつけたい背中のリュック」から自分が書こうとするテーマを切り出し、ワークシート③に記入する。</li> <li>○ テーマに対する自分の意見（主題）をワークシート③に記入する。</li> <li>○ 意見（主題）を論証するための根拠を考え、ワークシート③に記入する。</li> <li>○ 再び4人組の班で、お互いのワークシートを見合いながら意見の交流をする。どこがいいか、どうすればもっとよくなるかなど。</li> </ul> | <p>で、それをもとに、自分が意見文を書くときの「テーマ」「論証」「主題」を切り出す練習をすることを告げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシート③を回収する。</li> <li>○ 次時は、実際に意見文を書くことを告げる。テーマは「高校生が髪を染めることについて」であることを知らせ、宿題として次時までに関連する材料を集めさせる。</li> </ul> |

### 第3次第3時授業案

#### 【本時の目標】

- ・ 三段論法によって意見文を書けるようになる。

| 学習活動                                                                                                                                                                                                 | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時のようにワークシート④に「テーマ」「主題」「論証」を簡条書きで記入する。</li> <li>○ 3つの型のうちどの型で書くのか、構成を考える。</li> <li>○ 構成にしたがって、簡条書きにしたものを並べ替える。</li> <li>○ 簡条書きしたものに肉付けして文章化していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習活動について説明する。</li> <li>○ ワークシート④を配布する。これを用いながら意見文を書かせていく。</li> <li>○ 適宜机間指導を行う。</li> <li>○ 早く書き終わった生徒には推敲を行わせる。</li> <li>○ 次時の学習内容を告げる。</li> </ul> |

### 第3次第4時授業案

#### 【本時の目標】

- ・ いろいろな考え方があることを知る。

| 学習活動                                                                                                                                                                         | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシート⑤に記入する。</li> <li>○ ワークシート④に記入する。</li> <li>○ ワークシート④・⑤をもとにして、意見文を書く。</li> <li>○ 友達が書いた自分の意見文に対する意見文を読み、自分の意見文を振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時に生徒に書かせた意見文を、ランダムに配る。</li> <li>○ 本時の学習活動の説明。</li> <li>○ 未記入のワークシート④とワークシート⑤を配布する。</li> <li>○ 「○○君の意見文について」というタイトルで400字程度の意見文を書く。</li> <li>○ 書いた意見文は、元の意見文の書き手にセットにして渡す。</li> <li>○ 二つの意見文をセットにして回収する。後日、教師の添削も加え、生徒にフィードバックする。</li> </ul> |



# 意見文を書こう！

組 番 氏名 ( )

意見文とは何だろう



ある事柄に対する自分の考えや主張を筋道立てて書き表した文章

意見文の種類はどれだけあるだろう



1. 論文
  - 学位論文・学術論文・卒業論文など
2. 論説
  - 新聞の社説・コラム・雑誌の巻頭言など
3. 評論
  - 書評・社会事評・各ジャンルの論評（文芸論・人物論・美術論・文化論など）など

意見文を書く目的はなんだろう (自…自己／他…他者)



|     |  |
|-----|--|
| 自↓他 |  |
| 自↓自 |  |
| 他↓自 |  |

意見文に必要なものはなんだろう



考えられる構成は

# 「読者に響く良い語を表現心」を分析してみよう

組番 氏名 ( )

**テーマは何だろうか** (何について書かれているだろうか)

**主題は何だろうか** (テーマについてどのような意見を述べているだろうか)

**どのような論拠がなされているだろうか** (どのような根拠・証拠が挙げられているだろうか)

**どのような語が使われているか** (1)の論拠文のよさをあげよう

**どのような語がよい** (よりわかりやすく・説得力のある論拠文に) なるだろうか

# 「テーマ」「属性」「主題」を切り出す練習をしよう

組 番 氏 名 ( )

**テーマ** (何について書いたら?)

**主題** (テーマについてどのような意見を持っているだろうか?)

**論証** (どういった根拠・証拠があるだろうか?)

# 意見文を書く手順をひらいて

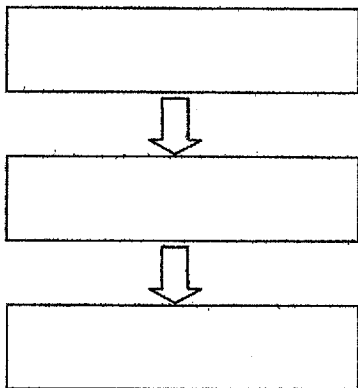
組 番 氏名 ( )

**テーマ** (何について書くのか)

**主題** (テーマについてどのような意見を述べているのか)

**論証** (どのような根拠・証拠があるのか)

**構成** (どのような構成で書くのか)



## 友達の意見文に意見文を書いてみよう！

組 番 氏 名 ( )

友達の意見文がよりよくなるように、アドバイスをかねて意見文を書いてみよう。

優れている所はどこか



理由

|  |
|--|
|  |
|  |

改善できる所はどこか



理由

|  |
|--|
|  |
|  |

共感・納得できる所はどこか



理由

|  |
|--|
|  |
|  |

疑問を持った所はどこか



理由

|  |
|--|
|  |
|  |

# 意見文を書くついで

組 番 氏 名 ( )

## 意見文とは何だろう

ある事柄に対する自分の考えや主張を筋道立てて書き表した文章

## 意見文の種類はどれだけあるだろう

1. 論文
  - 学位論文・学術論文・卒業論文など
2. 論説
  - 新聞の社説・コラム・雑誌の巻頭言など
3. 評論
  - 書評・社会事評・各ジャンルの論評(文芸論・人物論・美術論・文化論など) など

## 意見文を書く目的はなんだろう (自:自己/他:他者)

|     |                                                                  |
|-----|------------------------------------------------------------------|
| 自→他 | 自分の考えや主張を提示し、読み手を説得すること。                                         |
| 自→自 | 意見文を書いていく中で、改めて自分自身の考えや行動を見つめ直したり、普段見過ごしがちな社会の事柄に対して考えを深めたりすること。 |
| 他→自 | 自分とは異なる考えを知り、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすること。                          |

## 意見文に必要な要素はなんだろう

|                    |
|--------------------|
| テーマ                |
| 主題 (テーマについてどう考えるか) |
| 論証                 |

## 考えられる構成にはどういったものがあるだろう

|                 |                                        |
|-----------------|----------------------------------------|
| 頭括型 (主題+論証)     | A について B と思う。なぜなら C だからだ。              |
| 双括型 (主題+論証+主題)  | A について B と思う。なぜなら C だから A について B 思うのだ。 |
| 尾括型 (テーマ+論証+主題) | A について C だから B と思う。                    |

## 「環境に優しい良い品を選ぼう」を分析してみよう！

組 番 氏 名 ( )

**テーマは何だろう** (何について書かれているだろうか)

「合成洗剤並みに落ちる粉せっけんを作ろう」という要望について

**主題は何だろう** (テーマについてどのような意見を持っているだろうか)

合成洗剤よりも粉せっけんの方が汚れをよく落とす。消費者は、思い込みやイメージで判断するのではなく、自分自身の判断で環境に優しい良い品を選んでいく必要がある。

**どのような論証がなされているだろう** (どのような根拠・証拠が挙げられているだろうか)

- ①. 中学のときに実験したところ、合成洗剤よりも粉せっけんの方がよく落ちた。
- ②. 高校に入ってから友人に見せてもらった新聞記事によると合成洗剤より粉せっけんの方が優れている。

**よいところはどこだろう** (この意見文のよい点はどこだろうか)

きちんと各段論法に従って書かれている。  
自分の意見をきちんと論証できる事例を使っている。

**どうすればよりよく (よりわかりやすく・説得力ある意見文に) なるだろう**

論証に使われている事例がもっと新しい、最近のものの方がいい。

## 「テーマ」「論点」「主題」を切り出す練習をしよう

組 番 氏 名 ( )

**テーマ** (何について書くか)

自分が気づかないところで、他人に迷惑をかけていることについて

**主題** (テーマについてどのような意見を持っているだろうか)

周りを見て、自分のできる範囲で思いやりをもった行動をしよう

**論点** (どういった根拠・証拠があるだろうか)

障害者施設を訪問したときに、施設の利用者さんがされたお話  
携帯電話の電磁波が心臓ペースメーカーの動作に悪影響を与えること



# 意見文を書く準備をしよう！

組番氏名( )

**テーマ** (何について書くら?)

高校生が髪を染めることについて

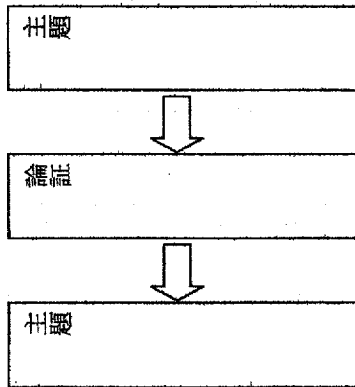
**主題** (テーマについてどのような意見を持っているたら?)

高校生も髪を染めていい

**論証** (どういった根拠・証拠があるたら?)

大人も染めているし、子どもだから染めてはいけない理由が見つからない  
子どもの人権があるから

**構成** (どのような構成で書くら?)



## 友達の意見文に意見文を書いてみよう！

組 番 氏 名 ( )

友達の意見文がよりよくなるように、アドバイスをかねて意見文を書いてみよう。

優れている所はどこか

理由

論証の仕方

的確な例が引ばつてあり、データも豊富で納得するしかなかったの。

改善できる所はどこか

理由

表現

誤字・脱字や主述のなじれが結構あったの。

共感・納得できる所はどこか

理由

大人も染めているし、子どもだから染めてはいけない理由が見つからない

子どもでも白髪の子はいるし、大人でもただおしゃれのために髪を染めている人もいると僕も思ったから。

疑問を持った所はどこか

理由

子どもの人権があるから

子どもの人権というものがどこまで適用されるものなのかよくわからなかったから。

#### 4. 授業のポイント

本授業のポイントは2つある。1つは、起承転結の四段論法で語られることが多い作文法を、三段論法で語りなおした点である。もう1つは、意見文の書き方を定式化したことである。定式化は、独自性を奪うためのものではない。むしろ、そうした定式化によって思考の道筋を示してやることで、独自の、独特の意見文が現れるのを期待するものである。

以上の2つをポイントに本授業は構成されている。

#### 5. 今後の課題

今後の課題として、次の3点を挙げておく。

第一の課題は、実践を行うことである。実践に敵う理論はない。本授業を実践し、そこから更なる改善をしていくことが必要である。

第二の課題は、先行事例研究を行うことである。これまで行われてきた意見文指導は、どこがよくて、どこが悪かったのか。それをきちんと分析し、よい点は授業に反映し、悪い点は授業から排していかなければならない。そのためにも、先行事例研究を行うことは必須である。

第三の課題は、相手意識を持たせる方法の考案である。今回の授業では、二回意見文を書かせている。このうち、第二の意見文の方は、「ある人の意見文に対する意見文」という形をとっているので、相手意識ははっきりしている。しかし、第一の意見文の方は、相手意識の持たせ方が難しい。この方法を考案してみる必要はあるだろう。

以上の3点を、本授業が今後に残した課題とする。

#### 6. 参考文献

江端義夫編『高校実用国語表現教室』広島大学教育学部国語文化教育学研究室、2002

江端義夫ほか『高等学校 国語表現 I』第一学習社、2003

江端義夫ほか『高等学校 国語表現 I 指導と研究 下巻』第一学習者、2003

荻谷剛彦『知的複眼思考法——誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α文庫、2002

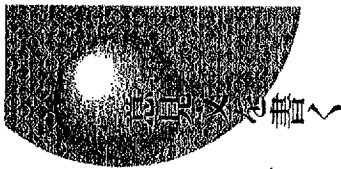
工藤順一『国語のできる子どもを育てる』講談社現代新書、1999

澤田昭夫『論文のレトリック』講談社学術文庫、1983

澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、1977

樋口裕一『樋口裕一の小論文トレーニング』ブックマン社、2000

樋口裕一『ホンモノの文章力——自分を売り込む技術』集英社新書、2000



# 意見を書く



意見文は、ある意見に対する自分の考えや主張を筋立てて書き表した文章をいう。  
 意見文には、論文、論説、評論などの種類がある。そのうち論文は、専門的な問題を扱う、新たな発見や見解の提示が求められる。論説・評論は、ともに一般的・普遍的な問題を扱うが、論説のほうが社会性が強く、社会的問題に対する建設的な意見や問題の解決方法の提示が求められる。一方、評論のほうは、扱う範囲が人間生活全般に及び、一般論よりは個性的な見解の提示が重視される。

ここでは、一般的に意見文の書き方について学習することにする。

意見文を書く目的は、自分の考えや主張を明らかにし、読み手を説得することである。しかし、それだけではない。意見文を書いていく中で、改めて自分自身の考えや行動を見つめ直したり、ふたたび見直ししなごな社会の事柄は決して考えを固めたりすることはない。また、他の人の書いた意見文を読むことにより、自分とは異なる考えを知り、自分のものの見方や考え方を広めたり深めたりすることもある。

意見文を書くことは、自分自身を磨かだし、人間関係を磨かだし、社会を任りよら磨かぬものに役立ていく、建設的に行動であると言える。

## ▶ 意見文の種類

- ① 論文 学位論文、学術論文、卒業論文など。
- ② 論説 新聞の社説・コラム、雑誌の巻頭言など。
- ③ 評論 書評、社会書評、全日本への論議(文芸賞、人物賞、芸術賞、文化賞など) など。

## ▶ 意見文の書き方

### ① テーマを決める。

テーマとは、何についての意見文を書くのかという題材に当たる。学芸新聞や文芸などは書くのが、あるいは、新聞の社説欄やあのコーナーなどに書くのかによって、「知識と培活動の風化について」のように身近な問題から、「ゴミ処理問題について」「地球の環境問題について」のように社会的な問題まで、さまざまなテーマが考えられる。このような案案の考案、なれに決して、何を、どのように扱いたいかを考え、テーマを決めることは、なお、日ごろからさまざまな問題に関心をもち、感想や意見を書き留めておけば、テーマを決めるのは簡単。

### ② 材料を集める。

テーマを決めたら、それに関連する材料を集める。たとえば「ゴミ処理問題について」の意見文を書くとしたら、ゴミ処理の現状や問題点、問題解決のための取り組みなど、意見を伝えるための具体的な材料が必要となる。材料は、具体的な体験があれば、文芸、観察や調査、実験などによる客観的なデータなどもある。集める材料はできるだけ幅広い種類のものとし、立場の異なるものも収集すると、予想される反対意見は構えることもできる。

### ③ 主題を考案する。

集めた材料を分析して、自分の意見を明確にする。「ゴミ処理問題について」というテーマ

その場合、たとえば、「この論議のためにはこの取巻を単純化すべきだ。」とか、「この取巻の単純化は、町の繁化に資する。」のようだ、テーマに対する自分の意見の論議とするのが主眼である。

④ 主題を論議するための根拠を考へる。

自分の意見の正当性を認めるための根拠を考へるためだけ、根拠をあげて論議することが必要である。それが論議である。論議はかなりの根拠を高くしても相手を説得するとはならないので、無数の根拠の中から自分の意見の正当性を立てるのと同様、客観的な根拠を考へなければならない。論議をする際には、反対意見を論議するよりも有効なので、反対意見を説得するための根拠も考へておくべき。

⑤ 根拠を考へる。

意見文の根拠とは、主題の置かれる位置によらず、次の三つの型がある。

1 反対型

- 主題の根拠 (無難)
- 論議
- 主題の根拠 (無難)

2 既知型

- 主題の根拠 (無難)
- 論議

3 既知型

- テーマの根拠
- 論議
- 主題の根拠 (無難)

反対型と既知型は、結論を先に提示するので、読者には自分の意見を明確に伝えることになっている。短い文章で論議を述べなければならない場合には、既知型を用いるべき。既知型は、問題の解決方法を提示する意見文に向いている。この場合、テーマに関する根拠が何を問題の持論を述べ、結論として問題の解決方法を提示する流れとなる。

⑥ 文題を考へる。

文題は、たとえば「この取巻の単純化」のようだ、テーマや主題を即して考へることが多い。そのほかに、「一歩の進められれば」のようだ、論議に興味を持たせるような題のつけ方もある。

⑦ 記号をつける。

テーマに即して主題が考へられているが、根拠が考へられているか、意見と根拠が明確に区別された構造になっているかを確かめ、全体の論議性を整理しながら書く。そして、主題の一貫性、主題と根拠の整合性、読者のわかりやすさ、表記の正確さなどに留意する。



環境に優しい良い品を選ぶ。 生徒作品

紛せつけんは環境に優しい紙類と呼ばれている。告白新聞を
読んでみると「全政協紙やみに差する紛せつけんを作ること
という案が掲げられていた。これについて私の意見を述べたい。

私は中学三年生のとき、理科の課題で紛せつけんと全政協紙
の紙の差を味合を調べる実験をした。結果は予想に反して「紛
せつけんは紙の質がよいからよく書きこむ」だった。しかし、
本格的な実験ではないし、私の出した結果があまりよいもの
だ。このときも全政協紙の威力を感じて感嘆した。

ところが、高校に入り、友人に見せてもらった雑誌の中には、
「一枚の新聞のコピーがあつた。一枚は半信紙の用紙をコピーし
たが、半年間の実験の結果をまとめた「こんな紙はよく使いた
いのは米ばかり100%の紛せつけんである」というものだ。あ
う一枚も「全政協紙より優れる紛せつけん」という紙があった。
この記事が掲載されたのはなんと十が半年前のこと。私が生ま
れる前だ。こんな結果が報告されていた。私は、中学生のとき
の実験結果が正しかつたことに大きな驚きを感じた。同時に、
自分の考えが思ひ込みをすしとコピーされたイメージなどの

情報に左右されていたことに気づいた。

全政協紙が環境や人体に及ぼす悪影響を考えると、環境に優
しい紛せつけんを使うのが当然の選択と言える。ところが新聞
には、多くの人が、紙れをよく書とす紛せつけんの方を薦め、
全政協紙の方がよく差るというイメージだけで紛せつけん
を敬遠するのがある。私たちが消費者は、思ひ込みイメージで
判断するのはなく、自分自身の判断で環境に優しい良い品を
選んでいく必要がある。



学習

図1の生徒作品の構成を分析し、主題とその根拠を整理してま
よ。

図2の文章は、新聞の全政協紙と掲載されたものである。この報
告を読みとると、よほど考えながら、自分の意見を四言五言で書
いてみる。

紙やひらたは紙中のリサイクル
環境問題の解決には、紙類は重要な役割を
果たす。紙類は環境に優しい材料であり、
また、大規模な生産と消費のサイクルを
サポートします。
その一方で、紙類の生産には多くの資源と
エネルギーが必要であり、また、紙類の
廃棄物は環境に悪影響を及ぼす。
したがって、紙類の生産と消費の両方
で環境に優しい材料を使用することが
重要です。
紙類の生産には、リサイクル紙や再生紙
の使用が効果的です。また、紙類の消費
は、環境に優しい紙類を選択することが
重要です。
紙類の生産と消費の両方でも、環境に
優しい紙類を使用することが重要です。

紙中のリサイクルは本人には見えませんが、紙類の生産と消費の

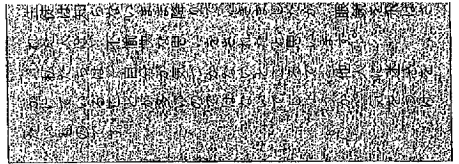


図3は、図1の生徒作品から一語を採り、大団字印刷の要領を
整えてみる。

- 1 環境問題
- 2 再生紙
- 3 資源
- 4 環境問題の解決
- 5 環境問題
- 6 少子・高齢社会

図4のかながなを整理してみる。

- 1 紙類は再生紙の多いものにする。
- 2 町の緑化にサクラコナする。
- 3 コンキをあげて調製する。
- 4 全政協紙のイメージを認める。
- 5 紛せつけんをコピーにする。

第2節 図解を用いたり数式に代えたり抽象化を用いて理解の仕方を幾重にも組み替えたりすることによって説得力を強化する書き方ができる

春名 聡子

I、学習者観（高校二年生）

学習者は、これまでの学習によって、基本的な意見文の書き方、つまり、三段論法等は第一節によって理解している。さらに、学習者たちは日ごろから、数学的思考を身に付けるような授業を受けている。

その思考方法を自分がどの程度身に付けられているかを、意見文を書くという作業を通して知る。そして、クラスメートの書いた意見文を読むことによって、新たな考え方を知り、それを取り入れていこうとするのではないだろうか。

こうして、学習者たちに図形的・抽象的な理解の仕方をより意識させ、会得させたい。

II、本節の可能性

- 自分が収集した情報を自らさまざまな方法で理解し、それをどのように使えば説得力のある文章になるのかを知ることができる。
- 他者の文章に触れ、自分以外の理解の仕方を知り、考えの幅を広げることができる。
- 他者の意見を聞き、自分の理解の仕方を再認識し、また、それをより深めることができる。

学習指導計画（全4時）

指導目標

- 図式化や抽象化を行うことができるようになる。
- どのような書き方が、説得力を高めるのかを発見する。
- 説得力のある意見文が、書けるようになる。

|         |         | 指導目標                                      | 学習活動                                                                                                                           | 指導上の留意点                        |
|---------|---------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 第一<br>次 | 第一<br>時 | ○意見文を書く際に、どのようにして文章に説得力をもたせるかを、考えることができる。 | ○教科書 pp.94（第一学習社『国語表現Ⅰ』「環境に優しい良い品を選ぶ」）の生徒作品を読む。<br>○この作品で説得力がある部分はどこかを見つけ、ワークシート①に記入する。<br>○他にどうすれば説得力が強化できるかを考え、ワークシート①に記入する。 | ○学習内容が説得力のある意見文を書くことであることを伝える。 |



|     |     |                                                                                                        |                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第二次 | 第二時 | <p>○図式化や抽象化にはどのようなものがあるのか理解させる。</p> <p>○説得力を増すための情報を収集することができる。</p> <p>○集めた情報を説得力ある文章へとつなげることができる。</p> | <p>○資料①～③をみて、図式化や抽象化とはどのようなものなのかを学ぶ。</p> <p>○新たに自分で意見文を書くために、テーマを決め、根拠として必要な情報を集める。</p> <p>○自分で集めた情報をどのように配置し、抽象化、図式化はどこに使うかワークシート②を使いながら考える。</p> | <p>○図書館に集合させる。</p> <p>○pp.95目にある3～6（3、読書離れ 4、携帯電話の利用マナー 5、情報化社会 6、少子、高齢化社会）の中からテーマを一つ選び、1000字程度の意見文を書くことを伝える。</p> <p>○意見文を書くために情報収集をすることを告げる。</p> <p>○図書や、VTR、インターネットを使って情報を収集するように指示する。</p> <p>○説得力を高めるには、情報の配置を考え、積極的に図式化や抽象化を行うことを教える。（ワークシート①を配布し、生徒の活動を援助する。）</p> |
|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|         |         |                                             |                                                                                                    |                                                                     |
|---------|---------|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 第二<br>次 | 第三<br>時 | ○前時に収集した情報を使って、説得力のある意見文を書くことができる。          | ○前時に収集した情報を使って、意見文を書く。                                                                             | ○1000字で意見文を書くように言う。<br>○適宜机間指導を行う。<br>○書き終えなかった者には、次時までに書いてくるように言う。 |
| 第二<br>次 | 第四<br>時 | ○他者の書いた意見文を評価し、説得力のある部分と改善すべき部分を見極めることができる。 | ○書きあがったものを、班の生徒と交換し読みあう。それについて、ワークシート③を使いながら説得力のある部分と改善すべき点を見極める。<br>○説得力のある意見文は、どうすれば書けるのか、再度考える。 | ○班の生徒と意見文を交換し、読み合い、評価するように言う。                                       |

第一次 第一時 指導案

本時の目標

- 「環境に優しい良い品を選ぼう」を読んで、どの部分に説得力があるかを見極めることができる。
- さらにどのような工夫をこらせばより強い説得力を持つかを、考えることができる。

| 時間  | 学習活動                     | 指導上の留意点                                                      | 評価の観点                |
|-----|--------------------------|--------------------------------------------------------------|----------------------|
| 0分  | ○教科書の本文を読む。              |                                                              |                      |
| 5分  | ○本節の学習内容を知る。             | ○本節の学習内容が、説得力のある意見文を書くことであると説明する。                            | ○学習目標を理解できたか。        |
| 10分 | ○本文の中で、どの部分に説得力があるかを考える。 | ○個人で本文中のどこに説得力があるかを考え、ワークシート①に記入するように指示する。                   | ○説得力のある部分を探すことができたか。 |
| 20分 |                          | ○班に分かれて、説得力がどこにあるか意見をまとめさせる。<br>(各班に小黒板を渡し、それに意見を書かせ、黒板にはる。) |                      |

|     |                                    |                                                                               |                                                    |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 30分 | ○どのような工夫をすればさらに説得力が増すかを考える。        | ○そのまま班の形で、本文にどのような工夫をすればより説得力のある文章になるか考え、ワークシート①に記入させる。<br>(班の代表に発表させ、板書を行う。) | ○改善のために、自分の意見が持てるか。<br>○本文がより説得力を持つようなアイデアを考え出せるか。 |
| 42分 | ○説得力のある文章を書くためにはどのような工夫が要るのか、理解する。 | ○板書の内容をもとに、文章に説得力をもたせる工夫の例を説明する。                                              |                                                    |
| 47分 | ○次時の学習内容を理解する。                     | ○次時から、自分で意見文を書くことを伝える。                                                        |                                                    |

第二次 第二時 指導案

本時の指導目標

- 有効な情報を収集することができる。
- 情報収集のために多様な媒介を使うことができる。
- 自分の意見文に必要な図式化や抽象化を選び、使うことができる。

| 時間 | 学習活動                           | 指導上の留意点                                                                                                       | 評価の観点                    |
|----|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 0分 | ○本時の学習内容を知る。                   | ○授業前に図書館に移動させておく。<br>○pp.95目にある3～6の中からテーマを一つ選び、1000字程度の意見文を書くことを示す。<br>○前時を振り返り、説得力ある意見文にするための情報を収集することを確認する。 |                          |
| 5分 | ○図式化や抽象化にはどのようなものがあるのか知り、理解する。 | ○資料①～③を配布し、それぞれについて簡単に説明し、図式化や抽象化の例を理解させる。<br>○図式化や抽象化には他にもたくさん方法があるので、独自に考え出すことができればそれを使えばよいことを説明する。         | ○図式化や抽象化がどのようなものか理解できたか。 |

|     |                     |                                                                                                                                                                                                                                    |                             |
|-----|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 15分 | ○テーマを決定し、情報収集を開始する。 | <p>○ワークシート②を配布し、調べた本の題名や内容を記入し、さらに、図式化や抽象化の案をそこに書いてみるように指示する。</p> <p>○図書、VTR、インターネットを使用してよいことを伝える。</p> <p>○積極的に図式化や抽象化を行うように言う。</p> <p>○机間巡視をして、生徒の様子を見ながら、情報収集の仕方などについてアドバイスをを行う。</p> <p>○情報収集が早く終わったら、情報の組み立て方などを考えるように指示する。</p> | ○説得力を高められるような資料の収集に努力しているか。 |
| 47分 | ○次時の学習内容を知る。        | <p>○次時は、本時収集した情報をもとに、各自で意見文を書くことを確認する。</p> <p>(まだ資料が集まっていない生徒は、次時までには資料をそろえておくように指示する)</p>                                                                                                                                         |                             |

第二次 第三時 指導案

本時の指導目標

- 意見文の中に図式化や抽象化を取り入れる。
- 収集した情報を効果的に使い、説得力のある意見文を書く。

| 時間  | 学習活動         | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                             | 評価の観点                                                                                               |
|-----|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0分  | ○本時の学習内容を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時収集した情報をもとに、1000字程度の意見文を書くことを確認する。</li> <li>○意見文に図式化や抽象化を用いて、説得力を持たせるように考えさせる。</li> <li>○図式化や抽象化したものは、意見文中のどこに挿入しても良いことを示しておく。</li> <li>○次時、班で意見文を読み合い、評価することを確認する。</li> <li>○原稿用紙を3枚配り、足りなくなったら前に取りに来るように指示する。</li> </ul> |                                                                                                     |
| 10分 | ○意見文を書く      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○適宜机間指導を行う。</li> <li>○早く書き終わっても、時間一杯推敲を行うように指示する。</li> </ul>                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○図式化や抽象化を行うことができてきているか。</li> <li>○意見文として成り立っているか。</li> </ul> |

|     |              |                                                                 |                                                              |
|-----|--------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 47分 | ○次時の学習内容を知る。 | ○班の4人で意見文の評価をしあうことを確認する。<br>○本時に書き終えていない生徒も、次時には完成させてくるように指示する。 | ○収集した情報を有効に利用できているか。<br>○意見文に説得力があるか。<br>○与えられた時間を有効に使えていたか。 |
|-----|--------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|



第二次 第四時 指導案

本時の指導目標

- 他者の文章を読み、理解し、評価することができる。
- 他者の意見を聞き、自分の意見文を見直すことができる。
- 他者との意見のやりとりを通して、再度説得力のある意見文について考えることができる。

| 時間 | 学習活動                                   | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                      | 評価の観点                |
|----|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 0分 | ○本時の学習内容を知る。                           | ○意見文を班の中で交換し、評価し合うことを確認する。<br>○ワークシート③を配布する。                                                                                                                                                                 |                      |
| 5分 | ○班の中で意見文を交換し読み合う。そして一人ずつの意見文について評価し合う。 | ○一番の観点は、意見文に説得力を持たせる情報を図式化や抽象化を用いて活用できているか、だということを確認する。<br>○その他、三段論法になっているか、意見が明確に示されているか、文章に一貫性があるか、など、基本的なことがきちんとなされているかどうかにも注意することを確認する。<br>○意見文を読んだ相手のワークシート③にその意見文を読んで自分が感じたこと、良かった点、改善点を記入して返すように指示する。 | ○他者にとって有益な評価ができているか。 |

|     |                            |                                                                              |                          |
|-----|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 35分 | ○他者の意見を聞いて、自分の意見文をもう一度考える。 | ○それぞれ他者の意見を聞いて、自分の意見文のどこがよかったのか、どのような改善点があったのかを理解し、次にどう生かせばよいかワークシート④に記入させる。 | ○他者の意見を受け止め、それを理解できているか。 |
| 47分 |                            | ○全員の意見文とワークシート③、④を回収する。<br>(次時に、教師がチェックしたものを生徒に返却する。)                        |                          |

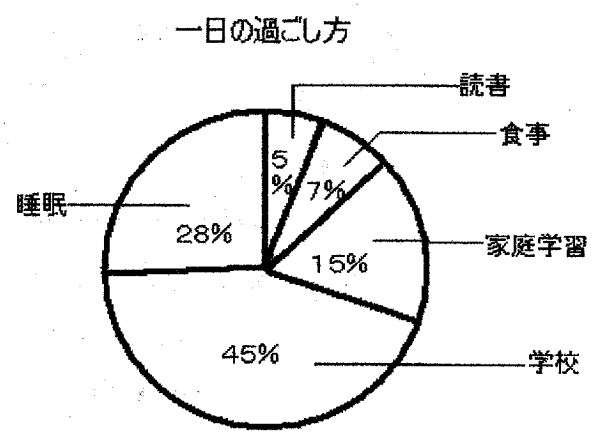
★どのようにすれば説得力のある文章が書けるのか。

説得力のある文章を書く上で最も重要なことは、情報を完全に理解することである。情報を理解するためには、その情報を、頭の中で図式化したり、抽象化したりすることが必要なのだ。そうすることによって、情報を整理することができ、それぞれが鮮明に見えてくる。そして、理解したそれぞれの情報を、結びつけて説得力を持たせるのだ。この結びつけるという作業を行うとき、情報を抽象的に理解していることが特に重要な意味をもつ。情報の結びつき方がさまざまに見えてくる。普通に考えていただけでは見えなかった結びつきが見えることによって、より強固な論を展開でき、説得力が強化できるのである。

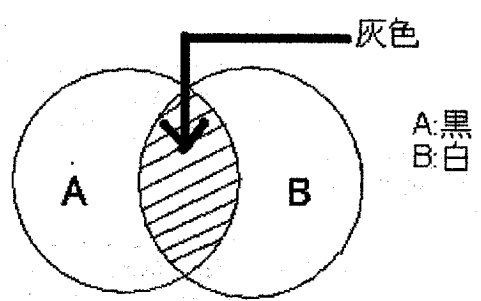
また、抽象的な考え方を身に付けていれば、文章も理路整然と書け、文章の説得力を際立たせることができる。普段から、抽象的に物事を理解するようにしていれば、書く文章は自然に説得力のあるものになるはずなのである。

### 図式化

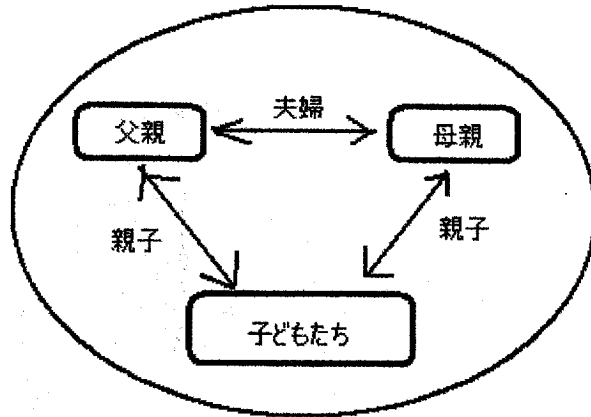
「円グラフ」



「ベン図」

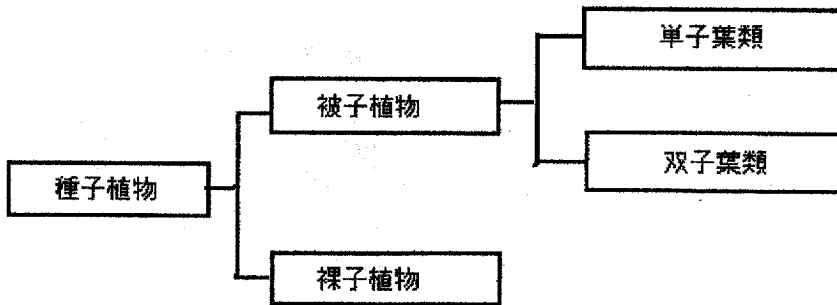


「相互関係を表す」

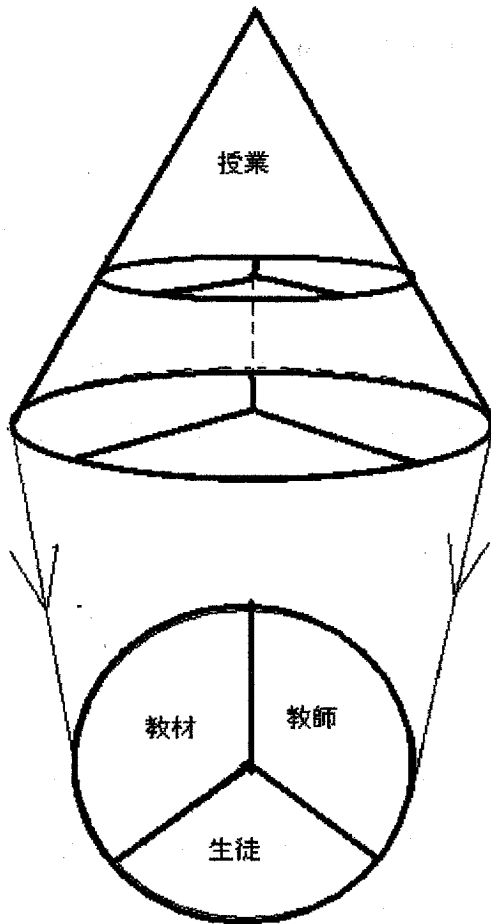


核家族

「樹形図」



「立体的に表す」



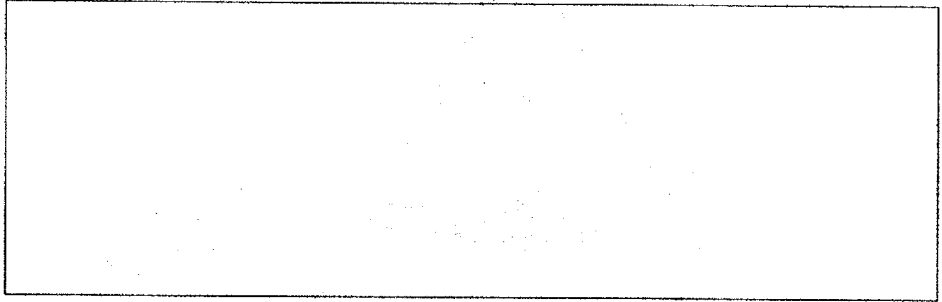
教師と教材と生徒が存在して、その上に授業は成り立つ。

「式を使って表す」

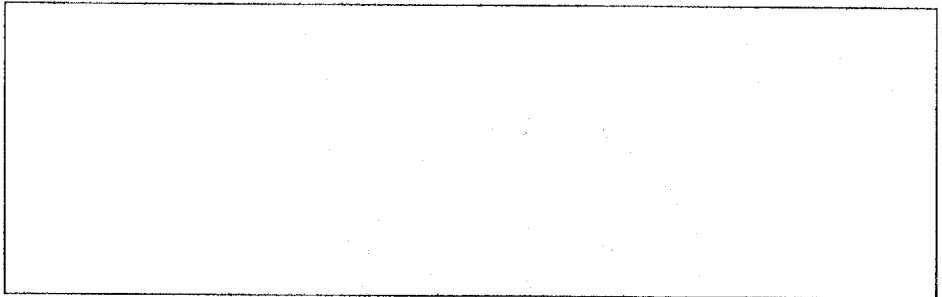
- (男性の雇用機会) = (女性の雇用機会)
- (日本の面積) < (タイの面積)
- (日本の面積) ≪ (ロシア連邦の面積)
- $H_2 + Cl_2 \rightarrow 2 HCl$                       e.t.c

**『環境に優しい良い品を選ぼう』を読んで**

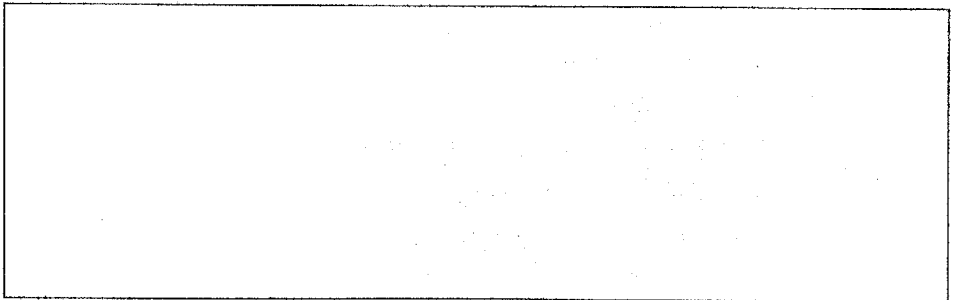
1. この作品のどこに説得力があるのか考えよう。



2. 班員はどこに説得力があると考えていたか、自分と異なる意見をメモしておこう。



3. どうすればこの作品はもっと説得力のある文章になるか考えよう。



**調べた本についてメモを取っておく**

| 書籍名 | 著者名 | 出版年 | 発行所 | 引用・参考にした箇所 |
|-----|-----|-----|-----|------------|
|     |     |     |     |            |

**図式化・抽象化する内容はどんなものにするか考える**

1. 内容を具体的にまとめる。

(例) 地球における海と陸との割合を円グラフで表す。

2. 実際に図式化・抽象化してみる。

( )組( )番 名前( )

あなたの意見文に対する評価

( )より

|  |
|--|
|  |
|--|

( )より

|  |
|--|
|  |
|--|

( )より

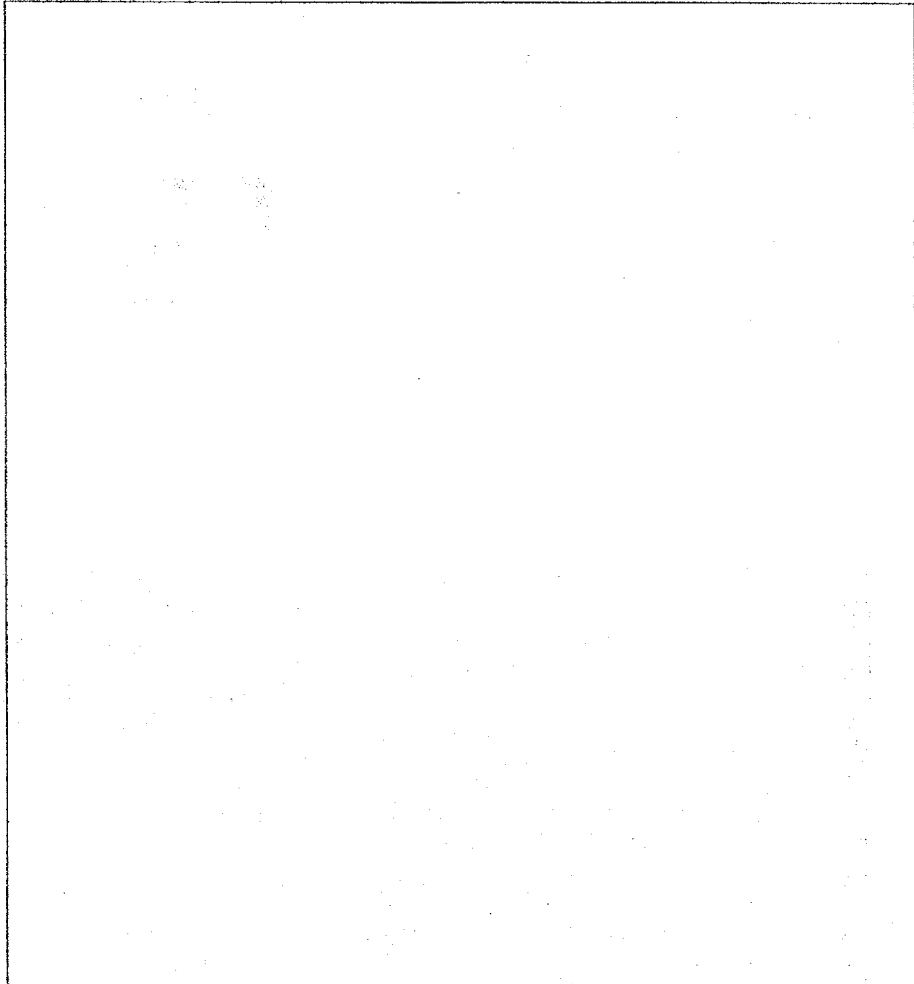
|  |
|--|
|  |
|--|



ワークシート④

( )組( )番 名前( )

班員の評価を聞いて、次に意見文を書くときにはどのようなことに注意すべきだと考えたのか書いておこう。





# 環境に優しい良し品を選ぼう 生徒作品

絵をみると環境に優しいお茶と書かれている。お茶、新聞を見てみると「合成分類お茶は環境を壊さないお茶を作ろう」という環境を壊さないお茶。これについて私の意見を述べたい。

私は今年三年生になると、理科の課題で絵をかくことと合成分類のお茶の作りかたを調べる作業をした。結果は予想と反して「絵をかくことよりもお茶を調べる作業が面白い」と感じた。しかも、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

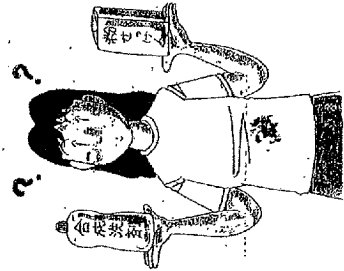
環境に優しいお茶と書かれている。お茶、新聞を見てみると「合成分類お茶は環境を壊さないお茶を作ろう」という環境を壊さないお茶。これについて私の意見を述べたい。

私は今年三年生になると、理科の課題で絵をかくことと合成分類のお茶の作りかたを調べる作業をした。結果は予想と反して「絵をかくことよりもお茶を調べる作業が面白い」と感じた。しかも、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。



## 対話

図1の生徒作品の趣意を分析し、主題とその構成を整理しよう。

図2の文章は、新聞の取組を説明している。この文章は、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

図1の生徒作品の趣意を分析し、主題とその構成を整理しよう。

図2の文章は、新聞の取組を説明している。この文章は、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

ところが、お茶を調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

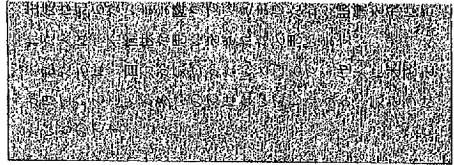


図3の文章は、新聞の取組を説明している。この文章は、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

- 1 絵をかく
- 2 絵をかく
- 3 絵をかく
- 4 絵をかく
- 5 絵をかく
- 6 絵をかく

図4の文章は、新聞の取組を説明している。この文章は、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。これは、お茶の作りかたを調べる作業が面白いと感じた。

- 1 絵をかく
- 2 絵をかく
- 3 絵をかく
- 4 絵をかく
- 5 絵をかく

### 第3節 ディベートをしないでディベートを想定した文章が書けるようになる

津田 佳奈子

#### 1、指導の目標

- ディベートの方法を応用して論理的かつ説得力のある文章を書くことができるようにさせる。
- 主張に対する根拠を明確に述べた文章が書けるようにさせる。
- 自分の主張に対する反対意見を予想した文章が書けるようにさせる。

#### 2、指導の要点

##### ◆授業の大まかな流れ

- ディベートについての基本的な知識を習得する。  
↓
- ディベートをおこなう。  
↓
- ディベートの論理を応用して文章を書く。

学習者は、これまでに小学校や中学校の授業でディベートを経験している者が大半であろう。しかし、その際採用していた方法や形式はそれぞれの学校により異なり、学習者にはディベートに関する意識や知識などに差があると考えられる。

今回は、『国語表現Ⅰ』pp. 100「ディベートをする」の方法を採用する。具体的には、論題そのものに対して肯定と否定に分かれて議論を進めていく方法である。つまり「小・中学校の給食は廃止すべきである」という論題に対して、現状（小・中学校で給食制度を実施すること）を否定する側（論題に対しては肯定側）と、現状を肯定する側（論題に対して否定側）に分かれ

て議論を進めていく方法である。よって「ディベート甲子園」で採用されているような、肯定側がプランを提案しそのプランを実行した場合のメリットを述べ、否定側はプランを実行した場合のデメリットを述べるという方法は今回は採用しないこととする。なぜかという、小論文を書く際、与えられたテーマについての自分の立場を明らかにし、その立場を自分がとる理由を説明していく、ということ考えた時、本教材の方法の方が学習者に分かりやすく有効であると思われるからである。

### 学習目標

- ディベートをしないで、ディベートを想定した文章が書けるようになる。
- 物事を秩序立てて論理的に考え、表現できるようになる。

### 指導計画

| 時 | 学習目標                                                                                                                                   | 学習内容                                                                                                                               | 指導上の留意点                                                                                                                 |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ディベートの方法・論理について理解する。</li> <li>○ディベートの方法・論理を踏まえ、立論原稿を書くことができる。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ディベートの方法について理解する。</li> <li>○ディベートの立論原稿を作る。</li> <li>○図書館で情報収集をする。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書を使って説明する。</li> <li>○教科書から学んだディベートの方法を生かし、立論原稿を書かせる。</li> </ul>               |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時で学習したディベートの方法・論理を活用してディベートを行うことができる。</li> <li>○自分たちの行ったディベートの反省点や良かった点を考えることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループに分かれる。</li> <li>○フローシートの書き方を理解する。</li> <li>○ディベートを行う。</li> <li>○班で反省点を話し合う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○審判役を決めさせる。</li> <li>○時間配分を提示する。</li> <li>○話し合ったことをワークシートにまとめさせ提出させる。</li> </ul> |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ディベートの論理を上手く利用し、説得力のある文章を書くことができる。</li> <li>○与えられたテーマに対して自分の考えを秩序立てて論</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一時間目と同じワークシートを使って、小論文で与えられたテーマについて考える。</li> <li>○図書館で情報収集をする。</li> <li>○小論文を書く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートを使用して構想を考えさせ、ディベートの論理を十分活用するようにさせる。</li> </ul>                            |

|  |                   |  |  |
|--|-------------------|--|--|
|  | 理的に考え、表現することができる。 |  |  |
|--|-------------------|--|--|

○第一時学習指導案

本時の目標 ○ディベートの方法・論理について理解する。

○ディベートの方法・論理を踏まえ、立論原稿を書くことができる。

| 学習活動                                                                                                                                                                                  | 指導上の留意点                                                                                                                                  | 評価の観点                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| <p>○今までどのようなディベートをしてきたかを発表する。</p> <p>○ディベートの目的について考える。</p> <p>○主張に説得力を持たせるために必要なものは何かを考える。</p> <p>○ディベートの方法について学習する。<br/>・「論題」「立論」「反対尋問」「最終弁論」等のディベート用語の意味を理解する。<br/>・ディベートの流れを理解</p> | <p>○ディベートは自分の主張を論理的に説明し、主張の正しさを人に説得するものであるということを押さえさせる。</p> <p>○具体例や、理由などが学習者の側から挙がるようにする。</p> <p>○教科書 p p. 100～p p. 102 を使って説明していく。</p> | <p>○ディベートの方法・論理について理解することができたか。</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| <p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細かいルールについて理解する。</li> <li>・判定について理解する。</li> </ul> <p>○立論原稿の書き方を理解する。</p> <p>○「日本は死刑制度を廃止すべし」について立論原稿を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート①「◇根拠」までを記入する。</li> <li>・図書館へ移動し、主張の証拠資料を探す。ワークシート②記入。</li> <li>・調べた情報をもとに、ワークシート①の「◇根拠の説明」を記入させる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・判定により客観的に議論を観察させる。また後に小論文を書く際に客観的な視点を持つことや、どういふことが説得力を生むかなどを考えさせる。</li> </ul> <p>○教科書 p p. 103～p p. 105 を利用して、主張の根拠や主張の説明が必要であることを説明する。</p> <p>○6人のグループを作らせる。3人が肯定側、残り3人が否定側の立論原稿を作るようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人で話し合わせて協力して立論原稿を作らせる。</li> <li>・根拠は3つと決めておく。</li> <li>・インターネットの使用方法を説明し、『知恵蔵』『imidas』『現代用語の基礎知識』『日本の論点』などを紹介する。</li> <li>・時間中に終わらなかった場合は宿題とし、次回までに完成させてくるようにする。</li> </ul> <p>○次時の予告をする。</p> | <p>○ディベートの方法・論理を踏まえ、立論原稿を書くことができたか。</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|

○第二時学習指導案

- 指導目標 ○前時で学習したディベートの方法・論理を活用してディベートを行うことができる。
- 自分たちの行ったディベートの反省点やよかった点を考えることができる。

| 学習活動                                                                                                                       | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 評価の観点                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| <p>○前時で決まった6人グループに分かれる。</p> <p>○フローシートの書き方について理解する。</p> <p>○提示された時間をもとに、2人で話し合う。</p> <p>○ディベートを行う。</p> <p>○班で反省点や良かった点</p> | <p>○肯定側の3人のうち1人、否定側の3人のうち1人を審判とする。肯定側・否定側のディベーターはそれぞれ2人とする。</p> <p>○ワークシート③を使用して説明する。</p> <p>○時間配分を提示する。<br/>           肯定側立論 3分<br/>           否定側立論 3分<br/>           作戦タイム 2分<br/>           否定側反対尋問 1分<br/>           肯定側反対尋問 1分<br/>           作戦タイム 1分<br/>           否定側の最終弁論 2分<br/>           肯定側の最終弁論 2分</p> <p>○それぞれのグループのディベートが上手くいくよう、声の大きさなどに配慮させる。</p> <p>○班で一枚ワークシート④を</p> | <p>○前時で学習したディベートの方法・論理を活用してディベートを行うことができているか。</p> <p>○自分たちの行った</p> |



|                  |                                                   |                                    |
|------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------|
| <p>について話し合う。</p> | <p>記入させる。<br/>○ワークシート①～④を回収する。<br/>○次時の予告をする。</p> | <p>ディベートの反省点や良かった点を考えることができるか。</p> |
|------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------|

○第三時学習指導案

- 指導目標 ○ディベートの論理を上手く利用し、説得力のある文章を書くことができる。
- 与えられたテーマに対して自分の考えを秩序立てて論理的に考え、表現することができる。

| 学習活動                                                                  | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                | 評価の観点 |
|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| <p>○ディベートについて簡単に確認する。</p> <p>○提示された小論文の課題に対して、ワークシート①の「◇根拠」の欄までをう</p> | <p>○前回までのディベートで学習したことをもとに小論文を書くことを告げる。</p> <p>○小論文の課題を提示する。<br/>(文字数は800字)<br/>「あなたが住んでいる所の近くに、ごみ焼却場を建設することを想定し、建設賛成・反対の両方の立場での考えを、それぞれ述べよ。<br/>(2003年 前橋工科大 入学試験問題)</p> <p>○ワークシート①②それぞれ2枚ずつ配り、建設賛成・反対両方について書かせる。</p> |       |

|                                                                                |                                                                |                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>める。</p> <p>○図書館で情報収集をする。</p> <p>○ワークシート①の「◇根拠の説明」を記入する。</p> <p>○小論文を書く。</p> | <p>○1時間目と同じ要領で行わせる。</p> <p>○小論文を回収する。</p> <p>○後日、添削して返却する。</p> | <p>○ディベートの論理を上手く利用し、説得力のある文章を書くことができるか。</p> <p>○与えられたテーマに対して自分の考えを秩序立てて論理的に考え、表現することができるか。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|

ワークシート②

☆証拠を探そう！

名前( )

インターネットや新聞記事や書籍や雑誌などを使って証拠の差違をよめる証拠(指紋)を探そう！

証拠①についての情報

証拠②についての情報

証拠③についての情報

プリント①

☆立論原稿を作ろう！

名前( )

◇論題

|  |
|--|
|  |
|--|

◇主張

|  |
|--|
|  |
|--|

◇根拠

|   |  |
|---|--|
| ① |  |
| ② |  |
| ③ |  |

◇根拠の説明

|   |  |
|---|--|
| ① |  |
| ② |  |
| ③ |  |

②  
 ①  
 ②  
 ③  
 ④  
 ⑤  
 ⑥  
 ⑦  
 ⑧  
 ⑨  
 ⑩  
 ⑪  
 ⑫  
 ⑬  
 ⑭  
 ⑮  
 ⑯  
 ⑰  
 ⑱  
 ⑲  
 ⑳  
 ㉑  
 ㉒  
 ㉓  
 ㉔  
 ㉕  
 ㉖  
 ㉗  
 ㉘  
 ㉙  
 ㉚  
 ㉛  
 ㉜  
 ㉝  
 ㉞  
 ㉟  
 ㊱  
 ㊲  
 ㊳  
 ㊴  
 ㊵  
 ㊶  
 ㊷  
 ㊸  
 ㊹  
 ㊺  
 ㊻  
 ㊼  
 ㊽  
 ㊾  
 ㊿

| 肯定側立論 | 否定側立論 | 否定側<br>反駁要旨 | 肯定側<br>反駁要旨 | 否定側<br>最終弁論 | 肯定側<br>最終弁論 |
|-------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|       |       |             |             |             |             |

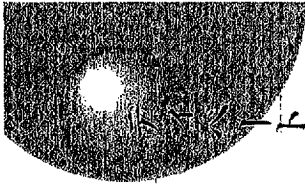
④

☆区名をしよう！

名前( )

「もしだれもよく認めるなら、」あの資料は効果的だ。」「など、区名や区章の書き方を話し合ってみよう。

| 書名欄      | 内容欄      |
|----------|----------|
| ☆区名をしよう！ | ☆区名をしよう！ |
| ☆区章をしよう！ | ☆区章をしよう！ |



# トナする



ディベートとは、あるテーマ（論題）を巡って、肯定する立場（A組）と否定する立場（B組）といった、相反する立場の二組に分かれ、定められたルールに従って討論し、どちらが勝っているかを競う討論会である。

これによって、論理的な思考力や討論する力、説得する力、聞く力などを身につけることをめざらしている。

## ディベートの形式

- ① ディベートは、一般に立論・反論・質疑・最終弁論の三要素から成り立っている。
  - ・立論 自分たちの考えを主張し合う。
  - ・反論・質疑 立論に対して質疑応答を行う。
  - ・最終弁論 相手の意見を批判するところと、自分たちの意見の正しさを主張する。
- ② 二つの組には同じ審問が与えられ、順次交代して討論を進める。
- ③ テーマはあらかじめ決めておき、事前に資料を準備しておく。
- ④ A組・B組はそれぞれ同人数（三～五名）とし、他の者は審判として参加する。
- ⑤ 一名が司会（進行は司会係も兼務）を務める。司会は、議論がテーマからはずれない

ように、討論をスムーズにする。発言者は常に時間を意識し、直ちに発言を停止させる。

## ⑤ ディベートの手順

立論 A組から始め、代表の一名が自分たちの正しさを主張する。続いてB組に移る。

反論・質疑 順番を交代してB組から始め、A組の主張に対して質問し、A組が答える。

続いて、A組からB組に対して反論・質疑に移る。

最終弁論 ここでもB組から始め、代表の一名が自分たちの考えの正しさを主張する。

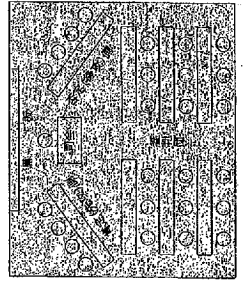
最後にA組が最終弁論を行う。

作戦タイム 立論の後に反論・質疑の後に、それぞれ作戦タイムを置く。立論の後の作戦タイムでは、相手への質問に答えを打ち合われる。反論・質疑の後の作戦タイムでは、これまでの討論をふまえて、自分たちの主張をまとめる。

## ⑥ 審判は、議論の論理的な資料の正確さ、話し方などを定められた観点に従い、二つの組の議論のしなだめられたためについて勝敗を判定する。

## ディベートの審判の観点

- ① 立論では、①自分たちの主張を明確に示す、②主張を裏づける根拠や具体例を知り、その二点が大切である。その際、「私たちは、こう主張します。その根拠は三つあります。まず第一は、第二は、第三は、」のように、まず主張を知り、次に根拠を列挙していくとわかりやすい。
- ② 反論・質疑では、①相手の主張を支える根拠は適切か、②相手の資料・テーマ、具体



## ディベートの形式

- ① A組の立論
- ② B組の立論
- ③ 作戦タイム
- ④ B組の反論・質疑
- ⑤ A組の反論・質疑
- ⑥ 作戦タイム
- ⑦ B組の最終弁論
- ⑧ A組の最終弁論
- ⑨ 判定

## ディベートの審判の観点

- ① ディベートは、論理的な資料や、主張を裏づける根拠や、話し方などを定められた観点に従って評価される。そのため、以下の点に注意を払って審判員が評価を行う。
- ② 発言の後に、個人は短い時間があるため、審判員は発言のしなだめを区別する。
- ③ 発言のうち、重要な部分と重要な部分とを区別する。
- ④ 審判員は、審判員が評価するべき部分と区別する。
- ⑤ 審判員は、審判員が評価するべき部分と区別する。
- ⑥ 審判員は、審判員が評価するべき部分と区別する。
- ⑦ 審判員は、審判員が評価するべき部分と区別する。
- ⑧ 審判員は、審判員が評価するべき部分と区別する。
- ⑨ 審判員は、審判員が評価するべき部分と区別する。





以上の三点を踏襲して、小・中学校の給食は廃止する  
くもておなうと主張します。

記者 踏襲して任意の立論をお願ひします。時間は一十分  
三十分です。

●任意の立論

任意側 1 私たちは、小・中学校の給食は必要であり、廃止す  
るくもておなうと主張します。給食廃止反対の理由は三つ  
あります。

- 第一、給食では栄養バランスのとれた食事ができ  
るはず、第二、大切な食生活の場にならざるべし、
- 第三、家庭の負担が重くなつてゐるからです。

記者が説明しますと、第一の「バランスのとれた食糧」  
ですが、給食、手帳の配膳や手廻り食事は社会問題になら  
ないから、これを給食の管理責任が担つてゐることに  
現れてゐる。その際、専門の栄養士が献立を考へて作る給食  
が、栄養のバランスがとれてゐる。成長期の子供だ  
から栄養は欠かせないものなのです。

第二の「食生活の場」ですが、給食は児童、生徒どう  
しのお集まりの場となつてゐる。私の卒業した小学校  
には大きなホールがあり、そこで皆で集つて雑談

し、楽しくおしゃべりしながら食べるのが、給食はたゞ  
た楽しく時間でした。この給食の場を潰して、子供だけの  
お集まりがなくなります。

第三の「家庭の負担軽減」ですが、「一月の給食費は三  
千四百円。一食おなうだけになると四百円です。こんな食  
費負担は出されるおかげで、家庭の経済的負担は大きく減  
軽されてゐます。また、今は手廻りの家庭が増えています。  
親が手廻りをする負担がなく、仕事や他の家事に力を注ぐ  
ことができます。

以上の三点を踏襲して、小・中学校の給食は廃止する  
くもておなう、存続するくもておなう、私たちは強く主張  
します。

記者 では、反対側の方に譲つて作戦タイムに入ります。時間  
は十分間です。

(作戦タイム・十分間)

任意 だが今から反対側に入りませう。この反対側には、任意  
側から来る。時間は十分です。

●否決側の反対論

否決側 2 「給食の廃止は楽なのだ」とのことですが、現代の給  
食給食をいふのはおなうといふ、新聞社などの調査結果

が示してゐる。

任意側 2 全国調査によれば、給食廃止に賛成二二%、反対六  
一%です。

否決側 2 大層を説く方が反対してゐるのに「給食の廃止は楽  
なのだ」と言はれるのですか。

任意側 2 はい、親の支持・不支持と「給食の廃止の賛否」と  
は別のもので、

任意側 3 給食をやめると、好き嫌いが激しくなつたり栄養の  
バランスが崩れたりするのはありませんか。

任意側 3 はい、むしろ個人の健康状態によりますが、適切な  
食生活ができます。

任意側 4 「給食を問題の反対ができてゐない」と主張されて  
は、どの学校でも無学年給食にアレルギ一懸念がもたら  
していることを知りありませんか。

任意側 4 それは何とていいます。しかし問題は、給食を問題の  
子供だけの健康や健康状態にとらなければなりません、とい  
うことです。子供が大人になれば同じ健康や健康状態  
なのです。

任意側 4 だから、おなうの給食を廃止して健康な子供を健  
康にしてもらつたり、すぐおなうの給食を廃止して健康な

子供にしたいといふのはありませんか。

任意側 4 給食として「健た出される限り、子供には健康  
力を培つてゐるのです。

\*以下、反対側側の給食と健康問題を争論。

学習

図「小・中学校の給食は廃止するくもておなう」の任意側の  
立論から、否決側は以下の反対論を考へてゐる。

図次のいずれかのテーマで、グループで討論してま  
う。

- 1 年費は廃止するくもておなう
- 2 ベンキンは廃止するくもておなう
- 3 栄養士が十分健康な子供を育てる
- 4 栄養士が十分健康な子供を育てる

図次のおなうをテーマとしてまう。

- 1 アイテムを立論する。
- 2 論議をめぐらさう。
- 3 栄養士が十分健康な子供を育てる。
- 4 健康を育てる。



## 話し合いのしかた

### 話し合の目的

- 話し合は、次のような態度を備わることが大切である。
- 1 参加者はみな平等であること。協議を共に。
  - 2 自分から自分の考えを整理して発言し参加する。
  - 3 他人の意見を聞くだけでなく、自分から積極的に発言する。
  - 4 十分に熟れた協議が実現できること。進行は協力する。
  - 5 参加者全員が満足された協議がなされる。

### 話し合の準備

回会者は、理解し合ふための話し合が、それとも一つの協議を熟した後の話し合が、目的をなく理解し合ふた進捗である。また、十分な準備をしておくことになり、話し合の準備を怠らぬこと。協議を効果とする話し合は、合議時間を確保して、合議時間の5割を話し合に充てる。

協議者は、自分の話し合に十分な配慮をする機会があるが、合議の進捗を妨げる原因を排除するため、話し合の理に賛成するものである。

### 話し合の形式

次の自由協議やグループ協議は、授業やサークル活動でもよく用いられるものである。

#### 自由協議

参加者は自由な意見を出し合う形式で、アットホームな雰囲気である。話し合は準備がなくても参加者や考えを出せば、話し合が実現することである。その一方で、協議がなされる準備は出さなければならない。また、あまり多くの人数では一人一人の発言する機会が少なくなることがある。

#### グループ協議

参加者は多人数で、5、6人程度のグループに分かれて話し合の進行形式。グループ協議は、全員が参加するのと同じであり、多くは次の手順で行われる。

1 各グループの司会と記録係を選び、協議を始める。回会者は意見を述べ、記録係を整理する。時間内にグループとしての協議を終わる。

2 時間になったら、全体の回会者は協議を打ち切り、各グループの協議から協議を整理する。

3 各グループの協議は終わる。もともと全体が話し合。

#### 第4節 キザな哲学用語で武装した哲学的な文章による小論文と平易な文章による小論文との比較訓練により誰でも小論文が気楽に書けるようになる

村上 暁彦

##### I. 本節のねらい

現在、教育現場で行われる機会の少ない小論文指導というものを、哲学的な文章と、科学的な文章とを比べそれぞれを分析して行く。その過程で内容を重視し、結果としての事実結論を語らせることで、文章に説得力が生まれてくることを理解する。さらに小論文はどのような文章であるべきかを考え、具体的に提示することで、誰でも簡単に気楽に小論文が書けるようにさせる。

##### II. 学習者観（対象：高校一年生）

現在、小論文と聞いて喜ぶ生徒はおそらく少ないであろう。それは、文章を書くということに対して学習者は非常に高い苦手意識を持っているからである。小・中学校では夏休みの宿題に始まり、運動会で印象に残ったこと、修学旅行の思い出など、ただだらだらと書かせているだけの作文であっただろう。これが「ただ時間ばかりかかる罰のようなもの」として作文を捉えていたに違いない。そんな状態でいきなり小論文を書くといっても、良いものが書けることは決してない。さらに指導の面から言っても小論文の指導は十分に行われてはいない。

そこで、文章比較を通じて小論文というものを自分の目で見出すことで文章に対する苦手意識を取り除くきっかけとしたい。

さらに文章の技術に固執し、上手な表現、感動的な文章を目指す従来の作文指導の観念を捨て、しっかりした結論と万人に容易に理

解出来る客観的事実よって、説得力のある小論文が書けるということも考えさせていきたい。

### Ⅲ. 本節の可能性

- ・文章を書くことに対する苦手意識を取り除き、積極性に変えることができる。
- ・表面だけの文章技術を磨くだけのごまかしを止め、より説得力のある文章を書くことができる。
- ・従来の指導にない、内容重視の小論文を書くという意識を学習者に持たせることができる。

### Ⅳ. 指導目標と指導計画

#### ○指導目標

- ・科学的文章と哲学的文章の性質の違いをはっきりと捉え、その目的を理解することができる。
- ・小論文はどのような文章であるかを理解し、課題に即した小論文を書くことができる。

#### ○指導計画

《学習指導過程》(全4時)

| 次 | 時 | 指導目標               | 学習者の活動                    | 指導上の留意点                                |
|---|---|--------------------|---------------------------|----------------------------------------|
| 1 | 1 | ・小論文を積極的に書くことができる。 | ・課題に基づいて情報収集を行い、小論文を作成する。 | ・本節は文章表現という観点から小論文を書くことを伝える。課題を提示し、本時か |

|   |   |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                    |
|---|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |   |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                       | <p>ら次時まで<br/>に小論文を仕<br/>上げてくるよ<br/>う呼びかける。</p>                                                                                                     |
| 2 | 2 | <p>・二つの文章を<br/>読み比べ、分<br/>かりやすい、<br/>または分か<br/>りにくいと<br/>思った理由<br/>を説明でき<br/>る。</p> <p>・教師の指導に<br/>従い、文章の<br/>概要をつか<br/>むことがで<br/>きる。</p> | <p>・鷺田清一の「自分・<br/>この不思議な存<br/>在」（第一学習社<br/>「国語総合」と<br/>NATURE「医学：<br/>アヒルからも直接<br/>感染の恐れーイン<br/>フルエンザウイル<br/>ス感染の新経路」<br/>とを前時まで<br/>に書いた自分の小論文<br/>がどちらの文章と<br/>印象が似ているか<br/>を考える。</p> <p>・鷺田清一の文章の<br/>内容を理解する。</p> | <p>・二つの文章を提<br/>示し、文章の内<br/>容に注目する<br/>ように呼びか<br/>ける。</p> <p>・クラス内での状<br/>況を確認する。</p> <p>・教室全体で共通<br/>の理解をもつた<br/>ために、詳細にわた<br/>り文章を解説す<br/>る。</p> |

|   |   |                                                                                                                           |                                                                                                                          |                                                                                                                                                           |
|---|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指導に従い、文章の概要をつかむことができる。</li> <li>・二つの文章をワークシートの項目ごとに多面的に捉えることができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容を確認し、本時はNATUREの文章を理解する。</li> <li>・二つの文章のどこが違ったかをワークシートに従い記入していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、その後文章を解説する。</li> <li>・ワークシート①を配る。</li> </ul>                                                              |
| 3 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの文章の違いを理解し、小論文に表れる特徴と結びつけることができる。</li> <li>・ワークシートなどの特徴を理解し、自分の文章に応用</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を想起する。</li> <li>・小論文の特徴を理解する。</li> <li>・小論文の特徴にあわせ、第1時で書いた小論文を添削する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの想起を行い、本時は二つの文章の違いと小論文を関連付けて考えていくよう呼びかける。</li> <li>・小論文の特徴について解説する。</li> <li>・様々な面から推敲を試みるよう呼びかける。</li> </ul> |

|  |  |      |  |  |
|--|--|------|--|--|
|  |  | できる。 |  |  |
|--|--|------|--|--|

## 第1時 学習指導案

### ●本時の目標

- ・今までの学習を振り返り、小論文を書くことができる。
- ・小論文に必要な情報を収集することができる。

### 《学習指導過程》

| 時間 | 学習者の活動                                            | 指導上の留意点                                                 | 評価の観点                        |
|----|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|------------------------------|
| 0  | ・本時の活動の説明を聞く。                                     | ・本時からは小論文について考えていくことを伝える。                               |                              |
| 2  | ・課題を聞き自分で細かいテーマを決定する。                             | ・課題「戦争について」を伝え、それぞれ具体的にテーマを設定するよう呼びかける1000字程度で書くことも伝える。 |                              |
| 7  | ・方針を考え、どのような情報が欲しいのかを考え、その後、図書館などの施設を利用し、情報を収集する。 | ・テーマを設定したら、小論文を書くための情報を収集することを伝え、次時までには完成させてくるように伝      | ・自分のテーマに必要な情報を的確に集めることができたか。 |

|    |                                                               |                                                                                  |  |
|----|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--|
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文を書き始める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時までの宿題として、小論文を完成させてくることを伝える。</li> </ul> |  |
| 48 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の予告を聞く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の予告を行う。</li> </ul>                     |  |

## 第2次 第2時 学習指導案

### ●本時の目標

- ・自分の書いた小論文を客観的に捉え、二つの文章と比較することができる。
- ・鷲田清一の文章の特徴を理解することができる。

### 《学習指導過程》

| 時間 | 学習者の活動                                                                       | 指導上の留意点                                                                                      | 評価の観点                                                              |
|----|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 0  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を想起する。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書いた小論文をもとに本時からは小論文の書き方について考えていくことを伝える。</li> </ul> |                                                                    |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鷲田清一「自分・この不思議な存在」と NATURE</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの文章の表現面に注目して読んでいくよう呼びか</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの文章を読んで自分なりの考</li> </ul> |



|     |                                               |                                                                                                                                                    |                                 |
|-----|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
|     | 「アヒルからも直接感染の恐れ—インフルエンザウイルスの感染の新経路」の二つの文章を読む。  | ける。                                                                                                                                                | えを持つことができたか。                    |
| 1 1 | ・前時までに書いた自分の小論文が二つの文章のどちらに似ているか、考える。          | ・このときも表現面に注目するよう呼びかける。                                                                                                                             |                                 |
| 1 5 | ・本文の内容が観念的な内容であり、対応して表現も観念的、多義的になっていることを理解する。 | ・ pp.122 1.8「意味の境界」 pp.124 1.5「世界の解釈の—体系を共有している」pp.124 1.10「わたしはだれを〈非—わたし〉として差異化（＝差別）することによってわたしでありえるのか」などの意味を考えることで、その表現だけでは意味が決められない表現であることを伝える。 | ・それぞれの表現に注目し、鷺田清一の文章の特徴を理解できたか。 |
| 4 0 | ・その内容が事実を                                     | ・なぜ多義的、観念                                                                                                                                          | ・挙げた特                           |

|    |                                                       |                                                                                                                                                  |                                  |
|----|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 49 | <p>伝えるものなのか、筆者の考えを伝えるものなのかを考える。</p> <p>・次時の予告を聞く。</p> | <p>的になるのかという問いかけをする。そこから、伝えようとする内容が違う、つまり事実を羅列するものではなく、自分の考えとその過程を伝えるために、抽象的な表現になっていることへとつなげていく。</p> <p>・次時はもう一つの文章 NATURE の方をみていくということを伝える。</p> | <p>徴をもとに文章自体の目的を理解することができたか。</p> |
|----|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|

## 第2次 第3時 学習指導案

### ●本時の目標

- ・ NATURE の文章の特徴を理解することができる。
- ・ ワークシートに記入し、二つの文章の違いを客観的に理解することができる。

### 《学習指導過程》

| 時間 | 学習者の活動             | 指導上の留意点                              | 評価の観点 |
|----|--------------------|--------------------------------------|-------|
| 0  | <p>・ 前時の想起をする。</p> | <p>・ 前時の鷺田清一の文章に続き、本時は NATURE の文</p> |       |

|    |                                                                                                  |                                                                                                                                    |                                                                                      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容がデータや事実をもとにした、客観的考察を述べていることを理解する。</li> </ul>        | <p>章を分析し、両者の比較を行うことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データや事実の部分に注目させ、表現も科学的言葉で簡素な内容になっていることを呼びかける。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの表現に注目し、NATURE の文章の特徴を理解できたか。</li> </ul> |
| 27 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時と同様にこの文章の内容が事実を伝えるものなのか、筆者の考えを伝えるものなのかを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ科学的な言葉で簡潔な内容になっているのかという問いかけをする。そこから自分の考えを万人に理解できる客観的事実として表現しているということへとつなげていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・挙げた特徴をもとに文章自体の目的を理解することができたか。</li> </ul>     |
| 30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの文章を想起しながら、ワークシートの項目ごとに記入していく。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布し、二つの文章を想起しながら記入していくよう伝える。</li> <li>・ワークシートの内容を数人に発表させ、目的と伝えたい内容によって表</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの文章の特徴を客観的に比較することができたか。</li> </ul>         |

|    |            |                                     |  |
|----|------------|-------------------------------------|--|
| 49 | ・次時の予告を聞く。 | 現の方法が変わってくるというまとめをする。<br>・次時の予告を行う。 |  |
|----|------------|-------------------------------------|--|

### 第3次 第4時 学習指導案

#### ●本時の目標

- ・小論文がどういう特徴を持つ文章であるかを理解できる。
- ・目的と伝えたい内容に応じて表現の方法を変え、自分の小論文を推敲することができる。

#### 《学習指導過程》

| 時間 | 学習者の活動          | 指導上の留意点                                                                  | 評価の観点               |
|----|-----------------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 0  | ・前時の想起を行う。      | ・前時に使用したワークシートをもとに前時までの内容を想起させる。本時は小論文の特徴について考え、第1時で書いた小論文を添削していくことを伝える。 |                     |
| 2  | ・小論文の特徴について考える。 | ・各々の小論文がデータに基づく客観的事実と、そこか                                                | ・小論文の特徴を捉えることができたか。 |

|    |                                                                                   |                                                                                |                                       |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
|    |                                                                                   | ら生まれる自分の<br>考えの二種類で構<br>成されていること<br>を確認させる。                                    |                                       |
| 10 | ・自分の小論文の中<br>の客観的事実と<br>自分の考えのそ<br>れぞれに相応し<br>い表現の方法を<br>ワークシートな<br>どを使用し考え<br>る。 | ・自分の考えを、表<br>現を詳しくし、多<br>彩な言葉で述べる<br>のか、結果として<br>の事実語るに<br>ことで述べるのか<br>を考えさせる。 | ・学んだことを<br>自分の小論文<br>に合わせて応<br>用できたか。 |
| 15 | ・第一時で書いた小<br>論文を添削して<br>いく。                                                       | ・要らない部分を削<br>ったり、より詳し<br>い説明が必要な部<br>分に言葉を加え<br>たりしていく。                        |                                       |
| 49 | ・清書し、清書前<br>のものとともに小<br>論文を提出する。                                                  |                                                                                |                                       |

### ☆文章表現の違い☆

( )年( )組 氏名( )

A:「自分・この不思議な存在」

B:「医学:アヒルからも直接感染の恐れ—インフルエンザウイルス感染の新経路」

○下の項目にそって A、B それぞれの文章がどのようなであったか、具体的にどの部分がそうだったかを詳しく書き込んでいこう。

|                     | A の文章 | B の文章 |
|---------------------|-------|-------|
| 言葉の難しさ              |       |       |
| 「思う」または「考えられる」という表現 |       |       |
| 数値のようなデータ           |       |       |
| 抽象的な言葉              |       |       |

○次に挙げているような内容の文章を書くときには A、B どちらの文章のような表現をすることが適切だろう。( ) に A、B を当てはめてみよう。

- ・「自分はこう考える」という内容・・・・・・・・・・・・・・・・( )
- ・「ここから読み取れることはこうである」という内容・・・・( )
- ・ある出来事から考えたことの道筋・・・・・・・・・・・・・・・・( )
- ・ある出来事を読み手に伝える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・( )

### 《今後の課題》

本節は「小論文を簡単に書く」ために、小論文とはどのような文章か、またどのように書いたらよいか、ということを経術的な要素で示すという試みであった。しかし今回取り扱った二つの文章、哲学的文章と科学的文章は比較する上で、大きな違いはあるものの、重なる面もまた多くあり特徴としても一概には言えないといった内容になりうるかもしれない。しかし本節の狙いでも述べたとおり、学習者の苦手意識は「どう書いていいかわからない」という迷いからくるものであるので、今回、ある程度技術的に示すことができたのでここからさらに具体的な比較分析をすることで、より詳しい「小論文の書き方」を提示することが望まれるであろう

加えて、教材としてあげた二つの文章は内容的にも非常に難しく、理解することが困難である学習者もいると考えられる。少ない時間で理解し、特徴を捉えるためにできれば科学的、哲学的ということが容易に理解でき、特徴をつかみやすい教材を使用することが望ましいと考える。

# 自分・この不思議な存在

鷲田清一

わたしたちは、目の前にあるものを、それは何であるかと解釈し、区別しながら生きています。たとえば現実と非現実、自分と自分でないもの、生きているものと死んだものの、よいことと悪いこと、大人と子供、男性と女性……。こうした区別けのしかたを他の人々と共有しているとき、わたしたちは自分を「普通」(ノーマル、ナチュラール)の人間だと感じる。そして、わたしたちが共有している意味の分類線を混乱させたり、不明にしたり、無視したりする存在に出会ったとき、彼らを、別の世界に生きている人というより、わたしたちと同じこの世界にしながら、「普通」でない人と見なしてしまう。

ではなぜ、わたしたちは意味の境界にこのようなヒステリックに固執するのだろうか。それは、わたしたちが「くである/くでない」というしかたでしか自分を感知、理解することができないからではないだろうか。そしてそういう意味の分割の中にうまぐ自分を挿入できないとき、いったい自分はだれなのかという、その存在の輪郭が失われてし

図「普通の『普通』とは、どういう意味か。」

図「意味の境界」とは何か。

まうからではないだろうか。つまり、それほどまでに(わたし)はもろく、不可解な存在であるからではないだろうか。

たとえば、身体を持たない(わたし)があり得ないことはあまりに明白であるのに、それでは(わたし)と身体とはどのような関係にあるかと問うてみると、自分がほとんどなんの確かな答えも持っていないことに気づかされる。

「わたしの足」というとき、わたしと足はどのような関係にあるのかと考え始めると、ちまろ(註)に思われる。わたしは足であるか？ ノー。わたしは足を持つのか？ たぶんイエス。もし身体がわたしの所有物だとすると、所有物は譲渡や交換が可能であるはずだから、足から順に自分の身体を次々に別の身体と取り替えていっても、わたしはわたしであるはずだ。けれども想像が腰部あたりに達したころから、だんだんあやしい気分、おぞましい気分になってくる。身体はわたしが所有しているものではないと、前書を翻しだくなってくる。

つまり、自分が身体であるのか、身体を持つのかはつきりしないまま、わたしたちはなんとなく自分がこの身体の皮膚の内側にあると思ひ込んでいる。

このように考えてくると、わたしがだれであるかということは、わたしがだれでないかということ、つまりだれを自分とは異なるもの(他者)と見なしているかということ

\*前書を翻す



と、背中合わせになっていることがわかる。ところが、わたしがそれによって他者との差異を確認するその意味の軸線がわたしたちによって共有されているところでは、この軸線がその形成の歴史を忘却して「自然」的なものと見なされ（ここから「自然」が規範としての意味を持ち始める）、それを共有しないものは、わたしたちではないもの「普遍」でないものとして否認される。「普遍」ということは世界の解釈の一体系を共有しているということにすぎないにもかかわらず、である。わたしたちが自分の存在に形を与えていくこのプロセスは、だから同時に、まわめて政治的なプロセスでもある。それは、常に解釈の規準を提示し、それを共有できないものは排除し、それをはずれるものには欠陥とか劣性といった否定的なまなざしのもとで自らを見ることを強いる。

わたしはだれかという問いは、わたしはだれを（非わたし）として差異化（＝差別）することによってわたしであり得ているのか、という問いと一体をなしている。わたしもあなたも同じ「人間」であるという言い方は、〈わたし〉が一定の差別（逆差別も含めて）の上に初めて成り立つ存在にすぎないことをかえって覆い隠してしまうおそれがある。

「わたしはだれ？」——それは、おそろしく〈わたし〉を形作っている差異の軸線をとつと具体的なコンタクトに則して検証していくところだが答えられないであろう。

【「意味の軸線」とは何か。】

【「世界の解釈の一体系を共有している」とは、どうらうことか。】

1 コンタクト context (接觸) 文脈。

わたしたちはわたしたちでない人を知ることを選んでは、自分自身を知り得ないのだから、が、わたしたちは自分は何だかという問いを自分の内部へと向ける。自分の存在を自分ではないものから隔離しようとはかりする。

他人から自分の存在を引き離しておきたい、隔離しておきたいという願望は、他人の身体に触れることを回避するような意識として、わたしたちの身体感覚に現れてくる。それに、他人の体臭やたばこのにおいが自分の髪や服につくことの嫌悪、あるいは逆に自分の口臭が他人に不快な思いをさせているのではないかという不安。しかし、わたしたちは本当にそういう他人との接触を常に回避してきたのだろうか。

こんな情景がふと思い浮かぶ。  
指先がちょこんと触れる。とっさに手を引っ込める。まるでそれが偶然であつたかのように。もいちど指を近づける、おずおずと。かすかに触れたか触れなかつたかのような瞬間を二、三度繰り返して、そつと指をからめる。そして静かに力を入れる……。こんなふうにして少年と少女は身を交わし始める。

指先が、皮膚の表面が、自分の先っぽになっている。自分の端っこになっている。ほんやりと皮膚というペールのようなものでくるまれ、他人のそれに接触すると遠端にひりひりする身体。そのようなものとして自分のからだを感じている。そのときからだを

125 自分、この不思議な存在

からは外側からゴリゴリと感知し合う。そこに神経が露出しているみたいに。それは  
恋人たちのからだだ。

が、わたしたちにはそれとは別に、<sup>★</sup>からだを内側から感知し合う、さりげない瞬間が  
たつぷりとあつたはずだ。かつては。母を頬や唇で感じ、その乳首をいらい、父を背や  
腰の裏で感じ、その腰の毛をつまみ、友達を腕の外側で感じ、その首にぶら下がり、手  
をつなぎ……。

あるいは、風呂場でからだを抱かれ、顔の下、脇の下、足の指の間まで、丹念に洗わ  
れた。そのからだの記憶。それはこぼんを作ってもらった縫隙とどまらぬ、何か大切な  
ではなく「存在の世証」<sup>1</sup>をしてもらうというところがある。他人に何かをしてもらうと  
いう縫隙のコアとでも言うべき縫隙だ。

それにしても、いつからわたしたちは手をつながなくなつたのだろうか。今の子はどう  
なのだろうか。わたしが子供のときは、同じ町内の友達と手をつないで学校に行った。  
年長の手に手をつないでもらつたこともある。いや、大学でなつて手をつないで歩いて  
いる女子学生たちを時々見かけた。今街を見かけるとしたら、互いを手で支え合ひなが  
ら、ゆつくりと足元を確かめるように歩く老夫婦の姿だけだ。

それにしてもわたしたちは、他人に触れることをどうして「失礼」と感じるようにな

つたんだろう。他人のからだを接触したとき、どうして即座に「ごめんさまい」と言う  
癖がついたのだろう。大阪の人はすぐ他人に触る。上海では手をつないで歩く男の人ど  
うし、腕を組む合つて歩く女性の三人連れをよく見かけた。ネパールでは大事な話はぐ  
っと手を握り合つてすると聞いた。そう、たとえば誓言と泥棒。

わたしたちは自分の表面、自分が自分でなくなるその場所に意識過剰になつてゐる。  
相手の目、相手の表情ばかり気にする。身体の接点、そこを避けて自分と他人の意識が  
行つたり来たりするような場所が乏しすぎる。みんな画像の中の存在、ショーウインド  
ウ越しの存在、透明ラップに包まれた存在になつてゐる。

どうしてそんなに臆病になつて自分を防御しなければならぬのだろうか。

そういえば、八〇年代というのは清潔への強迫観念が異様にまで 에스カロトした  
時代だった。八〇年代、毎朝洗髪する女子高生が増えたといわれるが、この朝シャ  
ン・アームとともに、デオドラント製品などいわゆるエッセツト商品も急速に売り上げ  
を伸ばした。オーラルケア商品、スクラブ洗剤などが続々開発され、シャンプー、リ  
ンス、トリートメントはここ数年で二千億円を超える市場へと急成長したという。清潔  
症候群と呼ばれる現象だ。

「天人」の世界も同じ。禁煙をはじめとして、環境の浄化や身体からの毒性排除など、

1 「からだを内側から  
感知し合う」とは、  
どういうことか。

2 「存在の世証」とは、  
どういう意味か。  
3 コア core (核)。  
核。

4 上海 中国の露江路  
口にある大雑把。

5 朝シャン「髪」と  
「シャンプー」を結び  
合わせた造語。

6 デオドラント製品  
汗のにおいを体臭を  
防ぐ化粧品。

7 オーラルケア商品  
歯や口の中を手入れ  
するための品類。

8 スクラブ洗剤 細  
かな粒子の入った洗  
濯料。

〈清浄〉へのヒステリックとも言える志向が、近年とみに強くなっている。これに加えて、純潔チーム、ヒエアな行動、クリーンな政治……、そんな観念が多くの人たちの意識を占領しつつあるように見える。禁煙に禁酒、禁カフェインに禁防癌剤、低カロリーに低脂肪、そしてジョギングに徒歩通勤、夜遊びは慎み、週末は家族とカウチポテト……といったライフ・スタイル、言ってみれば「自己抑制の美学」から、もつと直接的な感

覚次元での「清浄願望」まで、〈清浄〉への志向が、世代を問わず、異様なくらいエスカレートしてきている。そして、いわゆる3Eに対して、さらさら、すべすべ、すつもりなどという、もつたる滑溜言語がまかり通るほどだ。

ここで〈ヒエア〉や〈クリーン〉とは、汚染度ゼロということ、つまりは、選り気のないこと、異質なものが混入していないことを意味する。そうするとそこには、身体

の衛生学的な管理への意識だけでなく、もたら、異物をたえず摘発し続けなくては自分の存在を保持できないような、そういう〈わたし〉の衰弱した状態が映し出されてもいるようだ。というのも、自己同一性の免疫力が低下しているからこそ、自分ではないもの、異質なものを一種のウイルスとしてとらえ、身体の内面あるいは表面から、身体を取り巻く環境から、そういう異物を徹底的に排除していこうとすると思われるからである。

こうした清浄シンドロームについては、ジャン・ポトリヤールが現代の文明的徴候として次のように解釈した。人体をあらゆる菌感染から保護するために、環境をテクノ



Jean Baudrillard (1929-1987) 著『自己同一性の新しいあり方を提起している。著書に『モートの迷宮』『見られることの権利・念願論』などがある。本文は『じぶん・この不思議な存在』によつた。

8 カフェイン  
caffeine (英語)。茶の葉やコーヒー豆などに含まれている成分。

9 カウチポテト  
couch potato (英語)。日記のソファにたかべつて寝まはは時間を過ごしすぎた様子を指す俗語。

10 3E 「おはな・おたなひ・おつひ」の頭文字からきた造語。

11 「自己同一性」の免疫能力が低下するとは、どういう意味か。

12 ウイルス virus (ラテン語)。病原体。

13 ジャン・ポトリヤール  
Jean Baudrillard (1929-1987) フランスの社会学者。



14 テクノカル technological (英語)。技術的。

15 パラドクス paradox (英語)。悖論。

ネイチャー・ジャパンとアプライドバイオシステムズ・ジャパンが共同でお届けしている無料ウェブマガジン“BioNews”。その新着タイトルから一つご紹介します。今すぐBioNewsにアクセスして今週号をお楽しみください。

From *nature news service*

以下の内容はNature Japan 制作・監修「Nature News Service 日本語版」の紹介です

## 医学：アヒルからも直接感染の恐れ—インフルエンザウイルス感染の新経路

次に大流行して多くの人の命を奪うインフルエンザウイルス株は、アヒルから直接、人間に感染するかもしれない、と新しい研究結果が報告している<sup>1</sup>。この報告は、動物が持つウイルスの監視を強化する必要があることを意味している、と専門家は警告している。

次に大流行する株は、50万人近くが犠牲になった1968年のインフルエンザ流行と同じように、野生の水鳥が起源になると多くの研究者は考えている。ウイルスは、水鳥からニワトリやブタに感染し、そこで人間への感染を可能にする遺伝子を別のインフルエンザウイルスから手に入れる恐れがある。

中国・香港大学のYi Guanは、こうした感染経路ではなく、ウイルスがアヒルから人間へ直接、感染するかもしれないと警告する。Guanらの研究チームは、2000年から2001年にかけて中国の鳥肉市場で採集した500近くのインフルエンザウイルスの遺伝子配列を調べた。

その結果、すでにアヒルの持つインフルエンザ株は家きん類のウイルスから遺伝子を獲得しており、人間の細胞に侵入する能力を備えているかもしれないことをGuanらは発見した。ノースウエスタン大学(米国イリノイ州エバンストン)のインフルエンザ専門家Robert Lambは、「アヒルの持つウイルスは人間に感染しうるものに近づいている」と話す。

このウイルスはH9N2といい、おそらく、野生の鳥から家きん類に感染し、そこでインフルエンザウイルスと遺伝子を交換し、アヒルに再び戻ったのだ。米軍病理学研究所(メリーランド州ロックビル)のウイルス学者Jeffery Taubenbergerは「私たちが考えていた以上に、鳥類から鳥類へのウイルスの移動は頻繁に起こっているらしい」と話す。

### 近づく大流行

最近になって増えているさまざまな事例は、新型インフルエンザの世界的大流行が近づいていることを示唆している。1997年には、H5N1と呼ばれる香港鳥型インフルエンザウイルス株が流行し、数人が死亡した。今年には別の株がオランダのニワトリの間に急速に広がり、80人を超える人が感染し、1人が死亡した。

このような動物由来のインフルエンザウイルスは脅威だ。なぜなら、私たちはこうしたウイルスに対する自然免疫を持たないからだ。しかも、突然変異、あるいは人間のインフルエンザウイルスとの遺伝子の交換によって、ウイルスがさらに簡単に人間に感染できるようになったら、次の流行はこれまで以上に深刻かもしれない。

動物が持つウイルスの監視を強化する必要があるという点で、感染症の専門家たちの意見は一致している。専門家たちは、どの動物がもっとも危険なインフルエンザウイルス

株を持っているのか、おとなしい株がなぜ死者が出るような危険な株に変化するのかを解明したいと考えている。

すでに世界保健機関(WHO)がまとも役となり、世界中の研究所でつくるネットワークが、インフルエンザ株を世界規模で監視している。カリフォルニア大学ロサンゼルス校の疫学者Scott Layneは「新しいウイルス株が現れても、これまで以上にうまく対処できるはずだ」と話す。

Layneは、年間数十万サンプルのウイルス試料を分析できる施設を作り、結果を即時にインターネット上で公開しようとしている。最近になって重症急性呼吸器症候群(SARS)が出現し、こうしたウイルスの監視の必要性がいっそう明確になった、と彼は話す。SARSも動物から人間にウイルスが感染したものと考えられている。

Helen Pearson

Copyright Nature News Service 2003

### 参考文献

1. Li, K. S. et al. Characterization of H9 subtype influenza viruses from the ducks of southern China: a candidate for the next influenza pandemic in humans? *Journal of Virology*, 77, 6938-6944 (2003).

<http://bionews.naturejpn.com>



Nature Japan K.K.

〒162-0841 東京都新宿区弘方町19-1 エムジー市ヶ谷ビル5F TEL: 03-3267-8751 FAX: 03-3267-8746

Supported by



Applied Biosystems

アプライドバイオシステムズジャパン株式会社  
[www.appliedbiosystems.co.jp](http://www.appliedbiosystems.co.jp)

第1節 「記録魔」といわれる人間の育成へ ——大村はま・柳田  
国男・藤原与一・野地潤家先生は優れた記録魔だった——

村上 暁彦

I. 本節のねらい

人間は考える動物である。しかしながら、その全てを記録することはできない。自分自身の思考の過程を記録という形で残すことで、より考えを深めることができる。その過程において記録という行為は非常に重要である。そこで文章の中で記録が与える効果を考え、自分が書いた文章の中に応用しながら、記録の与える効果について考えていく。こうした授業を通して「記録」という行為を日常的に定着させ、自分の考えを深化していくことを本節のねらいとする。

II. 学習者観（対象：高校一年生）

自分の考えを文章で表現するということは国語としても、他教科ひいては社会の中で生きていく上で非常に大切なことである。現代の社会では、自己表現力が重視されている。しかし、自分の考えを文字化することも苦手であることながら、自分の考えの内容という面でも現在の学習者は大きな問題を抱えていることであろう。自分の発言や文章に現れる自分の考えが豊富であることが、よりよい内容を生み出すことは分かりきった事実である。自分の考えがないという状況、無主義・無主張という言葉があるように学習者も似たような悩みを持つことがあるだろう。

その解決策の一つとして、本節では「記録」という行為の定着を中心に指導していく。記録という一見単純に見える行為も日常の中

で行っていくことで大きな効果を発揮するということを指導していく。つまり日常の中で、自分の中の浮かんで消えていく様々な考えを記録することで、文章の内容、自分の背景を豊かにしていくということを体験させていく。さらに記録を日常化し、小論文などの自己表現力を発揮する場面へと反映させていくことを目的とする。

### Ⅲ. 本節の可能性

国語科授業の中で、ほとんど扱われてない「カード法」を取り入れることによって、注目されている自己表現力が伸びるとともに、記録という行為を通して自己を内政的に見つめ直すことができることから次の4点の可能性が考えられる。

- ・自分の論の主軸となる考えを常に持つように心がけることで、小論文がより書きやすくなる。
- ・記録、メモの重要性、効果を理解することができる。
- ・自己の内面を見つめ、客観的に捉えることができるようになる。
- ・文章の内容を重視し、表現だけにごまかされない小論文が書けるようになる。

### Ⅳ. 指導目標と指導計画

#### ○指導目標

- ・文章の中でどのように「日常の記録」を応用するのかを理解し、活用することができる。
- ・記録をとる方法を身につけ、自分の考えを述べる術を見につけることができる。

○指導計画

《学習指導過程》(全4時)

| 次 | 時 | 指導目標                                                                                  | 学習者の活動                                                                                                                                                                           | 指導上の留意点                                                                                                                     |
|---|---|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を理解する。</li> <li>・事例に注目し文章を分析できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材(第一学習社『国語表現Ⅰ』pp.38~pp.41「理想的な日本語生活をー理と情ー」)を読む。</li> <li>・考えを文章にするときの事例の提示の仕方に注目する。(特に会話が挿入されていること・日常での発見がもとになっているということについて)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に事例に注目し筆者の意見との関係を詳しく分析していく。</li> <li>・筆者の考えの発生過程を表し、詳しく事象が述べられていることを言う。</li> </ul> |
| 1 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例が文章の説得力にどのような影響を与えているか考えることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文の中の事例の効果について考える。</li> <li>・例を書くために何をすることが必要かを考える。</li> <li>・カード法を知る。</li> <li>・書き方を理解する。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例が現れることによって文章にどんな効果が生まれているかを考える。</li> <li>・カード法を紹介する。</li> </ul>                   |
| 1 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思ったことをできる限りまと</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを取るということを通して、限られた範囲にまとめて記</li> </ul>                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常でメモを取る理由をきっかけに目的を理解</li> </ul>                                                    |

|   |   |                            |                                                              |                                 |
|---|---|----------------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------|
|   |   | <p>め、分かりやすく書くことができる。</p>   | <p>入することを学習する。</p> <p>・「日常的な物事への些細な考え」というテーマでエッセイを書く。</p>    | <p>させる。</p> <p>・自由な内容を書かせる。</p> |
| 1 | 4 | <p>・他人の考えに対し、自分も考えを持つ。</p> | <p>・前時から書き始めた、エッセイを交換し読みあう。またそれを受けての自分の考えを、カード法を活用し記入する。</p> | <p>・「自分はどう思うか」という視点を大切にさせる。</p> |



第一次 第一時 学習指導案

●本時の指導目標

- ・文章の中で、事例の提示がどのようにされているか理解することができる。
- ・意見と事例との関係を理解することができる。
- ・事例がどのようなものであるかを把握する。

《学習指導過程》

| 時間 | 学習者の活動                              | 指導上の留意点                                                | 評価の観点             |
|----|-------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------|
| 0  | ・「理想的な日本語生活を一理と情一」を読む。              |                                                        |                   |
| 10 | ・本文中の三つの事例を挙げ、ワークシート①の内容に沿って記入していく。 | ・本文中の事例①「電話」②「道を尋ねる」③「お辞儀」のそれぞれが何を言うために使われているのかを考えさせる。 | ・3つの事例を理解できる。     |
| 25 | ・筆者とは違う事例を創作する。                     | ・筆者の事例に習い、同じような事例を考えさせる。                               | ・自分なりに事例を創作できる。   |
| 40 | ・本文の筆者の主張は何であったかを考える。               | ・3つの例が主張する論の流れを見ることで、筆者の全体の主張を理解する。                    | ・論の流れを読み取ることができる。 |
| 49 | ・次時の予告を聞く。                          | ・次時の予告をする。                                             |                   |

第一次 第二時 学習指導案

●本時の目標

- ・例が文章に与える効果について、自ら考え理解することができる。
- ・カード法について知り、書き方を身につける。

《学習指導過程》

| 時間 | 学習者の活動                                         | 指導上の留意点                                                                    | 評価の観点                  |
|----|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 0  | ・本文を黙読した後、前時の想起を行う。                            | ・3つの事例が作り出す論の流れと、筆者の全体の主張を中心に復習する。                                         |                        |
| 7  | ・前時に記入したワークシート①などを参考にしながら、文章に例が与える効果について考えていく。 | ・事例があることによって説得力はどうか、伝わりやすさはどうかなどを考えさせる。                                    | ・項目に沿って書き込むことができる。     |
| 20 | ・事例の内容を考えた後カード法について学ぶ。                         | ・事例の内容が日常的なことへのちょっとした着眼から生まれていること、それをカード法によって捉えることができることを伝え、カード法による記録を教える。 | ・カード法による記録を理解することができる。 |
| 40 | ・カードへの記入方法を学ぶ。                                 | ・カードへの基本的な書き方を指導する。                                                        |                        |
| 49 | ・次時の予告を聞く。                                     | ・次時の予告をする。                                                                 |                        |

第一次 第三時 学習指導案

●本時の指導目標

- ・聞いたことを後に見ても理解できるようなメモを取ることができる。
- ・メモの取り方を考えることで、カードへの記入に応用することができる。

《学習指導案》

| 時間 | 学習者の活動                                              | 指導上の留意点                                                 | 評価の観点               |
|----|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------|
| 0  | ・前時の想起をする。                                          | ・カードという限られた紙に記入するために、本時はまとめるという行為を学ぶことを伝える。             |                     |
| 5  | ・(第一学習社『国語表現Ⅰ』pp.42~pp.44「漢字と日本文化」)の教師の音読を聞き、メモを取る。 | ・筆者の主張、その根拠を中心にメモを取るように伝え、本文を音読する。                      | ・メモを正確に取ることができる。    |
| 20 | ・班になり自分の聞き取った内容がどれくらいであったかを確認する。                    | ・班で活動した後、教師が大体の解説をし、もう一度音読する。その際に教師は班内の話し合いの内容を書かせ回収する。 |                     |
| 30 | ・次時の予告を聞き、エッセイについての注意を聞く。さらに教                       | ・次時は「日常的な物事への些細な考え」というテーマで書いてきたエッセイを読み合うことを             | ・書くエッセイの内容をイメージできる。 |

|     |                     |                                                                                                                                                                                      |  |
|-----|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 4 0 | 師の模範作品を聞き、イメージを固める。 | 伝え、教師の模範作品を聞く。                                                                                                                                                                       |  |
| 4 5 |                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容としては、普段なら素通りしてしまうような、物事に着眼し、自分なりの考えを綴るものにする。</li> <li>・本時で学んだことを活用し、来週までにテーマに沿ってカードを活用し、エッセイを書いてくることを伝える。その際カードも一緒に持つてくるように伝える。</li> </ul> |  |

第一次 第四時 学習指導案

●本時の目標

- ・他人のエッセイを読み、評価することができる。
- ・他人のエッセイを読んで、自分の意見を持つことができる。

《学習指導過程》

| 時間 | 学習者の活動                       | 指導上の留意点                                     | 評価の観点 |
|----|------------------------------|---------------------------------------------|-------|
| 0  | ・前時までの想起を行い、自分のエッセイの最終確認をする。 | ・前時までに学習したことを想起し、自分が書いてきたエッセイをもう一度読み直してみるよう |       |

|    |                                                                                                 |                                                                                                                                                                    |                                                                                                         |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は班内でエッセイを読み合い、その後は自由に交換し合う。そしてカード②に記入していく。</li> </ul> | <p>伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カード②を配り、他人のエッセイを読んだの感想・意見を毎回書くことを伝える。</li> <li>・今後ともカード法を活用し、日常の様々なことを新しい視点で捉えるために活用して欲しいというまとめをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人のエッセイを評価できる。</li> <li>・自分の言葉で他人のエッセイに対する感想・意見が書ける。</li> </ul> |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 《今後の課題》

本節では、カード法を用い、日常的な物事をいつもと違った着眼点で捉えさせることが目的であったが、小論文における説得力、論理性の向上という点ともっとからめていけることができれば良かったように思う。カード法の日常的使用によって自分の考えが深化された次の段階として、それを論理的に捉え文章として表現するところまで授業を構想することが必要になってくるであろう。加えて文章の分析に時間を割いていないので、内容のある文章を十分に理解し、自分に必要な力が文章に含まれていると自覚し理解するというよりは、カード法活用への導入的扱いに終わってしまった。しっかりとして動機付けを行うことも授業として大切なことであると考え。さらにエッセイという自由な書き方を終えた次の活動として、意見文へと昇華させていきたいと考える。

ワークシート①

「理想的な日本暮らしと―理と情―」プリント

※本文中に出てくる、三つの例について次の項目を書き込んでいこう。

例① 「電話」

内容

筆者の主張

例① 「道と尋ねる」

内容

筆者の主張

例① 「お辞儀」

内容

筆者の主張

ワークシート②

「理想的な日本橋生活を―理と情―」プリント

※筆者の例にならい、自分でも筆者の主張を代弁できる例を考えよう。

例① 「電話」

例② 「道を尋ねる」

例③ 「お辞儀」

※筆者の本文全体の主張はなんだろうか？

※文章中に例を挙げるときに気をつけるべきことはなんだろうか？

カード①

○日時 ( ) 月 ( ) 日 ( ) 時頃 ○気付いた場所 ( )

○キーワード ( )

○気付いた出来事

○考えたこと

カード②

( ) から ( ) さんへ

エッセイを読んだ感想

エッセイの題材に関する意見



言葉と情 ①

理想的な日本語生活を—理と情—

藤原亨一

言葉の問題は、まづあると、理の問題と情の問題とになると私は考えます。理とは、言葉の筋、節目です。(理は「極」という意味の文字ですね。) 話しても書いても、私どもは、言葉に筋を通すことが本筋です。読んで聞いても、私どもが、筋をよくたどることが大切で、

情とは、情味、潤いです。言葉には、常にこの情が伴います。何を話しても書いても、そこに、情が自然に出ます。読んで聞いてたりするときは、その情、潤いをよく受け止めることが必要です。

理と情のことを、例をあげて説明してみましよう。電話の場合を考えてみます。知人から電話がかかってくるまで、聞くに類なことです。こちらが断りたく思いました。そのつもりで話します。が、話しているうちに、つい、気の毒になって、先方の頼みごとを受け入れました。これは、情に流れたのです。理は、後でに押しやられました。「考えなおきましょう」と断って電話を切った場合はどうでしょう。断るべきだと考えること(理)と、気の毒だなどと考えること(情)とを兼ね合わせる、こういう交渉もななりましようか。

話し合う場合ですと、「理の表現と情の表現とをよよく調和させる」のが、理想的な言語生活です。読み聞く場合ですと、「理の通るありさまと情のたじむありさまをよよく読み分は、読み察める」のが、理想的な言語生活です。

実際には、話したり書いたりする場合、理と情の調和を図ることが、容易ではありませんね。

そこで私は思うのです。まづ理を重んじる(筋を通す)ことが大事だ、と、何事につけても、根本的に重要なのは、合理ということではないでしょうか。合理とは、理にかなっているということですか。

例をあげて説明してみます。會社の大原美術館に行こうと思つて、今、私は、會社駅前に立ちました。道行く人に尋ねます。

「あのう、すみませんが。」

こんな言い方をされたのでは、相手の人は迷惑ですね。早く用件を言ってもらいたいものです。今、私は、大原美術館への道を尋ねようとするところなので、から、「大原美術館は、おどろきでしょうか。」を早く言わなくてはなりません。それが、理の尊重です。「あのう、すみませんが。」では、要件の観念にはなっておりません。

「お尋ねします。」

と言いついたら、これは、話の観念がはつきりとしていますね。願はしたたというところが、先方にはすぐわかります。これで、理が通つたとも言えますましよう。



藤原亨一 一孔一孔。言語学者。著書に『日本語方言の文法』『方言研究法』などがある。本文は『読んだらと百字鑑』による。

藤原亨一「大原美術館は、おどろきでしょうか。」を早く言わなくてはなりません。それが、理の尊重。これは、話の観念がはつきりとしていますね。願はしたたというところが、先方にはすぐわかります。これで、理が通つたとも言えますましよう。

「い」「どこで」「何」など、表現上の注意事項が、よく指摘されていますね。「何」は、なんとしても、早く、先方へ向け、明らかにしなくてはならないことです。

それは、もうおぼろげにさきのことばにもありまじょうか。そのときに教えられるのは、たとえば、道を尋ねる人の態度です。あるいは、言葉遣いの音調です。音調に柔らかなみが出たら、まだ、へりくだった気分の子が出たら、それは、表現の調子、情味というものです。態度には、すぐに情味が出ます。

理を第一に重んじ、理を運すことに努めても、表現者に心がけさえあれば、情は自然ににじませることになります。これも、理を運すことにも努めても、表現者に心がけさえあれば、情は自然ににじませることになります。

人間の情味は自然に出るものであることを、一つのたとえで知ってみましょう。私が北海道に旅行して、一軒のあがね屋さんに立ち寄つたときのことです。店の奥に電話があつて、おもうとそのとき、若い女の子がそこを動める人のようでしたが、電話に出ていました。その時、おぼろげに思い出したところ、その人は、しりぞきお辞儀をしながらものを言つていました。あなたたちも、こういう情味を見たいことがあるでしょう。いくらお辞儀をしたところで、それが相手に見えないものではありません。しかし、人は自然に、そうしないではいられないのです。この女の子がそうでした。私は、じつとそれを眺めて、心からはささしに気持になりました。

こんなわけですから、私は言いたいのです。表現する(言ひ・書き表す)のた、情・調い、出そう出さうと努めるにはおとばない、と。一生懸命に理を運すことを考え、ひたす

「情は自然ににじませる」といふのは、「理」を、以ては知られてはいる。理のほかに、いふことがあつて、いふ。

ら理を尊重することを考えます。そして、素直な気持ちで、相手と上品に交わる心がけで、ものを言ひ表します。書き表します。そうすれば、まことに、ある程度までは理と情とを調和させた表現が出来るでしょう。

学習

「筆者は、「理」の表現と「情」の表現との調和をどのようになさつてゐるか、まよめてみよう。

「筆者は、「理」の表現と「情」の表現とをよく調和させる」ためには、どのようになさつてゐるか、まよめてみよう。

「次のような場合、「理」を調和させる」ためには、相手に對して、どのようになさつてゐるか、まよめてみよう。

1. ベスに乗つては、自分の居てゐる場所の前は、年配の女性が立つた場合。
2. サッカーの試合は出陣する手前であつたが、急用のために集合時間には間に合ひなかつた場合。(友人に電話で)
3. 路上で○○銀行の金を盗取らされたが、自分もその場所を知らなかつた場合。

「次のかたかなを漢字に直してみよう。

1. 調ふことをコトワリたいと思つた。
2. 理と情の調和をハカる。
3. その言ひ方は、相手の人にスエラんだ。
4. 注意警理が、よくシテをなされてゐる。
5. 言葉遣いの音調はキツらかなみが出る。

# 漢字と日本文化

大野 晋

日本語は今から千五百年前に漢字・漢語を取り入れて、大和言葉の体系の中にそれを消化するのは、およそ千年以上かかりました。

大和言葉という古い言語の体系が確立した時代にはまだ日本には文字はなかつた。そこへ漢字が中国文明を携えて輸入された。中国文明の中で大きいものは儒教と仏教です。我々は漢字といふことで、儒教や仏教や医学や薬学を受け取って、それによって日本の文明を作ってきた。だからどうしても漢字を学ぶ必要があつたのでした。それが日本語の中の漢語を確かな位置に固定しました。

ところが、今から百五十年近く前にヨーロッパ、アメリカという全盛期つた文明が押し寄せてきました。明治政府は、法律にも科学にも医学にもヨーロッパの業績を学んで取り入れた。そのとき、生のままのヨーロッパ語を使わず、ヨーロッパ語を一度漢字に置き換えて、日本語の中に持ち込むという技術も日本は持っていた。その結果、日本では、ヨーロッパのいろいろな概念を持ち込むにあつてアジア諸国のような言語的な困難が少なく、アジアの中では最も早くヨーロッパを取り入れ、それに追いつくことができたのです。

歴史を見ると、日本はそれぞれの時代に、世界のトップクラスの文明を次々に輸入して

きました。奈良時代には、インドからお米・金銀・織織り・お菓子作りを取り入れ、古墳時代には、朝鮮からさまざまな技術、飛鳥・奈良時代には、中国から漢字による多くの文明を輸入し、それによって生活を展開させてきました。

日本人は非常に柔軟に「この言葉の由来は何か」ということを手で書き分けています。漢字以前の大和言葉はひらがな、中国文明から来た概念や言葉は、漢字で書いています。ヨーロッパ文明から来た言葉はかたかなです。

「うつくし」とか「あそぶ」とか、これはひらがなで書く大和言葉。古くからあつた言葉です。次に、中国から輸入された言葉、「観念」とか「愛憎」とか、これは漢字で書く漢語です。漢語は現代日本語の単語の半分を占めています。「うつくし」や「あそぶ」を「美し」「遊ぶ」と漢字で書くのは平安朝以後です。

明治時代以後ヨーロッパから、戦後はとくにアメリカから日本に輸入された単語は、かたかなで書きますから、かたかな語と呼ばれます。新しい単語がそそくそと加わって、現在、非常に賑わっています。私の見込みでは、何十年かのうちには、かたかな語は漢語のかんりの割合に取って代わり、日本語の単語の構成要素の割合は大きく変わると思えます。しかし、ひらがなで書く言葉は、それほど変わらずに使われていくでしょう。ひらがなの言葉は、毎日の基本的な、一般生活に密着して用いられる基礎語が多く、その基礎語によって幼児や少年少女の知能や判断力の基本的な枠組みが決定的にはぐくまれるからです。



大野 晋 一九一九年。国語学者。著書に『新しき世界の歴史』『口舌語の起源』などがある。本文は『日本語の歴史』による。

①大和言葉 昔からの日本の言葉。和語。

図「ヨーロッパ語を一度漢字に置き換えた言葉の例が、置けてみよう。

図「うつくし」「あそぶ」を漢字で書くことになり、言葉の由来がどのような感じになったか、置けてみよう。

②かたかな語 一般には「和語」といふことが多い。ハルマシ語

現状では、かたかな語が増えていくとも、漢語は現代日本語の語彙の重要な部分を担っています。たとえば、法律の用語。「未必の故意」という言葉はだれしも難しいと思われれば、大和言葉では単語として言えない。まして英語の willful negligence と書いても社会一般に通用しないでしょう。だから、ある範囲の漢語は必要です。それがちがごとく理解できるか、また漢語がちがごとく使えるかということがやはり今日の問題です。

④ 未必の故意 犯罪の発生を避けるに意図してはいるが、自分の行為から犯罪を起せる可能性を事前に認めながら、なおその行為に及ぶよきの心算状態。

学習

□ 日本語の中で、大和言葉と漢語はそれぞれどのような役割を果しているかを、辞書の巻末をまよめてみよう。

□ 次の各々の( )は、「新たに聞く」や「始まる」「始まる」という意味を持つ漢語を漢語を入れてみよう。

- 1 課題を( )する。
- 2 体育館の建設に( )する。
- 3 事務所に( )する。
- 4 おりいりぶんが( )られる。
- 5 検定委員会を( )させた。
- 6 厚生寮を( )する。
- 7 アンケートを( )する。
- 8 事態を( )する。

□ 例にならって、四字の漢語をいくつか並べて自己紹介をしてみよう。

(例) 高校三年、自宅郊外、電車通学、趣味演劇、元気一杯

□ 次のかたかなを漢字に直してみよう。

- 1 母国文明をタテかえて輸入された。
- 2 きまりなまをきんで取り入れた。
- 3 いろいろなカイネンを持ち込む。
- 4 重要な部分を二つう。

第2節 記録文「アカテガニの大打進」に学び、周辺の観察を通して記録文を書く。

津田 佳奈子

1、指導の目標

- 客観的な事実を記録し、文章に生かすことができるようにさせる。
- 「記録」の対象は特別なものや出来事だけではなく、日常の中にもあるということを実感させる。
- 小論文を書く際に「記録」という視点を取り入れることができるようにさせる。
- 客観的な事実を加えて、説得力のある文章を書くことができるようにさせる。

2、指導の要点

◆授業の大まかな流れ

- 本文により、「記録」を文章に生かす方法を知る。

↓

- 身近なことを観察し、記録を試みる。

↓

- 記録を文章に生かし、説得力のある文章を書く。

大学入試で課される小論文では、一見記録文の書き方はあまり役に立たないように思われる。しかし論の中に、推移していく事柄や自然の事柄などの客観的事実を踏まえ根拠を示して書くことで文章全体に説得力を持たせることができるので、小論文を書く上でも有効な方法であると言う事ができる。

本教材を使用し、記録的なものの見方の文章への生かし方を学習していく。著者の優れた観察眼により、事実がどのように文章の中に描き出されているかを読み取り、学習者が記録文を書いていく上で役立てていけるようにしたい。また実際に記録文を書かせる際に、まず身近なものに着目させて観察対象とさせる。学

習者は特別「観察」という意識を持っていなくても、日常生活の中で「観察」を行っていることはしばしばあると考えられる。例えば、他人の観察である。他人の癖や話し方の分析を無意識のうちに行っていることがある。「観察」が学習者の日常と決して切り離された所にあるのではないという意識を持たせ、「記録文」を書くということへの抵抗感を取り払いたい。本教材では「アカテガニの産卵」という、学習者にとっては非日常的なものが観察対象となっている。そのため、「記録」を非日常的なもの、特別なものと思込ませる恐れがあると思われる。それを避けるために「記録」は日常のものごとの観察でもできるということを強調し、小論文に生かすことのできる「記録」を身に付けさせたい。

○指導目標

- ・教科書の本文で、工夫されている点を理解し、自分の表現に生かすことができる。
- ・観察的な視点を持って記録をし、文章化することができる。

○指導計画（全2時間）

| 時   | 学習目標                 | 学習活動                                                                    | 指導上の留意点                                                 |
|-----|----------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 第一時 | ○記録文とはどのようなものかを理解する。 | ○記録文について理解する。<br><br>○本文通読。<br>○本文から、記録されている事柄を順を追って理解する。<br>○記録文に必要なもの | ○客観的な事実を記録したものであることを押さえさせる。<br><br><br><br>○記録文には正確な情報や |

|            |                                                                                |                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                               |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | <p>○本文の工夫されている点に気付く。</p> <p>○工夫点と「主観」「客観」の関係を理解する。</p>                         | <p>を考える。</p> <p>○本文中で、「アカテガニの産卵」という「記録」を文章に表す上で著者が工夫している点を探す。</p> <p>○文章における客観的視点、主観的視点について理解する。</p> <p>○挙げられた著者の工夫点と「客観」「主観」の関係を考える。</p> <p>○「観察」の対象を決める。</p> <p>○宿題としてワークシート②をやってくる。</p> | <p>細部にわたる観察が必要であることを理解させる。</p> <p>○擬人法、擬態語、繰り返し、省略などが挙がるようにする。</p> <p>○本文から、著者の主観によって書かれている表現を抜き出させ理解させる。</p> <p>○著者が強調したい（読書に伝えたい）ことの表現に技巧を凝らし、そこに著者の主観が入っていることに気付かせる。</p> <p>○「観察」の対象は日常的なものでいいことを強調する。</p> |
| <p>第二時</p> | <p>○教科書の本文の中で工夫されている点を理解し、自分の表現に生かすことができる。</p> <p>○観察的な視点を持って記録文を書くことができる。</p> | <p>○ワークシート②を基に、ワークシート③を記入する。</p> <p>○ワークシート③を基に、記録文を書く。</p>                                                                                                                                | <p>○教科書の本文を参考にさせる。比喩表現の使い方など。</p>                                                                                                                                                                             |

○第一時学習指導案

指導目標 ・記録文とはどのようなものを理解させる。

・「アカテガニの大打進」から、記録文の特徴を押さえさせる

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                             | 評価の観点                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○記録文について理解する。</p> <p>○本文を通読する。</p> <p>○アカテガニに関する記録について以下の5点をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカテガニに出会った時間</li> <li>・アカテガニに出会った場所</li> <li>・出会った時のアカテガニの様子</li> <li>・アカテガニが産卵している場所</li> <li>・アカテガニが産卵している様子</li> </ul> <p>○記録文に必要なものを「アカテガニの大打進」から確認する。</p> <p>○本文中で、「アカテガニ</p> | <p>○自然界の出来事・事実を記録した文章、人間の言動を記録した文章があることを押さえさせる。</p> <p>○何について記録されている文章なのかを押さえさせる。</p> <p>○本文の記述から、記録されている事柄を順を追って理解させる。</p> <p>○思いついたことを発表させる。記録文には、正確な情報が必要であることを押さえさせる。</p> <p>○擬人法、擬態語、繰り返し、</p> | <p>○記録文とはどのようなものを理解することができたか。</p> <p>○「アカテガニの大打進」に書かれている情報を、順を追って理解することができたか。</p> <p>○「アカテガニの大打進」から、記録文の特徴を理解することができたか。</p> |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| <p>の産卵」という「事実」を記録文にする上で著者が工夫している点を探す。ワークシート①記入。</p> <p>○本文から、著者の主観によって書かれている表現を抜き出す。ワークシート①記入。</p> <p>○客観的な事実の記録に、著者の主観が加えられることでの効果を考える。ワークシート①記入。</p> <p>○工夫されているところと主観が加えられているところには、どのような共通点があるかを考える。ワークシート①記入。</p> <p>○自分が観察する対象を決める。</p> <p>○ワークシート②を宿題としてやってくる。</p> <p>○次時の予告。</p> | <p>省略などが挙がるようにする。</p> <p>○著者の強調したい部分や読み手に伝えたい部分分かる、などの著者の気持ちが表れることを押さえさせる。</p> <p>○筆者が強調したいところに、表現上の工夫がされていることを押さえさせる。</p> <p>○観察の対象は日常的なものでいいことを伝える。日常の観察の例を挙げる他人の癖や話し方など。</p> <p>○ワークシート②の説明をする。<br/>対象は人に限定しなくてもいいことを伝える。</p> | <p>○著者の工夫点と「客観」「主観」の関係を考えることができたか。また、「アカテガニの大打進」から、記録文の特徴を押さえることができたか。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|

○第二時学習指導案

- 指導目標 ・「アカテガニの大行進」で工夫されている点を理解し、自分の表現に生かすことができているか。
- ・観察的な視点を持って記録文を書くことができているか。

| 学習活動                                                                            | 指導上留意点                                                     | 評価の観点                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○前時の想起。</p> <p>○ワークシート②を基に、ワークシート③を記入する。</p> <p>○ワークシート③を基に記録文を書く。(800字)</p> | <p>○記録文に必要なことや、教科書の本文での工夫点を確認する。</p> <p>○回収し、添削して返却する。</p> | <p>○「アカテガニの大行進」で工夫されている点を理解し、自分の表現に生かすことができているか。</p> <p>○観察的な視点を持って、記録文を書くことができているか。</p> |

シート①

☆「アカハ」の「大行進」から考えよう！

名前( )

著者が工夫している表現を抜き出そう。また、それによりどのような効果があるかを考えよう。

| 表現 | 効果 |
|----|----|
|    |    |

著者の主観が現れている部分を抜き出してみよう。

主観が加えられることでの効果を考えよう。

工夫されていることと主観が加えられていることによりどのような効果があるかを考えよう。

ワークシート②

☆( )さんの観察記録 名前( )

・観察日… 月 日 曜日

・場所

・状況(観察の対象者は何をしているか、観察者との位置関係、周りの様子など。)

・時間の流れにそった対象者の様子。

| 分 | 対象者の様子・行動(事実) | 思ったこと |
|---|---------------|-------|
|   |               |       |

ワークシート③

☆観察記録に「私」を入れよう☆

名前( )

・( )さんの観察結果から、主張は何かを考えよう。

・主張の根拠となる行動・様子(観察した事実)は何かを考えよう。

・強調したい行動・様子に工夫をしてみよう。 \* 比喩や擬態語など

| 強調したい行動・様子 | →工夫後 |
|------------|------|
|            |      |

・文を組み立てる

状況説明(時間・場所など)



観察の経緯(観察の結果を時間を追って説明する。)

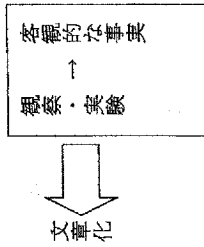


観察の結果分かったこと・思ったこと、その後など

「アカテガニの太行進」

畑 正憲

○記録文…



\* 「アカテガニの産卵」の記録

○アカテガニに出会った時間

- ・ 九月、中秋の各月の日
- ・ 夜

○アカテガニに出会った場所

- ・ 伊豆半島の下田
- ・ 実験場へ行く途中の道路で

○出会ったときのアカテガニの様子

- ・ 道の表面を覆い、黒く見える
- ・ 右から左へ動いている
- ・ 海へ進くとはつていく
- ・ メスは産卵の部分に子供をたくさん抱えている

○アカテガニが産卵している場所

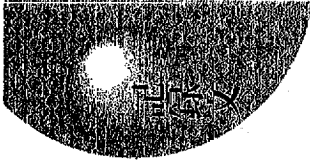
- ・ 岩が重なる海辺
- ・ 潮たまり

○アカテガニが産卵している様子

- ・ 足の先をしっかりと岩にかけて水を探し、中に入って体を固定
- ・ 何度も激しく体を振る。
- ・ 潮たまりで産卵を済ませるものも

\* 記録文に必要なものは何だろう。

- ・ 詳しい観察
- ・ 周りの状況
- ・ 正確な情報



記号文とは、自然界の出来事や現象を記録した文章で、人間の言動を記録した文章とがある。ここでは、前者の記号文について学習しよう。

アカタカニの太行塵

知正 正徳

九月、仲秋の名月の日。塵はエカレイホサという動物の心腹を切り出して寒陰する。ために、香屋草馬の下田へ行った。

下田の美露草は、町はずれの山の向こうにある。あいらづだけでもしておこうと草を食わせる。突然、車轡の下でギシギシという音がして、自動車の入トドが落ちた。「なんだ、どうしたんだ。」前を見て驚いた。一瞬、道路が横へ動いているのじやないかと思った。右手は山が走り、なだらかに傾くようになっていて、左手はすぐ海である。ちょうど晴れていたので、まん丸の名月が輝々と光を浴び、波が銀色に輝いていた。そして、本当なところ、道が白く見えるはずであった。が、道の空気をアカタカニが覆い、黒く見える。アカタカニは右から左へと動いていた。山から海へ、塵卵に向かっていたのである。



知正 正徳「二〇三三」作。著書は『われら動物の心腹』『アカタカニの太行塵』などがある。本文は『好む』より。

①アカタカニは、塵卵を「アカタカニ」の塵。塵卵をアカタカニが食し、外は黒いから見えなくなっている。



②アカタカニは、塵卵を「アカタカニ」の塵。塵卵をアカタカニが食し、外は黒いから見えなくなっている。

塵はよく自動車を降りた。今更ってきた所には、車轡の跡がくっきりと残っている。アカタカニが踏みつきたら、べしべしとつるれていく。しかし彼らはそんなことを気に留めていない。仲間の死体を踏み踏んで、海へ、海へとつれていく。塵卵といつても、日本バロロやカミタと違い、塵卵はもう潰れている。アカタカニは、塵にいるときから種子をもらい、おなかの部分に三葉をたくさん抱えていた。

出てくるわ、くるわ、その塵の多さは塵はびっくりしてしまった。最も多いのは、山から流れ出す水の量だ。雨が降ったとき、水が滝になって流れる石ころ道を、アカタカニが押し合ひし合ひ降りてきていた。あまり多いので、元気のいいカニは、前のものを踏み踏んで進んでくる。塵は手を伸ばして、中の一匹を握り取った。簡単だ。たやすく捕まえられる。かつて三葉草の塵卵の近くで見だしたのはまるで違う。本来ならアカタカニは、人の近づくと逃げ見ただけで逃げ去るはずだ。それなのに、人がいようといまいと、おかまいたして海へと進む。それはかりか、人が手を触れたとき、初めておなかを逃げようとするだけだ。塵は、何か強い衝動に駆られて行動しているのだが、としみじみ思った。

海辺へ降りてみた。塵だ。塵だ。塵だ。岩が重なる海辺に着いたアカタカニは、足の前をしっかりと踏みかき、水を探し、中に入って体を固めた。そして、潮が退く潮の上を渡っていく。塵やかな波がぶつかるし、激しく体を揺らした。三葉、四葉……十度。そしてまた五葉、六葉。まるで塵でもするかのようだ。ふるふる、ふるふる

③アカタカニは、塵卵を「アカタカニ」の塵。塵卵をアカタカニが食し、外は黒いから見えなくなっている。



④アカタカニは、塵卵を「アカタカニ」の塵。塵卵をアカタカニが食し、外は黒いから見えなくなっている。



⑤アカタカニは、塵卵を「アカタカニ」の塵。塵卵をアカタカニが食し、外は黒いから見えなくなっている。

ることも覚えておきた。そのために、おなかには詰めた卵が、バツと海中に落ちて引き波  
 ばちらわれていった。中には、潮だまりで隠れているものがあった。水に体を懸す動  
 作は刺激となり、隠れが動けるのだ。だから最悪の潮だまりで産卵を済ませ、もつ  
 るも引寄せ上げていくかきりものもいた。

そこで僕は、「この実験を思いこいた。急いで自動車へ戻り、積んでおいたバケツ  
 を取り出し、池の上でカニを養育を始めた。環境はよく出来た。十分、百匹以上の  
 アカナカニが養育された。僕はバケツを連続く覆った。そして、中から十分ごとに四匹  
 ずつアカナカニを出し、水の中へ入れてやった。水の中に入ったカニは、小気味よい  
 感じを感得させて卵を産んだ。二十分、三十分……。やがて二時間ほどたったころ、  
 僕は奇妙なことに気づいた。アカナカニが産卵しなくなったのだ。それはやはり、ハ  
 ナシだ。おなかの中に詰まっている卵を悉くくり出して、食べ始めなすはないか。僕  
 は驚いておなかりを馬回した。ど、あれほどいたアカナカニがいない。潮がひたひたと  
 乾き、それまで出ていた道を隠して、静かな海に月の光だけが輝々と照らしている。

隠すにもおかけられたような気がして、僕はしばらくがカニとしていた。バケツの  
 カニを数中していたほんの一時間か二時間はかりの間は、それこそ潮が引くようにア  
 カナカニを連れていた。バケツの中には、まだかなりの数のカニが産卵していた。僕は  
 それを全部隠すに努めてみた。すると予想どおり、産卵動作をするのは必ずかに二匹  
 か三匹、あとは自分の卵を食えるか、とそこに物陰に隠れるか、山のぼろく多いては

①潮だまり 潮が引いた後、潮の動  
 揺などは潮水が凝っている所。

②「この実験」の語句は、どうい  
 う意味をもたれているか、考  
 えてみよう。

つた。自分の卵を食べているアカナカニを、水の中へ入れてみた。彼が必死の衝動  
 で卵を産むつもりだと思いたからである。しかし、いかにあつてもいというふう  
 は、おなかの中に産卵を隠して、手元で身を隠してしまつた。

その夜僕は、おなかを隠れなかつた。アカナカニの不思議な行動がらついて、考  
 えこんで山登りであった。アカナカニは、太陽の日を知っている。しかも、潮が満ち  
 いくる数時間前から行動し、卵がはかりやすくなるようにするのだから、時間をよく知っ  
 ているのだ。そのときは、日よりの隠れ場所をあらかじめ探して、そして、潮の時間に間  
 はおなかに卵を、卵を食えて身を隠すのだ。自然の神業といつてしまえばそれ  
 であつた。そのリズミを作るものは、もつと何れも隠れなものだもたない。だが、そ  
 れをどうして取り出したらいのか、いくも考えても見当がつかなかつた。

③最後の段落は、この文章全体を  
 どういふ結論を導きだしているか、  
 考えてみよう。

④太陽、潮の満ち引きのころ、干潮  
 の時刻を大に隠す。

学習

- ①例文では、次のような文はどのように記述されているか、書  
 き出してみよう。
- 1 アカナカニは出合つた瞬間
  - 2 アカナカニは出合つた瞬間
  - 3 アカナカニが産卵している場所
  - 4 アカナカニが産卵している場所

- ②例文を読んで、文章の構造をどのように記述されているか、  
 考えてみよう。
- ③次のおなかを隠すという文を、
- 1 人の近づくのを隠すために走り去った。
  - 2 何か隠しにムカトに隠るのだ。
  - 3 彼がはかりやすくなるように卵を産む。



第3節 「聞き書きを書く」のは記録文と物語文との総合行為だ——「看護師、それはやりがいのある仕事」に学んで——

春名聡子

1. 指導の目標

聞き書きを書くにあたって、取材相手の人間性を表に出しながら、その思いを読者に強くアピールできる文章を書けるようになることを目標とする。

その目標にいたるためのポイント

- ① 聞き書きを書くことの意味を理解させる。
- ② 聞き書きを書くための取材の行い方を理解させる。
- ③ 取材内容のまとめ方を理解させる。
- ④ 聞き書きの書き方を理解させ、身に付けさせる。

2. 指導の要点

聞き書きを書くということは、自分の意見を書くこととは違うため、だらだらしたものになりやすいと考えられる。しかし、聞き書きとはある人の考えを、別の人に伝えるものであるから、文章に伝達力がなくてはならない。また、話す人には独自の人間性があるし、その人の思いが話の背景にある。したがって聞き書きは、記録文であると同時に、物語文でなくてはならないのだ。今回は、聞き書きの文章の、記録文と物語文の総合行為であるという面に重点をおいて指導していきたいと思う。

まずは、記録文としての性質を理解させ、文章に取り入れさせる。次に、物語文としての性質を理解させ、文章に取り入れさせる。こうして、記録文と物語文という二本の道をたどり、それを合わせることで、聞き書きの文章を完成させていきたい。

3. 学習指導計画 (全3時)

|    |     | 指導目標                                                                                                                    | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                | 指導上の留意点                                                                                                                                                         |
|----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一 | 第一時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○聞き書きの文章の意義を理解させる。</li> <li>○聞き書きの文章の書き方を理解させる。</li> <li>○取材の方法を理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料①を参考にしながら、聞き書きの文章について理解する。</li> <li>○教科書 pp.76 (第一学習社『国語表現 I』「看護師、それはやりがいのある仕事」)を読み、実際に聞き書きの文章がどのようなものであるかを知る。</li> <li>○ワークシート①に記入させながら、取材の方法を学ぶ。</li> <li>○ワークシート②を配布し、取材を行う際それに記入するように指示する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が実際に文章を書くときのことを考えながら話を聞かせる。</li> <li>○取材は最も重要なことなので、全員がきちんと理解できるように注意する。</li> <li>○次時までには取材を完了しておくように指示する。</li> </ul> |
| 第二 | 第二時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○取材内容を生かした聞き書きの文章を書かせる。</li> </ul>                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシート③を使いながら、実際に聞き書きを書く。</li> </ul>                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○取材内容を生かすことができるように指導する。</li> <li>○分量は指定しない。</li> <li>○次時までには完成させてくるように指示する。</li> </ul>                                   |
|    | 第三時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に取材を行って見て、取材のあり方について考える。</li> </ul>                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○完成させた聞き書きの文章を、互いに読み合う。</li> <li>○より良い聞き書きの文章のありかたについて考える。</li> </ul>                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒に、聞き書きの文章について再度理解させる。</li> </ul>                                                                                      |

第一次 第一時 指導案

本時の目標

- 聞き書きとは何かを理解する。
- 聞き書きの文章の意義とその書き方を理解する。
- 取材の行い方を理解する。

| 時間  | 学習活動                                | 指導上の留意点                                                                                                                              | 評価の観点             |
|-----|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 0分  |                                     | ○本単元と本時の学習内容を説明する。                                                                                                                   |                   |
| 3分  | ○教科書pp.74と資料①を参考に、聞き書きの文章とは何かを理解する。 | ○資料①を配布する。<br>○聞き書きの文章とは、記録文と物語文の融合であることを理解させる。                                                                                      | ○聞き書きとは何かを理解できたか。 |
| 20分 | ○取材の方法を理解する。                        | ○ワークシート①を配布する。<br>○ワークシートの、「いつ取材する？」まで記入させる。<br>○テーマは取材相手と話し合って決めてもいいと説明する。<br>○アポイントの必要性ととり方を説明する。<br>○取材に関する注意事項の欄を、発表を求めながらうめていく。 | ○取材の方法を理解できたか。    |

|     |              |                                                         |  |
|-----|--------------|---------------------------------------------------------|--|
| 47分 | ○次時の学習内容を知る。 | ○ワークシート②を配布する。<br>○次時まで取材を完了しておき、次時には聞き書きの文章を実際に書くと告げる。 |  |
|-----|--------------|---------------------------------------------------------|--|

第二次 第二時 指導案

本時の指導目標

○文章の構成を考えることができる。

○聞き書きの文章を書くことができる。

| 時間  | 学習活動                         | 指導上の留意点                                                                  | 評価の観点               |
|-----|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 0分  |                              | ○本時の活動を確認する。                                                             |                     |
| 3分  | ○構成を考えて、ワークシート③に記入する。        | ○ワークシート③と原稿用紙2枚を配布する。<br>○適宜机間指導を行う。                                     | ○構成がきちんと立てられるか。     |
| 6分  | ○記入し終えた生徒から、文章の作成に入るように指示する。 | ○原稿用紙が足りなくなったら前に取りに行くように指示する。<br>○適宜机間指導を行う。<br>○書き終えた生徒には推敲を加えるように指示する。 | ○聞き書きの文章を書くことができるか。 |
| 47分 | ○次時の学習内容を知る。                 | ○次時は、文章を読み合い、聞き書きについてまとめることを告げる。                                         |                     |

第二次 第三時 指導案

本時の指導目標

○実際の体験を通して、再度取材の行い方を理解する。

○聞き書きについて再度理解する。

| 時間  | 学習活動                       | 指導上の留意点                                                                                                                                     | 評価の観点                             |
|-----|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 0分  |                            | ○本時の学習内容を確認する。                                                                                                                              |                                   |
| 3分  | ○実際の体験を通して、取材の行い方をもう一度考える。 | ○ワークシート④を配布する。<br>○発表をさせながら取材の行い方を考え、ワークシート④に記入させていく。                                                                                       | ○実際の取材を通して取材の行い方を見つめなおすことができているか。 |
| 15分 | ○互いの文章を読み合う。               | ○班を構成させ、互いに読み合わせをさせる。<br>○互いの作品について話し合いをさせる。<br>○一番の観点はどこに取材相手の人間性を表せていたかだということを確認する。<br>○その他にも、取材相手の話した内容を正確に理解し、記録することができるかにも注意することを確認する。 |                                   |

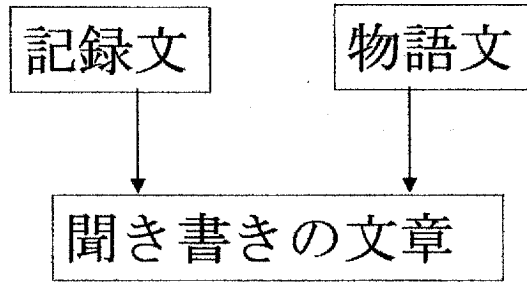
|     |                                   |                                            |                     |
|-----|-----------------------------------|--------------------------------------------|---------------------|
| 30分 | ○聞き書きを行うポイントについて体験と話し合いを踏まえて確認する。 | ○ワークシート④の続きに班で考え記入させていく。<br>○適宜机間指導を行う。    | ○取材内容と文章の対応が確認できたか。 |
| 40分 | ○クラス全体の意見を聞く。                     | ○実際に書く前には思いつかなかったが、今考えられた、ということを発表させ、まとめる。 |                     |
| 47分 |                                   | ○聞き書きの文章を回収する。<br>(後日、アドバイス等を書いて返却する。)     |                     |

## 聞き書きを書こう

聞き書きの文章は、記録文と物語文からできています。

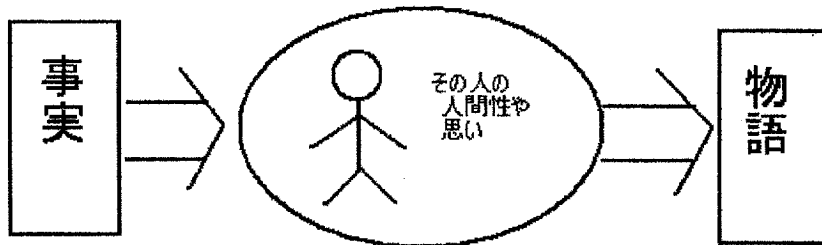
聞き書きとは、他者の話を聞き、その人の体験やものの見方・考え方を文章にまとめるものです。その話を聞き、まとめることで、自らの生き方の参考になったりもします。また、聞き書きの文章を書くことは、記録文と物語文の総合されたものを書くことになるので、文章力の育成にも役立ちます。

今言ったように、聞き書きの文章は、記録文と物語文を総合した文章を書くということです。この点をしっかり頭に入れておきましょう



取材相手の話は、事実以上の物語になるのです。

なぜなら、話者にはそれぞれ人間性があり、その人が話す話には、話者の思いがまつまっています。つまり、事実は、話者というフィルターを通すことによって物語へと変化を遂げるのです。この物語を文章にすることが、聞き書きを書くことなのです。





## 取材をしよう！

誰に取材する？.....( )



どこで取材する？.....( )



いつ取材する？.....( )



テーマを選ぼう！

次の中から選んで丸をつけておこう。(仕事・趣味・忘れられない思い出)



ついに取材！？

でも、ちょっと待って、ちゃんと取材相手にアポイントをとらなくちゃ。

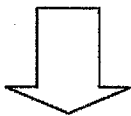
ポイント・・・アポイントをとるときには、いつどこで取材をさせてもらうか、  
何について聞きたいか、ちゃんと伝えておくんだよ。



今度こそ取材だ！！

取材に関する注意事項をここにいくつかまとめておこう

- ・
- ・
- ・
- ・ (ここで挙げるべき事項を12ページに列挙しておく。)
- ・
- ・
- ・



本番だ！

ワークシート②

## 取材

・聞きたいことをまとめておこう。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

・いつ、どこで、だれに取材を行ったのか書こう。

( )

| テーマ |  |
|-----|--|
|     |  |

(足りなかったら裏や他の紙に書こう)

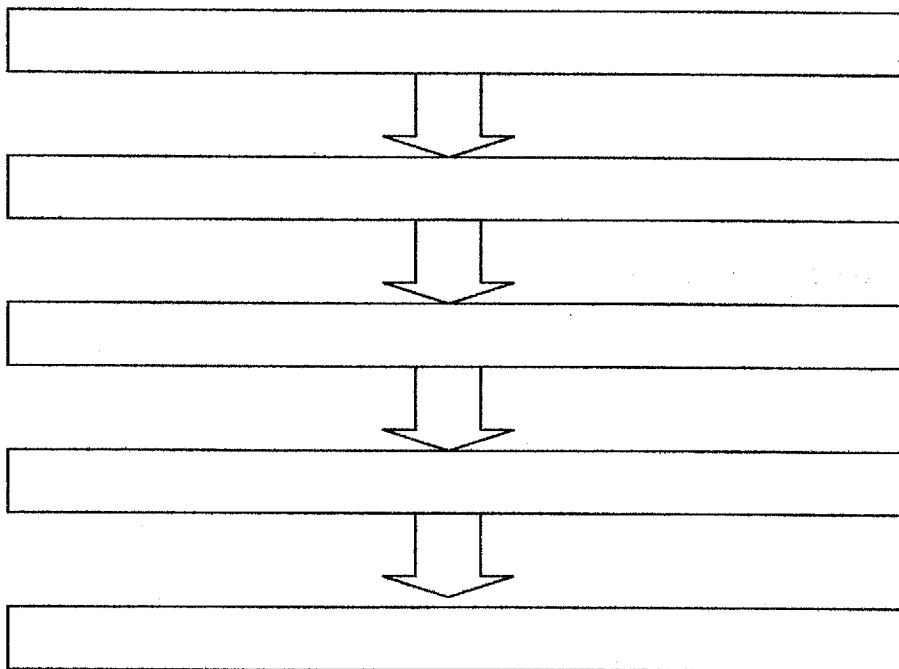
ワークシート③

**聞き書きを書こう**

1、書きたい内容を箇条書きにしよう。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

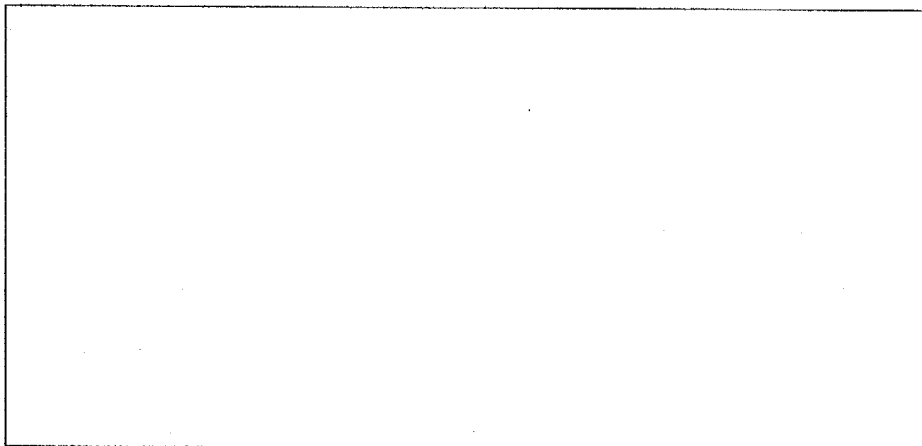
2、書きたい内容の構成を考えよう。



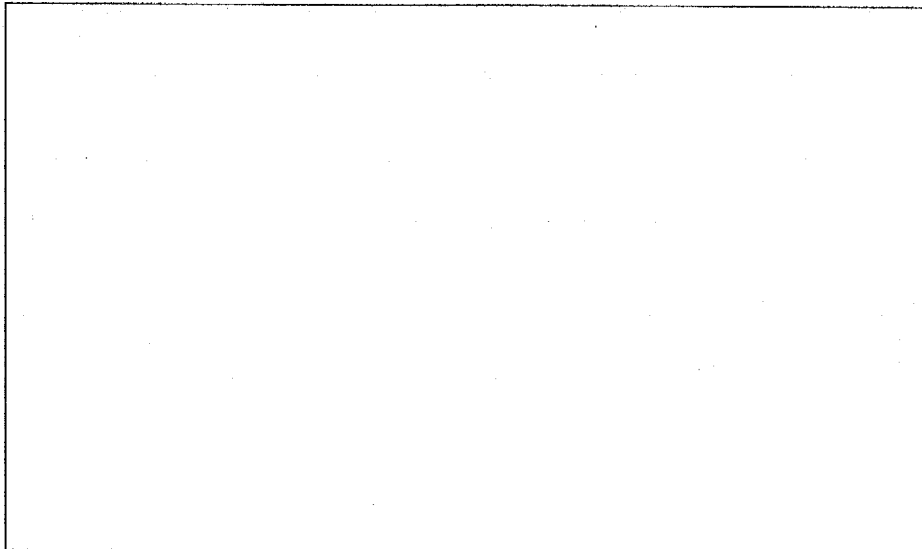
ワークシート④

## まとめ

### 1、取材の行い方



### 2、聞き書きを行うポイント



### ワークシート①について

取材に関する注意事項として授業中に挙げるべき項目をここに書いておく。

- ・ 事前に聞きたいことを考えておく。
- ・ 似顔絵を描いておく。
- ・ メモを取りながら話を聞くこと。  
（話しているときの様子、しぐさ、話のクライマックスにきたときの表情等）
- ・ いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように行ったのか、というポイントを聞き逃さないようにする。
- ・ メモは要点にとどめ、話し手の顔を見て、ちゃんと聞いていることが相手に伝わるようにする。
- ・ 了承を得て、録音しておくと確実である。
- ・ 話し手と良好な関係が築けるように、臨機応変に対応する。  
→話の流れを考えて、話を掘り下げたり、質問を加えたりする。  
話が自分の思っていない方向に流れ始めたとしても、あせらず、ゆっくりと話を聞かせてもらう。
- ・ 話を聞き終えたらきちんと御礼を言う。

# 看護師、それはやりがいのある仕事。——生徒作品

今私がやっているのは、高齢社会に向けての老人看護が中心です。それを専門的にやっています。病気の人の、気持のケアとケアを自分からやるかというの、これは問題になってる。精神的な面からでも、患者さんにとって生活が楽なところ、病院と家庭をあんまりかけ離さないように、患者の側面をしっかりと見ると、入院というのは、経済的にもいろいろある。だから絶対に家庭の力がはいる。

今、看護の仕事はよく専門化してきてる。老人看護とか、成人看護とか、小児看護とか、いろいろなジャンルに分かれている。卒業してから五、六年は、いろんなことを経験したらいと思う。私もまだはじめてる。若いとまだなんでも経験が浅いから、役に立つことがいろいろあると思う。だから、私は老人看護に興味を持って

る。老人看護というのは、治療というよりも、看護が中心になってきている。病気が治るときは補助的であって

りません。でもまあ、無理な治療はやらないという方針なんです。薬をいっぱい飲んだりなんかすると、途中で機能障害とか起こしてしまう。老人から、病入病入あけるといふ。若いときは、いんまこころも大丈夫をいって、六十年、七十年、八十年と年とってこころもいんまこころなんです。

私も看護師もよく勉強と聞かれます。でも、患者の病気を正解に導くというよりも、看護士は傾聴するんです。年いって来たら、それでも正解はわかってこころも抱いては生な人かとは、よく理解する。健康な看護士から、よく病に目をして注射して、いろいろな治療しては防衛のことばかりいんまこころで近ごろ考える。それやったら、楽しくしてあげるのと、明るい方向に持っていくのがいいと思う。今なんか、シクリエーションセンターというのが二回か三回行っているわけ。リハビリっていうのを出すと、楽間を呼ぶんです。患者さんは、それは非難に受けて、毎日行っているみたいやし。

患者さんっていうのはおもしろくて、おしいから、

いいから。っていうなら、勉強は嫌う。自分をまた苦学して思っているから。だから、みんながみんなうけてあげんのだ。田中さんって、田中隆一さん、今日はどうですか。っていうのが、頭は長髪いになるみたい。おしいって、なんで思ってる。患者さんって、言われているから、よけい苦けるみたい。だから患者の人は、「患者も苦問を呼んであげてね。」っていう。もしならみんな同世代はなってくるんよ。子供さんって、世代は。

いはい、患者さんって、話を多くしてあげることやわ。これでも、看護師が受ける人も、それ「後でね。」とか言うのは、絶対なめておけるようにしてんの。時間のないとでも、患者さんの話をしよう。

私は看護師もよく勉強と聞かれます。患者さんがいんまこころをいんまこころに、相談をもらって、そしていんまこころをいんまこころに。そのとこは、いいですよ。たぶん、健康な人から、いんまこころをいんまこころに、それにいる人、誰かの人、おもしろい。それ、子供から、誰かの人、いんまこころをいんまこころに。他の仕事は、いんまこころ。ちよこといんまこころをいんまこころに、聞かすも、いんまこころ。まあ、いんまこころをいんまこころに。

## 学習

- 生徒作品の中で、次に該当する箇所を指摘してみよう。
- 1 看護師としての誇りがよくうかがえる段落
- 2 患者に対する風が心地よいかがえる段落
- 若い人から、次のいずれかのテーマで話を聞いて、問題を書いてみよう。
- 1 打ら返している仕事について
- 2 珍しい体験が忘れられない思い出について
- 3 戦争体験や戦後の生活について
- 次のかたかなを漢字に直してみよう。
- 1 印刷を文庫にハノエさせる。
- 2 老人看護にキョウマイを持つ。
- 3 チリヨウよりも看護が中心になる。
- 4 機能シヨウグアイを絶やす。

#### 第4節 報告文（レポート）・企画文を積極的に学校現場に導入する試み

……社会ではこれらの文種を書く機会や場面が頻繁にあるのに

学校現場では極めて少ないのはおかしい……

三島 淳

この節では、第一学習社『高等学校 国語表現Ⅰ』pp.80～pp.82「私たちの学校における読書の実態」および「参考 情報の収集と整理」を利用した授業を構想していく。

##### 1. 指導の目標

報告文（レポート）や企画文は、学校現場でその書き方を教えることは少ない。これらの文種を学校現場で教えることの意義として次の二つが考えられるだろう。

第一に、これらの文章は、社会に出てからは書く機会が非常に多い。そのため、こうした文章に慣れ親しませ、書けるようにすることは重要である。

第二に、これらの文章は、性質上、簡潔で分かりやすく、かつ客観的で科学的に書くことが求められる。そのため、こうした文書を書けるようにする中で、客観的で科学的な捉え方を生徒の中に芽生えさせ、簡潔でわかりやすい文章表現を身につけさせることができる。

以上の二点が報告文（レポート）や企画文を学校現場で教える意義である。

但し、今回の授業案では、報告文が企画文を書く上での土台となることを考え、報告文（レポート）を中心とした授業を構想している。単に土台と言ってもわかりにくいので、説明を加える。観点は二つある。第一に、表現の面で土台となる。企画書は企画を「報告」するものであるから、基本的な表現形式は変わらない。第二に、内容の面で土台となる。データを報告することを主目的とするのが報告文であり、そのデータをもとに企画し、提案するのが企画文であるからだ。

以上のことを踏まえ、今回の目標を以下のように設定する。

- ① 報告文（レポート）を書くことの意義を理解させる。
- ② 報告文（レポート）の書き方を理解させ、身につけさせる。
- ③ 客観的で科学的なものの見方を身につけさせる。
- ④ どういった書き方をすれば簡潔でわかりやすい文章になるかを理解させ、そういった書き方を身につけさせる。
- ⑤ 情報の収集の仕方、整理の仕方を身につけさせる。

以下、「報告文（レポート）」は、「レポート」と表記することを追記しておく。

## 2. 指導の要点

レポートには大まかにいって2種類ある。一つは、教科書に取り上げられている「私たちの学校における読書の実態」のように、データの報告自体を目的とするものである。これは後の判断に役立つための材料を提供することを目的としたレポートと言える。これをこの節では便宜的に「データレポート」と名づけることとする。もう一つは、目的があり、明確にその目的を果たした結論を報告するレポートで、本節ではそれを「結論レポート」と名づけることとする。これは、企画文に近い性質を持つものである。本節で目標とするのは、この「結論レポート」を書けるようになることである。なぜなら、「データレポート」は、「結論レポート」の中に組み込まれているため、「結論レポート」を書けるということは、同時に「データレポート」も書けることを意味するからである。

レポートは、三段論法の型に当てはめてみると、尾括型と考えることができる。即ち、「テーマ+論証+主題」の三段からなる作文型である。単一の単元として終わらせてしまわないよう、三段論法の思考も意識させながら、レポートに取り組ませるのがよいだろう。

本教材では、実際の生徒によるレポートと、情報の収集と整理の方法が述べられている。「私たちの学校における読書の実態」では、アンケートによる調査のみがなされているが、「情報の収集と整理」で、情報収集の手立てがアンケートに限らないことを理解させることができるだろう。それを踏まえることで、授業に広がりが出てくるだろう。一口に「広がり」と言っても、その広げ方は一様ではなく、様々な方向へ広げていくことができる。例えば、情報教育の方に重点を置く広がり方も考えられるだろう。しかし、今回は、報告文が書けるようになることを目的としている。そこで今回は、報告文の中の「調査」のバラエティを増やす、という方向に広げていきたい。

また、本教材では、あまりレポートの書き方には言及していない。適宜、第一学習社『国語表現Ⅰ』pp.78～pp.79「レポートを書く」に挙げられたレポートの書き方や発表する場合の留意点を参照しつつ、教師による手引きをしていきたい。

## 3. 対象学年

高校2年生を対象とする。時期は二学期とする。

高校2年生の二学期という時期を考えてみると、本当に自由で楽しかった時期だという印象がある。クラブでは自分達が先頭に立ち、勉強では3年生ほど追い



詰められることもない。学校行事も多く、様々なことができる時期である。

そうした時期だからこそ、こうした報告文というのは、重要になってくる。実際に報告文を書かないにしろ、報告文的思考は大切な要素である。ここで報告文的思考とは、データを踏まえて判断する思考のことである。

こうした思考がなぜ必要なのか考えてみる。

例えばクラブ。どのように活動をしていけばいいのか、どのように練習をしていけばいいのか、どうすれば後輩はついてくるのか。こうしたことに悩むことはこの時期に多いと思う。悩んだときに、悩みを解決する手立てを与えてくれるのがデータである。データというとあまりに冷たい感じがするが、例えば先輩に去年はどのようにやっていたかを聞いてみるであるとか、本で調べてみるであるとか、そういうことである。そうして集めたデータによってこれからの方針であるとか、やるべきことであるとかが見えてくる。

何もこういった思考を必要とするのはクラブだけではない。合唱祭然り、文化祭然り、修学旅行然り。いろいろな場面でこういった思考は必要になってくる。あるいは、思考だけでなく実際に報告文という形で書くことを求められる場面もあるだろう。

こういったことを踏まえると、この学年のこの時期に報告文を教えることは大変意義深いことだと言える。

#### 4. 評価の観点

- ・ 簡潔でわかりやすい報告文が書けるようになったか
- ・ 情報の収集・整理ができるようになったか
- ・ 報告文的思考を身につけることができたか

5. 学習指導の展開例（4時限）

| 次 | 時 | 指導目標                                                                                                                             |    | 学習活動                                                                                                                                                                                                                 | 指導上の留意点                                                                                                |
|---|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートの書き方を理解する。</li> <li>2. 具体例として「私たちの学校における読書の実態」を読み、実例の中でレポートの書き方の理解を深める。</li> </ol> | 導入 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これから数時間かけてレポートを書くということを理解する。</li> <li>2. ワークシートを見ながら、レポートの書き方を押さえる。</li> <li>3. ワークシートのレポートの書き方にそって、「私たちの学校における読書の実態」を分析する。</li> </ol>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ あとから自分が書くのだということ常を意識させておく。</li> </ul>                         |
| 2 | 2 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡潔でわかりやすいレポートが書けるようになる。</li> <li>2. 情報の収集と整理をどのようにすればいいのか理解する。</li> </ol>              | 準備 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「情報の収集と整理」を参考に、情報の収集法、整理法を理解させる。</li> <li>2. レポートのテーマを決める。</li> <li>3. ワークシートに記入しながら、レポートを書く準備をする。</li> <li>4. ワークシートを記入し終えたら、文献や資料を用いて情報を集めたり、アンケートの原稿を作ったりする。</li> </ol> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館での活動を行う。</li> <li>○ テーマが能力の範囲を超えないよう、教師は常に留意する。</li> </ul> |

| 次  | 時 | 指導目標                              |    | 学習活動                                   | 指導上の留意点                                                                            |
|----|---|-----------------------------------|----|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 3 | 1. 情報の収集と整理ができるようになる。             | 調査 | 1. 実際に調査を行う。<br><br>2. 集めた情報の解釈や分析を行う。 | ○ 図書館での活動を行う。<br>○ アンケートなどを行おうと思っている生徒は、遅くともこの時間にアンケートの原稿を完成させ、アンケートができるように準備をさせる。 |
|    | 4 | 1. 「レポートの書き方」にしたがってレポートが書けるようになる。 | 完成 | 1. 自分の決めたテーマでレポートを書く。                  | ○ 分量は指定しない。ワークシートに記入したものをもとに、簡潔で分かりやすい文章を書かせる。                                     |
| 後日 |   |                                   |    | 1. 文集形式で作品をまとめ、クラス全員に渡す。               | ○ 教師は、学習者の作品を評価し、どこをどう改善していくとよりよくなるかのコメントを付して本人に渡す。                                |

第1次第1時指導案

【本時の目標】

- ・ レポートの書き方を理解する。
- ・ 具体例を分析する。
- ・ レポートを書く意義を考えさせる。

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                           | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ レポートにはどういった種類があるかを考える。</li> <li>○ レポートを書くことの意義は何かを考える。</li> <li>○ 自分が「私たちの学校における読書の実態」を書いた人になって、ワークシート②・③・④・⑤に記入していく。</li> <li>○ 「私たちの学校における読書の実態」の良いところ、改善したほうがよいところを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元の学習内容を説明する。</li> <li>○ 発表させる。<br/>無理に全てを喋らせない。挙がらなければ教師から出してもよい。</li> <li>○ 発表させる。<br/>同じく無理に全てを喋らせない。挙がらなければ教師から出してもよい。</li> <li>○ ワークシート①を配布し、レポートの書き方について説明する。「データレポート」「結論レポート」の違いも説明し、「私たちの学校における読書の実態」が「データレポート」であることを理解させる。同時に、生徒達を書けるようにするのは、「結論レポート」であることを告げる。</li> <li>○ ワークシート②・③・④・⑤を配布する。</li> <li>○ 机間指導をする</li> <li>○ 発表させる。</li> <li>○ ノートに記入させる。</li> <li>○ 机間指導をする</li> <li>○ 発表させる。改善したほうがよいところがあれば、できるだけ、どう改善したほうがよいかまでを発表させる。</li> <li>○ 次回から実際にレポートを書くための調査をしたり、アンケートを作成したりすることを告げる。</li> <li>○ 次の授業までになるべく自分がレポートを書く際のテーマを決めておく</li> </ul> |

| 学習活動 | 指導上の留意点                |
|------|------------------------|
|      | よう指示する。<br>○ 次時の予告をする。 |

## 第2次第2時指導案

### 【本時の目標】

- ・ レポートの目的や調査の方法など、ポイントとなる言葉を簡潔にかつわかりやすくまとめて書けるようになる。
- ・ 情報の収集・整理をどのようにすればいいのかを理解する。

| 学習活動                                                                                                                                                                                             | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「情報の収集と整理」から、情報の収集法及び整理法を学ぶ。</li> <li>○ テーマを決める。</li> <li>○ ワークシート②に記入していく。</li> <li>○ ワークシート②に記入し終わったら、教師に見せる。</li> <li>○ 図書館内で、文献やインターネットを</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館に集合させる。</li> <li>○ 本時の学習内容を説明する。</li> <li>○ 「情報の収集と整理」を参考に、情報の収集方法及び整理法を学ばせる。その際、それぞれの収集方法の場合に留意すべきことも一緒に伝える。例えば、アンケートなどを行うなら、目的などと照らし合わせてその対象が適当かどうか、インターネットや文献を利用する場合ならその情報の出所を明らかにすることなどである。</li> <li>○ ワークシート②・⑦を配布する。ワークシート⑦については先ほどの情報の収集法及び整理法の話と絡めながら、使い方を説明する。</li> <li>○ 長くだらだらとした文章をここに書き込ませない。最低限必要な情報だけを書かせる。これによって、レポートを書くときの骨組みをはっきりさせる。</li> <li>○ 目的とテーマ、調査の方法がきちんと流れているかを確認するとともに、テーマ設定に無理がなさすぎないかなども確認する。考え直す必要がある場合は、どういう点がまずいのか、どうすればいいのかを学習者に伝え、そこを訂正させる。</li> <li>○ 本の探し方がわからない学習者や、イ</li> </ul> |

| 学習活動                         | 指導上の留意点                                                                                |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 使った情報収集をしたり、アンケートの原稿を作ったりする。 | <p>インターネットの利用法がわからない学習者、また、その他困ったことがある学習者には常に対応できるようにしておく必要がある。</p> <p>○ 次時の予告をする。</p> |

第2次第3時指導案

【本時の目標】

- ・ 情報の収集と整理ができるようになる。
- ・ 情報の分析や解釈ができるようになる。
- ・ 情報収集の結果をわかりやすいかたちにまとめることができる。

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のうちになるべく情報収集が終わるようにする。</li> <li>○ 情報を収集する。</li> <li>○ 情報収集が済んだ学習者から、情報収集の結果をワークシート③に記入していく。</li> <li>○ 収集した情報をどのようにまとめたらわかりやすいかを考え、ワークシート④に記入させる。</li> <li>○ 情報収集の結果をワークシート③に記入し終えた学習者から、情報の分析や解釈をし、ワークシート⑤に記入していく。</li> <li>○ ワークシート⑤に記入し終えた学習者から、今回の結果を総合的に判断しての自分の意見をワークシート⑥に記入していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館に集合させる。</li> <li>○ 本時と次時の活動内容を説明し、情報収集のためにとる時間は本時しかないことを告げる。</li> <li>○ ワークシート③・④・⑤・⑥を配布する。今回書こうとするのは「結論レポート」なのでワークシート⑥があるのだということを説明する。</li> <li>○ 前時同様、本の探し方がわからない学習者や、インターネットの利用法がわからない学習者、また、その他困ったことがある学習者には常に対応できるようにしておく必要がある。</li> <li>○ 今回の調査の結果に適した表現形式を選ばせる。例) 表・グラフ・箇条書きなど。</li> <li>○ テーマに対して、この情報から何がわかるのか、どういったことが言えるのかを書かせる。</li> <li>○ ここでもだらだら書かせない。箇条書きでも良いし、むしろそのほうが良いかもしれない。</li> <li>○ 次時の予告をする。</li> </ul> |



## 第2次第4時指導案

### 【本時の目標】

- ・ 目的・方法・結果・結論・参考文献の形式がきちんとしたレポートが書けるようになる。
- ・ 誰もが納得できるレポートが書けるようになる。

| 学習活動                                                                          | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシート①～⑦を使って、レポートを書いていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を説明する。</li> <li>○ 原稿用紙とB5の白紙を一人一枚ずつ配布する。必要があれば追加することも可能。</li> <li>○ 書きあがらなかった学習者は次の週までに書き上げて提出させる。</li> <li>○ 今後の説明をする。今後、次の週までに書き上げたレポートを回収し、文集にして全員に手渡す。それとは別に、教師が添削、評価し、良い点や改善したほうが良い点を書いてレポートを返却する。</li> </ul> |

## レポートの書き方を学習しよう！

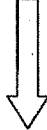
( )組( )番 氏名( )

### 1. レポートの目的について明示しよう！



まずは、何を目的として何について書いたレポートなのかを明らかにしよう。

### 2. 研究や調査の方法について説明しよう！



次に、どうやって研究や調査を行ったかを説明しよう。こうすることで、手続き上の不備がないかを、読む人に明らかにすることができるし、読む人もそれを確認することができる。

### 3. 調査の結果と考察について記述しよう！



2. の調査をしてどのような結果が出たかを記述しよう。このとき、どのように記述すると分かりやすくなるかを工夫してみよう。

例：グラフを用いる。表を用いる。図を用いる。フローチャートを用いる。

### 4. 結論を述べよう！



3. の結果から導き出される結論をまとめよう。このとき、この結論が1. で述べた目的をきちんと果たしているかを確認してみよう。また、調査結果の解釈が適切かどうかを検討してみよう。

### 5. 参考文献・資料を記載しよう！

今回のレポートを作成するときに利用した文献や資料を記載しよう。こうすることで、読む人もその文献や資料にあたることができる。また、読む人が今回の調査の内容が正しいかを確認したり、関連分野の研究のときの参考にしたりすることができるようになる。

## 【レポートの基本的なスタイル】

目的をために「テーマ」について、「方法」で調べてみたら、「結果」だったから、「結論」だ。

**「レポートを書くべし」だぜ！**

( )組( )番 氏名( )

**1. レポートの目的を書いてみよう！**

- 何を報告しようとするのかを書いてみよう

- なぜそれを報告するのか、その動機や目的を書いてみよう

**2. 研究や調査の方法を書いてみよう！**

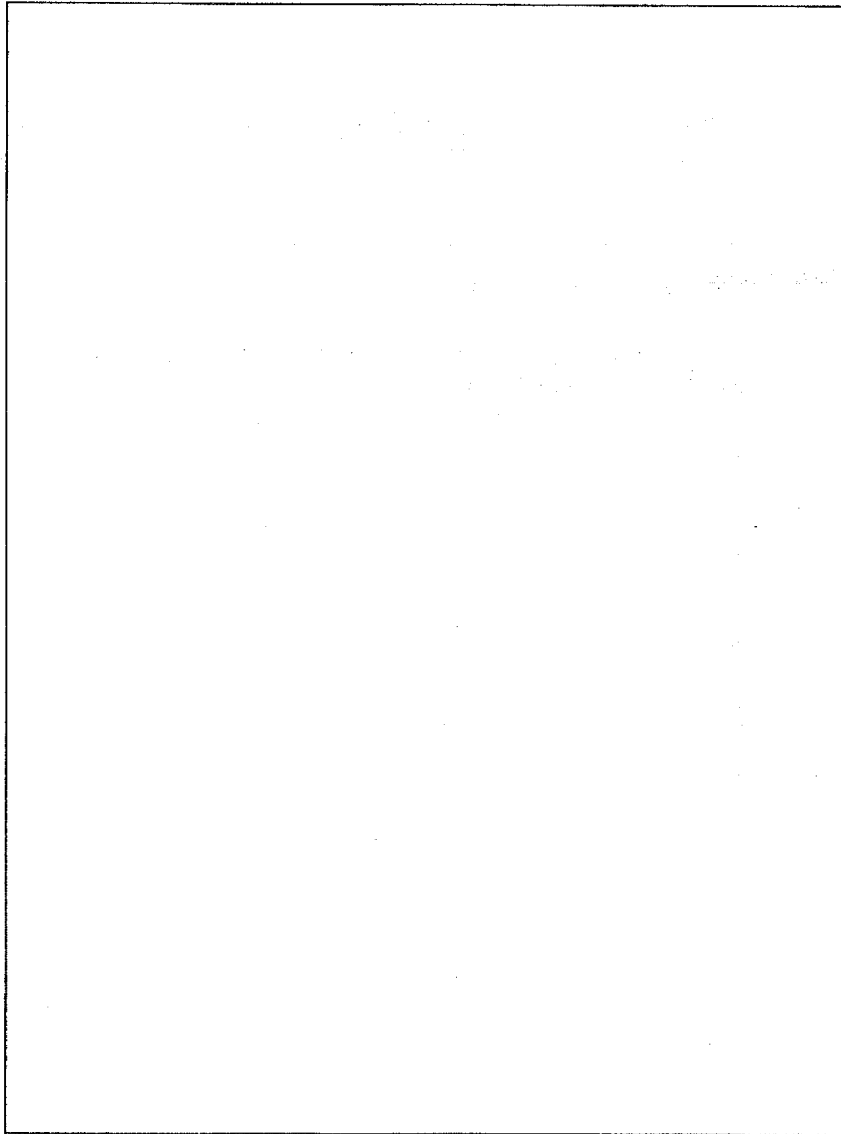
- どのような方法で情報収集をするのかを書いてみよう (複数あってもよい。具体的にできるならできるだけ具体的なほうがよい。)

「レポートを書く！」をSN

( )組( )番 氏名( )

3. 調査の結果と考察について記述しよう！

- 今回の調査の結果を好きな形で書いてみよう



### 「レポートを書こう！」その3

( )組( )番 氏名( )

- 今回の調査結果は、どういった形式で書けば読み手に伝わりやすいか考えてみよう。

- 具体化して書いてみよう

### 「レポートを書こう」その4

( )組( )番 氏名( )

- 選択した形式で、今回の調査結果をまとめてみよう。

|  |
|--|
|  |
|--|

- 1の結果から、どのようなことがわかるか、箇条書きで書いてみよう。

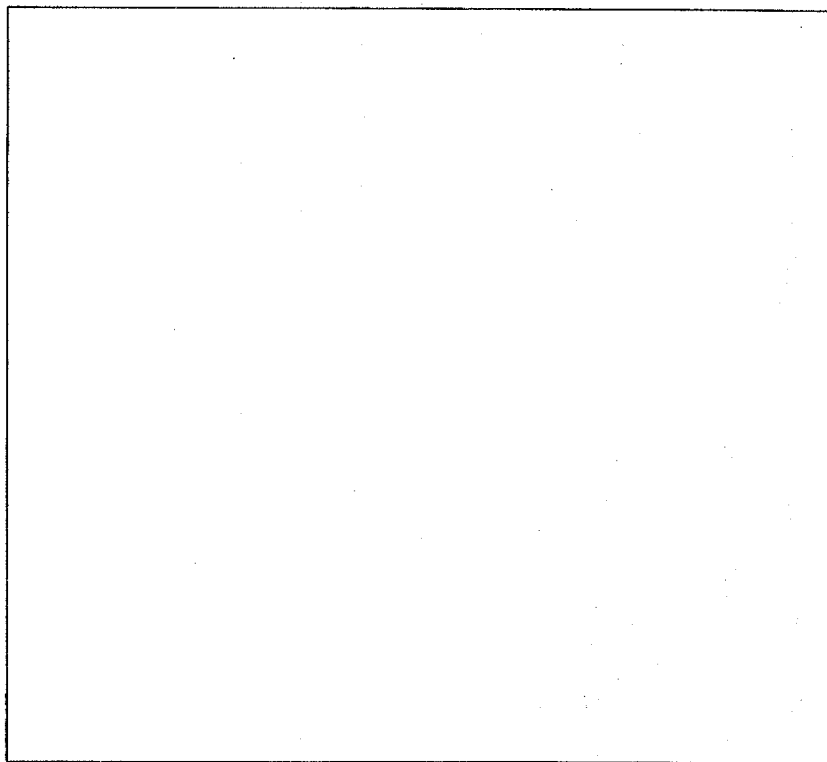
|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

「レポートを書こう」案

( )組 ( )番 氏名( )

4. 結論を述べよう。

○ 今回の調査によりわかったことをもとに、自分の意見を書いてみよう。



**参考文献・資料のデータを残しておこう！**

参考文献や資料のデータを残すことで、読み手が自分と同じ手続きでデータの確認が出来るようにしよう。そうすること  
 で、報告文の説得力や客観性がグッと増してくる。  
 それでは、例に従って自分が利用した文献や資料のデータを書き込んでみよう。

|   | 書籍名          | 著者名  | 発行年月日   | 発行所 | 備考                                                   |
|---|--------------|------|---------|-----|------------------------------------------------------|
| 例 | じぶん・この不思議な存在 | 鷲田清一 | 1996年7月 | 講談社 | 【引用】 p.23 1.13～p.27 1.1 「<わたし>になる<br>というのは～ということになる」 |
| 1 |              |      |         |     |                                                      |
| 2 |              |      |         |     |                                                      |
| 3 |              |      |         |     |                                                      |
| 4 |              |      |         |     |                                                      |
| 5 |              |      |         |     |                                                      |
| 6 |              |      |         |     |                                                      |
| 7 |              |      |         |     |                                                      |



## 「レポートを書こう！」を

( )組( )番 氏名( )

### 1. レポートの目的を書いてみよう！

- 何を報告しようとするのかを書いてみよう

私たちの学校における読書の実態

- なぜそれを報告するのか、その動機や目的を書いてみよう

今後の読書生活に役立てるため

### 2. 研究や調査の方法を書いてみよう！

- どのような方法で情報収集をするのかを書いてみよう (複数あってもよい。具体的にできるならできるだけ具体的なほうがよい。)

#### 【情報収集方法】

アンケート

#### 【アンケート調査対象】

高校一年生の二クラスに対して (男子 40 名、女子 40 名、計 80 名)

#### 【アンケート内容】

1. 一週間におよそどのくらいの本を読みますか。
  - ① 小説類
  - ② 漫画・コミック
  - ③ 週刊誌・月刊誌
2. 一日の読書時間とテレビの視聴時間はどのくらいですか。
3. 最近では、娯楽としてだけでなく、学習のための本でも漫画本が増えています。高校生が漫画を好むようになってきた理由とそれに対するあなたの意見を書いてください。

# 「レポートを書こう！」をSN

( )組( )番 氏名( )

## 3. 調査の結果と考察について記述しよう！

○ 今回の調査の結果を好きな形で書いてみよう

|                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| 1. 一週間におよぼすのくらの本を読みますか。       |           |
| ①小説類                          |           |
| 冊                             | 冊         |
| 冊以上9冊未満                       | 冊以上9冊未満   |
| 10冊以上                         | 10冊以上     |
| ②漫画                           |           |
| 冊                             | 冊         |
| 冊以上9冊未満                       | 冊以上9冊未満   |
| 10冊以上                         | 10冊以上     |
| ③週刊誌・月刊誌                      |           |
| 冊                             | 冊         |
| 冊以上9冊未満                       | 冊以上9冊未満   |
| 10冊以上                         | 10冊以上     |
| 2. 一日の読書時間とテレビの視聴時間はどのくらいですか。 |           |
| ①読書の時間                        | ②テレビの視聴時間 |
| 時間                            | 時間        |
| 時間以上                          | 時間以上      |
| 時間                            | 時間        |
| 時間以上                          | 時間以上      |
| 時間                            | 時間        |
| 時間以上                          | 時間以上      |
| 時間                            | 時間        |
| 時間以上                          | 時間以上      |
| 時間                            | 時間        |
| 時間以上                          | 時間以上      |

## 「レポートを書こう！」の③

( )組( )番 氏名( )

- 今回の調査結果は、どっぴった形式で書けば読み手に伝わりやすいか考えてみよう。

|          |       |          |
|----------|-------|----------|
| 「アンケート1」 | ..... | 表 or グラフ |
| 「アンケート2」 | ..... | 表 or グラフ |
| 「アンケート3」 | ..... | 箇条書き     |

- 具体化して書いてみよう

例は、参考資料「調査結果表現法例集」に掲載。

# 「レポートを書こう！」その4

( )組( )番 氏名( )

○ 選択した形式で、今回の調査結果をまとめてみよう。

| アンケート1の結果 |    |    |     |    |  |  |  |  |  |     |
|-----------|----|----|-----|----|--|--|--|--|--|-----|
| 冊数        |    |    |     |    |  |  |  |  |  | 合計  |
| 漫画        | 3  | 6  | 7   | 0  |  |  |  |  |  | 16人 |
| 小説        | 2  | 8  | 1   |    |  |  |  |  |  | 11人 |
| 雑誌        | 5  | 13 | 2   |    |  |  |  |  |  | 20人 |
|           | 23 | 10 | 4   | 2  |  |  |  |  |  | 39人 |
|           | 21 | 15 | 1   | 3  |  |  |  |  |  | 40人 |
|           | 11 | 12 | 0   | 4  |  |  |  |  |  | 27人 |
|           | 4  | 18 | 0   | 5  |  |  |  |  |  | 27人 |
|           | 3  | 12 | 0   | 5  |  |  |  |  |  | 20人 |
|           | 0  | 8  | 0   | 10 |  |  |  |  |  | 18人 |
|           | 80 | 80 | 180 |    |  |  |  |  |  | 80人 |

| アンケート2の結果 |    |    |   |  |  |  |  |  |  |     |
|-----------|----|----|---|--|--|--|--|--|--|-----|
| 時間        |    |    |   |  |  |  |  |  |  | 合計  |
| 監督        | 4  | 18 | 0 |  |  |  |  |  |  | 22人 |
| テレビ       | 24 | 50 | 1 |  |  |  |  |  |  | 75人 |
|           | 40 | 9  | 2 |  |  |  |  |  |  | 51人 |
|           | 9  | 3  | 3 |  |  |  |  |  |  | 15人 |
|           | 3  | 0  | 4 |  |  |  |  |  |  | 7人  |
|           | 0  | 0  | 5 |  |  |  |  |  |  | 5人  |
|           | 80 | 80 |   |  |  |  |  |  |  | 80人 |

アンケート3の結果

- 漫画を好む理由
  - 漫画のほらがわかりやすく、頭によく入るから。(32人)
  - 時だけよりも、絵があったほうが読みやすいから。(26人)
  - 子供の文字嫌いが増えたから。(9人)
  - 遊びの感覚で気軽に学習できるから。(9人)
- 漫画を好む傾向への意見
 

(肯定的)

  - 読みやすく、話の筋がよくわかる。(12人)
  - 堅苦しくなく、容易に知識が身につく。(7人)
  - 小説よりも読んでみろっという気持ちになれる。(6人)
  - 歴史の年号や数学の公式を覚えやすくていい。(5人)

(否定的)

  - 文字離れがさらに進むので、読書しない。
  - 漫画では本当の物語はとれないし、専門的な知識は身につかない。
  - 漫画だと漫画を根拠しなくていいので、想像力を伸ばすことができない。

○ この結果から、どのようなことがわかるか、箇条書きで書いてみよう。

|                                          |
|------------------------------------------|
| 小説よりも、漫画や雑誌を読む人のほうがかなり多い。                |
| テレビの視聴時間だけでなく、読書の時間もとても多い。               |
| 数は少ないが、一日三時間以上読書する人や漫画より小説のほらを好んで読む人がいた。 |
| 漫画を好む傾向に近づいて、それによって他の読書量も減っている。          |
|                                          |
|                                          |

## 調査結果表現法例集 I

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

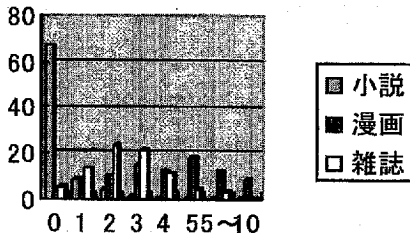


図 1 調査結果表現法 1

【特徴】  
どの種類の本が何冊くらい読まれているのかが見やすい。

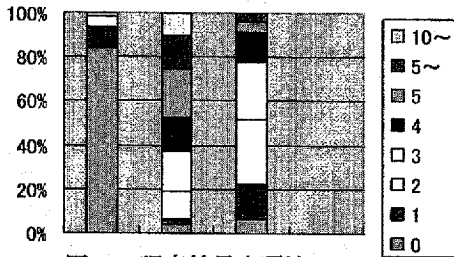


図 2 調査結果表現法 2

【特徴】  
それぞれの種類の本について、何冊くらい読む人の割合が多いのを見やすい。

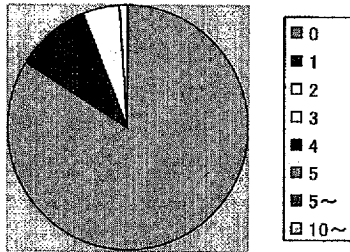


図 3 調査結果表現法 3  
(小説)

【特徴】  
一つの種類の本について、何冊くらい読む人の割合が多いのを見やすい。  
3つ並べれば、それぞれの割合を見ることもできる。

## 6. 授業のポイント

本授業のポイントは二つある。一つは、本授業の根幹にある、「社会では要求されながらも学校教育の場では教えられることが少ない」レポートの書き方を教えていることである。もう一つは、レポートの書き方を定式化したことである。定式化することによって、レポートを書くだけでなく、読むことまでも楽にできるようになると考える。

この二つの点が、今までのレポート教育に私なりの独自性を加えた部分であると言えるだろう。

## 7. 今後の課題

今後の課題として5点挙げておく。

第一に挙げなければならないのは、実践を踏まえての改善である。今回の授業案は、飽くまで机上の空論に過ぎない。そこに実際の生きた生徒はいない。理論は実践と両輪をなしてはじめて前に進む力を持つ。今回はその「実践」が欠けているため、非常に空虚なものになってしまっている。実践をし、そこから学び、また改善していく必要があるだろう。

第二の課題は、先行事例を踏まえての改善である。今回、授業を構想するにあたって、あまり多くの先行事例を見ることがなかった。そのため、先行事例を踏まえての改善や先行事例のよい部分の踏襲などをすることができていない。だから、今後は、先行事例を見、そのよい点・悪い点を分析し、今回の授業に生かせるのか生かせないのかを検討し、生かせるものは積極的に組み込んでいく、というステップを踏んでどんどん改善していく必要があるだろう。

第三の課題は、授業のまとめの再考である。今回提示した授業案では、文集形式にまとめて生徒全員に返す形をとっている。また、それとは別に、一人一人に添削した報告文を返却することになっている。これはこれで確かに一つの授業の形ではあると思う。しかし、もっとよい方法があるのではないかとも思っている。発表会などをしてもよかったのかもしれない。第一、第二の課題とも関わるが、先行事例、実践などを踏まえてこの辺りをもっとつめていきたい。

第四の課題は、入試との関連づけの方法を考えることである。現在、AO入試などで、報告文を課すところがあるようだ。しかし、今回はそのあたりのことはあまり視野に入れていない。そうした試験問題なども導入してより厚みがあり、なおかつ生徒のモチベーションをある程度保てる授業を構想していく必要があるだろう。

第五の課題は、『報告対象意識』を持たせる方法を考案することである。『報告対象意識』とは、誰に伝えるのかの意識のことである。対象によって報告の深さや広さは変わってくるし、そこに用いる言葉も変わってくる。だから、きちんと報告する相手を見据えておく必要がある。しかし、今回の授業では、その点にあ

まり深く踏み込んでいない。今後、『報告対象意識』を持たせる方法を考案し、それをこの授業に組み込んでいく必要があるだろう。

以上5点を、本授業が今後に残した課題とする。

#### 参考文献

江端義夫編『高校実用国語表現教室』広島大学教育学部国語文化教育学研究室、2002

江端義夫ほか『高等学校 国語表現Ⅰ』第一学習社、2003

江端義夫ほか『高等学校 国語表現Ⅰ 指導と研究 下巻』第一学習者、2003

苅谷剛彦『知的複眼思考法——誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α文庫、2002

工藤順一『国語のできる子どもを育てる』講談社現代新書、1999

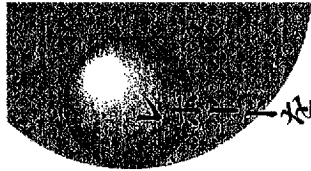
澤田昭夫『論文のレトリック』講談社学術文庫、1983

澤田昭夫『論文の書き方』講談社学術文庫、1977

樋口裕一『樋口裕一の小論文トレーニング』ブックマン社、2000

樋口裕一『ホンモノの文章力——自分を売り込む技術』集英社新書、2000

平田毅彦『ビジネス文書書式・文例集 374』成美堂出版、2002



# レポートを書く



レポートにはさまざまな種類があるが、ここでは学校における研究や調査をもとにした報告文の書き方と、それを人前で発表する場面の留意点について学習しよう。

## レポートの種類

### ① レポートの目的について明示する。

レポートを書く場合には、まず何を報告するためのものであるかを明らかにする。すなわち、レポートの課題や目的をはっきりと認識しながら、研究や調査の結果が明確になるように書く必要がある。

### ② 研究や調査の方法について説明する。

研究の方法や資料の収集方法を、できるだけ具体的に説明しておく。そうすることで、報告する内容を正確に客観的なものであることを示すことができる。

### ③ 調査の結果と考察について記述する。

研究や調査から得た結果を明示し、収集した資料によって考察した内容を順次述べていく。報告が長文にわたるときは、見出し・小見出しをつけながら書いていくと、読みやすく、内容の理解も容易になる。研究・調査の結果は、グラフを用いて提示する場合もある。

る。

### ④ 結論をまとめる。

この研究調査によって得た結論を、レポートの最後にはまとめる。まとめる場合には、簡潔を心がけておくとうかがやすい。

### ⑤ 参考文献・資料を記載する。

必要に応じて、書物や資料からの「引用」を用いながら書いていくと、レポートに客観性や具体性を増したり、読者の興味を維持させたりするのに効果的である。その場合には、引用部分に、参考とした書籍名や資料名などを必ず示す。そして、レポートの最後には「参考文献」として、著者名・書籍名・発行年月日・発行所、資料名・発行機関・調査年月日、引用した箇所のパージなどを記載しておく必要がある。

## 発表時の留意点

自分の書いたレポートをただ黙読するのではなく、聞き手に内容がよく理解できるように適切な言葉を加える。声の大きさを聞き手についても、常に聞き取りやすいように配慮しながら発表する。

発表内容についての資料(①シエス)を準備して、聞き手に渡す。資料は、聞き手の理解を十分に助けるかどうかを考慮して作成する。

図表やグラフを利用したり、あるいは、①②③やパソコンなどの機器を効果的に使ったりして発表すると、いっそう聞き手の理解を得ることになる。

## レポートの種類

### ① 研究報告 自分の調査や研究した結果の報告。

〈全編・資料による調査報告・動物の調査・研究報告 各種実験の発表報告〉

### ② 実践報告 実践の状況や課題の報告。

〈活動記・学習記・発表記・授業記〉

### ③ 企画報告 将来における計画や企画の報告。

〈企画企画案・事業企画書・販路計画書〉

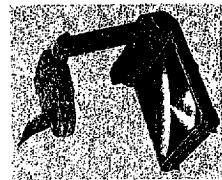
### ④ 実践報告 規定の問題に対する解答や判断の報告。

〈全国大会等の行事・発表報告書・発表要綱報告書〉

①聞き手の理解を十分に助ける「資料」を作るためには、どのようなことに気を配らなければならないか、考えてみよう。

①②③ résumé シュメ

④⑤ H.P. overhead projector の略。説明用シートは手帳もしりぎりぎりだった。発表資料を、聞き手に「ペーパー」に写し出す。







# 私たちの学校における読書の実態

生徒作品

## I 調査の目的

最近の学校生活は読書が中心とされる。また、書店では小説よりも漫画本やコミック本、そして雑誌の類が書籍の大部分を占めるようになってきている。そこで、今後の読書生活に役立つことを目的として、私たちの学校における読書の実態を調べてみることにした。

## II 調査の方法

本校一年生三クラス(男子四十名、女子四十名、計八十名)を対象に、次のような項目について調査を実施した。

- 1 一週間にどのくらいの本を読んだか。
  - ①小説類 ②漫画「コミック」 ③週刊誌、月刊誌
- 2 一日の読書時間とテレビの視聴時間
- 3 最近では、娯楽としてだけでなく、学習のための本でも漫画本が増えています。読書生活と漫画をどのように関連させているか、それに対するあなたの意見を書いてください。

だが、少数ではあるが、小説を「一週間に二―三冊読む人」や「一日に三時間以上読書をする人」がいた。

## ●アンケート1, 2の結果

### 1 漫画を読む理由

- 漫画のほろがわかりやすい、既によく入るから。(2人)
- 字だけでなく、絵が面白く読めるから。(2人)
- 子供の想像力が増えるから。(9人)
- 読むの感覚で知識が蓄積できるから。(9人)

### 2 漫画を読む傾向の意見

- 読みやすい、語の類がよくわかる。(2人)
  - 読みやすい、絵と知識が身につく。(2人)
  - 小説よりも読むスピードが速く読める。(9人)
  - 漫画のペースが緩やかなので、内容を覚える。(9人)
- 以上のように、漫画を読む傾向を肯定する意見が多かったが、その傾向を否定する次のような意見もあった。
- 内容が面白くないので、つまらない。
  - 漫画では本当の知識はほとんどない、専門的な知識は身につかない。
  - 漫画だと内容を覚えるだけでなく、想像力を伸ばすことにはならない。

## III 結果と考察

### ●アンケート1, 2の結果

#### 1 一週間の読書量

| 読書量 | 5 | 3 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 |
|-----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 人数  | 5 | 3 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 |

#### 2 一日の読書時間とテレビの視聴時間

| 読書時間 | 4 | 18 | 50 | 9 | 3 | 0 | 0 | 80 |
|------|---|----|----|---|---|---|---|----|
| テレビ  | 4 | 18 | 50 | 9 | 3 | 0 | 0 | 80 |

アンケート2の結果から、一日の読書時間は全体の八五パーセントの人が一時間以下であることがわかった。テレビの視聴時間では六五パーセントの人が三時間以上であるのに対して、一日の読書時間はかなり短い。しかも、読書の種類は、漫画・コミック類や週刊誌、月刊誌がほとんどであった。小説類は、調査前に手刺したとおり、やはり少なかった。

## IV まとめ

このアンケート調査によって、次のようなことがわかった。

- 1 小説よりも、漫画や雑誌を読む人のほうがかなり多い。
- 2 テレビの視聴時間と比べて、読書の時間がとても少ない。
- 3 数は少ないが、一日三時間以上読書する人や漫画より小説のほうを好んで読む人がいた。
- 4 漫画を読む傾向について、それぞれがしっかりと意見を持っている。

このアンケート結果を、自ら自らの読書について反省する機会にし、今後の読書生活に生かしてほしい。

## 学習

- ① 生徒作品の中から、内容を構成面で工夫されている本をあげてみよう。
- ② 次のいずれかのテーマで調査・研究をし、その結果をレポートまとめて発表してみよう。
  - 1 一週間に読書をする回数と時間、その内容
  - 2 読書とテレビの視聴時間、仕事とその理由
- ③ 次のおたがなを漢字に直しなさい。
  - 1 調査の結果をすくつかる。
  - 2 キャットマンをたぐる。
  - 3 興味をシソクをせる。

# 情報の収集と整理

## 調査・収集の留意点

- ① 実態や現状・調査によって収集する。  
 実態に異議をきたしたり、あるいは、現地に出かけて実態に観察・調査したりして、必要な情報を収集する。  
 また、アンケートやインタビューを実施することによって、必要なデータを収集する場合もある。

## ② 文献や資料によって収集する。

### 1 事典の利用

事典には、百科事典をはじめとして、多種多様な事典がある。辞書・辞書データベースに当たって、最も適切な事典を利用して情報を収集する。

### 2 統計資料の利用

政府や地方公共団体が発行している統計資料やデータベースの中から、必要な情報を収集する。

### 3 研究論文の利用

雑誌・研究しようとするテーマについての研究論文・資料を利用して、情報を収集する。

## ③ 図書館を利用して収集する。(※後述を参照)

学校の図書館や地域の図書館に直接出かけては、書籍や雑誌を閲覧する。また、図書館のレファレンス・サービスを利用してする方法もある。

## ④ インターネットによって収集する。(※前記を参照)

インターネットのホームページから必要な情報を検索して、それを収集する。ホームページでは、かなり専門的な情報は、検索窓から閲覧することができ、文字だけでなく、画像や音声を合わせて収集することもできる。

## ⑤ 収集した情報の保存方法

- 1 記帳用のノートに必要事項を記入して保存しておく。
  - 2 インターネットや電子メールアドレスなどは、音聲や映像を保存しておく。
  - 3 パソコンやフラッシュメモリーカードなどは情報を入力して保存しておく。
- なお、収集した情報に見出し語やタイトルなどをとり、整理・保存しておくこと、後で検索しやすい。

## おわりに

国語表現の指導は裾野が広く、厚みもある。様々な視野を導入して、多くの試みをしていかななくてはならない。文章の種類も多様である。それぞれの目的に即した指導方法が必要である。それ以前に、歴史的な観点に基づいて、いろいろな文章に触れさせて、文体の独自性やそれらがその形を見せる必然性についても考えさせていかななくてはならない。

今回は、乱暴にも、四人の学部生(三年生後期)に課題学習をさせた。彼らに国語表現指導の演習をさせた。江端ゼミでの演習結果について、八回分を掲載することにした。八回分のテーマについては江端が指定したけれども、各自の指導案作りは、それぞれの独創に任せた。一人、二回分のテーマとした。彼らは、一所懸命に知恵を出して、指導案を工夫し生み出したようである。私の出した課題の意図を懸命に推し量って、高校生の小論文指導についての理想を追いかけたというところかと思われる。

ただし、生徒の理解力を高く設定しすぎていて、必ずしも、直ぐに実践できないものもありそうである。それは、致し方の無いところかと思われる。経験不足なので、理論倒れになっているものもある。具体的な作業を通して生徒を引っ張っていく、という熟練者の取る方法も十分には出来ていない。しかし、小論文指導の取り組みが少ない現状では、これでも良い。どんどん、こういう指導案の試みがなされていくことが大切である。工夫の見られる指導案が蓄積されていくことにより、全国各地の高校で、それぞれの学校の実状に合った指導案を選択していくことにでもなれば良いのである。

わたくしどもは、従来「説明的文章」との言い方で分類されていた文章を、「説得文」と言い換えることによって、鮮明な問題意識を浮き上がらせることに成功した。教育現場で「説明文」の定義に苦しんでいた人が多かった。しかし、「説得文」とすれば、どんな意見文や説明文でも、読み手を説得して、訴えかけるための文章であることに気づく。目的意識が明確になれば、効果的な文章が書ける。誰に何をどんな方法で、どこまで説得するかということ、及びその限界を心得つつ書くことが出来るようになる。こういう理性的な文章指導は、大切である。(「感動」ばかりを追いかけてきた従来からの作文教育への反省の一つには、なるであろうか。作文嫌いな子も小論文好きにはなるであろう。)

新しい提案も沢山、盛り込んだ。どうぞ、ごゆっくりとお読みいただき、何かの参考になさっていただければ、幸いである。まだまだ、観念的だったり、抽象的すぎたりして、具体性に欠けるところが多い。さらに、精進していかななくてはならないと思われる。

(江端)

## 『 誰にでも書ける小論文の指導 』

The teaching methods on the papers  
which everyone can write

印刷日 平成 16 年 2 月 20 日

発行日 平成 16 年 2 月 29 日

編集発行 739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科

国語文化教育学研究室

江端義夫(代表)

Ebata Yoshio

1-1-1, Kagamiyama, Higashi-Hiroshima City,

739-8524 Japan

電話 0824-24-6789

FAX 0824-24-6789

製本 ニシキプリント